

作業療法学科 昼間部			令和2年度改定新カリキュラム							
ページ	授業科目	講師	1年		2年		3年		4年	
			単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間
170	統計学	手塚 雅之	1	24						
171	情報科学	大倉 久美子	2	30						
172	心理学	島津 直実	2	30						
173	哲学	井上 環	1	24						
174	教育学	井上 環	1	24						
175	英語	黒木 豊域	2	30						
176	保健体育	小平 健太郎	2	30						
177	社会学	石川 秀志	1	24						
178	人間関係論	深瀬 勝久	2	30						
179	解剖学Ⅰ	肥後 心平	1	30						
180	解剖学Ⅱ	澤井 信彦	1	30						
181	解剖学Ⅲ	春原 正隆	1	30						
182	生理学Ⅰ	黒澤 美枝子	1	30						
183	生理学Ⅱ	黒澤 美枝子	1	30						
184	生理学実習	坪井 美行 他	1	30						
185	機能解剖学Ⅰ	福澤 阿弾	1	30						
186	機能解剖学Ⅱ	福澤 阿弾	1	30						
187	機能解剖学Ⅲ	阿部 英人	1	30						
188	運動学Ⅰ	栗原 美里	1	30						
189	人間発達学	石川 晴	1	30						
190	臨床心理学	島津 直実	2	30						
191	小児科学	高木篤史 他	1	15						
192	精神医学	埜崎 都代子	2	30						
193	リハビリテーション医学概論Ⅰ	草野 修輔	2	30						
194	作業療法概論	大倉 久美子	1	30						
195	基礎作業学	大倉 久美子	1	24						
196	基礎作業学演習	栗原 美里・田中 英之	1	30						
197	体験実習	深瀬 勝久・栗原 美里	1	45						
198	身体障害評価学Ⅰ	福澤 阿弾	1	30						
199	作業療法基礎演習Ⅰ	福澤 阿弾	1	30						
200	運動学Ⅱ	栗原 美里			1	30				
201	運動学実習	栗原 美里			1	30				
202	病理学概論	ブルカット・アルミラ			1	15				
203	内科学・老年学Ⅰ	佐久間 肇			2	30				
204	内科学・老年学Ⅱ	佐久間 肇			2	30				
205	整形外科学Ⅰ	植松 卓哉（代表）			2	30				

206	整形外科学Ⅱ	植松 卓哉（代表）			2	30				
207	神経内科学Ⅰ	加藤 陽久			2	30				
208	神経内科学Ⅱ	加藤 陽久			2	30				
209	リハビリテーション医学概論Ⅱ	石川 秀志 他			2	30				
210	地域実習セミナー	阿部 英人			1	30				
211	作業療法管理学	五十嵐 千代子			2	30				
212	身体障害評価学Ⅱ	五十嵐 千代子・伴野 麻矢			2	48				
213	身体障害評価学演習	伴野 麻矢			1	45				
214	精神障害評価学	手塚 雅之			1	30				
215	発達障害評価学	大西 麓子			1	30				
216	作業療法基礎演習Ⅱ	阿部・大西・手塚			2	60				
217	身体障害治療学Ⅰ	阿部 英人・五十嵐 千代子			1	30				
218	身体障害治療学Ⅱ	柴田 美雅・伴野 麻矢			1	30				
219	精神障害治療学Ⅰ	山下 高介			1	30				
220	精神障害治療学Ⅱ	山下 高介			1	30				
221	発達障害治療学Ⅰ	大西 麓子・小山 和代			1	30				
222	発達障害治療学Ⅱ	大西 麓子・小山 和代			1	30				
223	日常生活活動学	柴田 美雅			1	30				
224	地域作業療法学Ⅰ	柴田 美雅			2	30				
225	地域実習	OT学科教員			1	45				
226	作業療法研究法	手塚 雅之					1	15		
227	作業療法特講	OT学科教員					1	24		
228	作業療法総合演習Ⅰ	OT学科教員					2	60		
229	作業療法臨床セミナーⅠ	OT学科教員					2	60		
230	身体障害治療学Ⅲ	仲木 右京					1	30		
231	身体障害治療学演習	伴野 麻矢					1	45		
232	精神障害治療学演習	手塚 雅之					1	45		
233	発達障害治療学演習	大西・小山・佐々木・馬場					1	30		
234	老年期障害治療学	阿部 英人					2	60		
235	日常生活活動学演習	五十嵐 千代子					1	45		
236	高次脳機能障害治療学	伴野 麻矢					1	30		
237	職業関連活動学	柴田 美雅					1	30		
238	作業療法総合演習Ⅱ	OT学科教員					2	60		
239	臨床実習Ⅰ	OT学科教員					6	270		
240	作業療法特論	OT学科教員							12	360
241	作業療法臨床セミナーⅡ	OT学科教員							2	60
242	地域作業療法学Ⅱ	栗原 美里							2	30
243	臨床実習Ⅱ	OT学科教員							16	720
			38	870	37	843	23	804	32	1170

科 目	統計学	単位・時間数	1単位・24時間
担当講師	手塚 雅之	学 年	1年生 前期
実績経験	資格	精神科病院の臨床経験 8 年、「専門学校」を中心に教育歴 2 0 年。養成教育にたずさわりながら、身障系病院、高齢者施設、精神病院などでも経験を重ねた。それらの実務経験をもとに講義を行う。	
	作業療法士・健康運動実践指導者 ・修士（学術）		

授業の位置づけ	現在、医療・福祉の領域では裏付けのあるデータに基づいた治療を進めることが大前提となっており、学会発表や新しい治療法の確立の際などにも統計処理がされることが多くなっている。リハビリテーション領域についても統計処理が用いられることが当たり前となってきたため、初学者向けになるべく身近な例を提示し、わかりやすい資料を用いて解説し、統計学を身近に感じてもらうことを目指す。		
到達目標	（１）統計学の基礎事項について説明できる。（２）裏付けのある医療を進める際に、統計処理が用いられていることを説明できる。（３）社会的なデータを自分なりに解釈し、自分の意見を述べることができる。		
授業形態	講義・演習	対面と遠隔の併用授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	統計学の概要	科学的思考と統計学。記述統計、平均、中央値。
2回	統計学の基礎（１）	ヒストグラム、尺度
3回	統計学の基礎（２）	ばらつき、偏差、分散
4回	正規分布	正規分布と仮設検定
5回	正規分布の使用	平均値の比較（t 検定）
6回	統計処理について	EBMと統計処理
7回	各種検定（１）	相関関係
8回	データの活用	社会動向と統計
9回	検定の実際	クラス内における実際のデータと統計検定
10回	各種検定（２）	各種統計データ
11回	各種検定（３）	回帰分析・分散分析
12回	データと解釈	社会的データと解釈

成績評価	試験100%	受講上のルール・留意点	3分の1を超える授業時間数を欠席したものは試験が受けられない。
------	--------	-------------	---------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは全体に実施する

	書名	著書名	出版社名
教科書	なし（資料を配布する）		
参考書	・PT/OTのための統計学入門	渡邊宗孝、寺見春恵、金子翼	三輪書店
オフィスアワー	・「木曜日以外」または「メールで相談可」 ・上記以外でも、空いている時間は対応可能です。		

科 目	情報科学	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	大倉久美子	学 年	1年生 前期
実績経験	資格	作業療法士として、急性期～回復期病棟での勤務を経て、訪問看護ステーションやクリニックでの訪問・通所リハビリテーションを経験。それらの実務経験を活かして講義を行う。	
	作業療法士		

授業の位置づけ	現在、IT（information technology）が発達し、情報機器が生活のすみずみに入り込んでいる。若い世代の間でも情報ツール抜きには生活が成り立たなくなっており、卒後に働くであろう医療・福祉の業界では仕事を進めるにあたって様々な情報機器を使いこなす必要がある。スマートフォン以外では、パソコンの操作、ワード・エクセル・パワーポイント、メールでの送受信などは基本技能として身に着けて置く必要があるため、情報リテラシーに関する基本的知識とあわせて解説する。授業方法は「講義」を間に挟みながら「演習」を中心に進める。		
到達目標	（１）個人情報の取り扱いに関する基本事項、SNS利用の際の注意点などについて説明でき、社会的モラルを尊重して行動できる。（２）パソコンの基本操作、ワード・エクセル・パワーポイントの操作、メールの送受信、グーグルクラスルームを扱うことができる。（３）情報機器に関するセキュリティ管理について説明できる。		
授業形態	講義・演習	対面と遠隔の併用授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	授業オリエンテーション／メール送受信	授業概要の説明。メールの送受信、Gmailの使い方、宛先、Cc、Bcc、添付ファイルを使う
2回	ワープロソフト（１）	ワープロソフトで文章を作る。起動・終了、ファイルの新規作成と保存、ファイルの開き方と上書保存
3回	クラスルーム（１）	ドライブのひとつである「クラスルーム」を使う（クラスルームとは、クラスルームの使い方）
4回	クラスルーム（２）	「クラスルーム」を使う（クラスルームでレポート課題を見る、レポート課題を提出する）
5回	ワープロソフト（２）	ワープロソフトを使って文章を作る 表、罫線、作画、画像や表の挿入
6回	ワープロソフト（３）	ワープロソフトで文章を作る。文書の保存、フォルダーの作成、フォルダーの整理。
7回	インターネット	インターネット検索 情報検索の必要性と効率化、検索エンジン利用の心得、注意すべきこと
8回	ドライブ	ドライブとは、ドライブの使い方、ドライブの中の資料を閲覧する、取り出す
9回	表計算ソフト（１）	表計算ソフト「エクセル」について。エクセルとは。
10回	表計算ソフト（２）	表計算ソフト「エクセル」について。表を作成し、簡単な計算を行う。
11回	表計算ソフト（３）	表計算ソフト「エクセル」について。表を作成して、グラフを描く
12回	プレゼンテーション（１）	パワーポイントの使い方を知る（作成、保存） パワーポイントとは、パワーポイントで作成する
13回	プレゼンテーション（２）	パワーポイントで作成した資料を手直しする（色彩、大きさ、背景など）
14回	プレゼンテーション（３）	作成したパワーポイントを使って発表してみる
15回	まとめ	提出課題の説明と準備（これまで学んできたさまざまなことからテーマを選び、レポート課題を考える。そして、レポートを作成して提出する）

成績評価	課題100%（発表等含む）	受講上のルール・留意点	3分の1を超える授業時間数を欠席したものは試験が受けられない。
------	---------------	-------------	---------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは全体に実施する

	書名	著書名	出版社名
教科書	・30時間でマスター Word&Excel2021 ・30時間でマスタープレゼン+PowerPoint2021	実教出版企画開発部編	実教出版
参考書	・SNSにおける個人情報取り扱いガイドブック	吉岡譲治	日本看護学校協議会
オフィスアワー	随時（木曜日は不在）		

作業療法 学科 昼 間 部			
科 目	心理学	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	島津直実	学 年	1年生 前期
実績経験	資格	精神科クリニックにて心理士経験のある教員が、心理学に関する基本的な知見について概説する。	
	公認心理師		

授業の位置づけ	心理学は人の心理・精神活動と仕組みを科学的方法を用いて研究する学問である。心理学が扱う領域は幅広い。本講義では、その中から社会心理学，学習心理学，発達心理学，認知心理学，感情心理学，パーソナリティ心理学について取り上げ，基礎的な知見を概説する。		
到達目標	社会，学習，発達，認知，感情，パーソナリティの各領域における心理学の基本的な知識を習得し，説明することができる。「こころ」を理解するための科学的枠組みを学び，心理学の視点から自らの考えを述べることができる。心理学を日常生活の中で実践的に活かすことができる。		
授業形態	講義	遠隔授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	心理学への招待	本講義の概要
2回	社会心理学 1	コミュニケーション
3回	社会心理学 2	対人魅力
4回	学習心理学 1	古典的条件づけ
5回	学習心理学 2	道具的条件づけ
6回	発達心理学 1	ライフサイクル 1 青年期まで
7回	発達心理学 2	ライフサイクル 2 成人期以降
8回	発達心理学 3	知能
9回	認知心理学 1	認知と感情
10回	認知心理学 2	注意と日常認知
11回	感情心理学 1	感情の生起
12回	感情心理学 2	感情のもたらす影響
13回	パーソナリティ心理学 1	類型論
14回	パーソナリティ心理学 2	特性論
15回	まとめ	本講義のまとめ

成績評価	まとめテスト70%および小テストや発表等30%。授業時間数の 3 分の 1 以上欠席した者には単位を与えません。	受講上のルール・留意点	事前学習として教科書の該当箇所を読んでください。また，事後学習として配布資料および授業ノートを読み返し，専門用語の意味などを確認しノートにまとめ，理解を深めてください。テストは最終回に実施します。
------	--	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
FBは全体に実施します。

	書名	著書名	出版社名
教科書	心理学・入門 -- 心理学はこんなに面白い 改訂版	サトウ タツヤ・ 渡邊 芳之	有斐閣アルマ
参考書			
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

作業療法学科				昼 間 部	
科 目	哲学		単位・時間数	1単位・24時間	
担当講師	井上 環		学 年	1年生 前期	
実績経験	資格				
	教育学博士課程 (満期退学)				
授業の 位置づけ	生命倫理、とりわけ医療倫理に関わるトピックについて概説します。臨床の場に立ち、他者の生に関わり介入をしていくことには、「その場面でどのような行為が最善であるか」という倫理的な問いがついて回ります。この問いは、なにより個別具体的な状況のなかで都度判断されるものですが、それらの判断を背後で支えるのは、科学や医療技術・生命倫理をめぐる歴史的・現代的な状況の認識や知識だと言えます。この授業では、そうした倫理的判断の手助けとなるような概念的な道具立ての獲得を、講義とともに「哲学対話」と呼ばれる実践を重ねながら目指していきます。				
到達目標	生命倫理に関わる重要な概念や論点を理解している。 上記を踏まえて、自身の考えを深めそれを適切に表現することができる。 対話を通じた他者との協同的な探究に参加し、その成果を考察・表現することができる。				
授業形態	講義		対面授業		
授業計画					
回数	項目	講義内容			
1回	ガイダンス	授業の概要・進め方・評価方法、哲学対話とは何か			
2回	生命倫理学の歴史	20世紀アメリカにおける生命倫理学の展開			
3回	哲学対話 [1]	日常における問い			
4回	医療倫理	医療倫理の四原則、医師-患者関係の変遷			
5回	インフォームド・コンセント	インフォームド・コンセントの歴史的背景と論点			
6回	終末期医療	緩和ケア・鎮静、終末期医療の諸問題			
7回	哲学対話 [2]	生命倫理・医療倫理における問い			
8回	老いと医療	高齢者医療の諸問題、「老い」をめぐる問い			
9回	障害者・病者への差別と排除	障害者・病者への差別と排除の歴史			
10回	ケアの倫理・臨床哲学	キュアとケア、ケアの倫理・臨床哲学の議論			
11回	哲学対話 [3]	生命倫理・医療倫理における問い			
12回	まとめ	レポート作成とその注意点			
成績評価	①各回における小テスト・小レポート (60%) ②学期末レポート (40%)	受講上のルール・留意点	学期末レポートでは、それまでの授業で行われた議論を踏まえた上で、皆さん自身で自由に問いを設定しそれに応答してもらいます。分量は1,500～2,000字程度を予定しています。「哲学対話」の概要については授業内で説明します。また、各講義のテーマや哲学対話の進め方については、実際の授業の進行状況を見ながら修正を行っていく場合があります。		
課題やレポートに関するフィードバック					
課題へのフィードバックは、授業内で全体に対し実施するとともに、必要に応じてGoogle Classroom上での個別的な対応を行います。					
	書名	著書名		出版社名	
教科書	なし				
参考書	①『はじめて出会う生命倫理』 ②『テーマで読み解く生命倫理』	①玉井真理子・大谷いづみ編 ②小泉博明・井上兼生・今村博幸・吉田修馬編著		①有斐閣アルマ ②教育出版	
オフィスアワー	授業前後の休憩時間、メール・Google Classroomでの相談				

科目	教育学	単位・時間数	1単位・24時間
担当講師	井上 環	学 年	1年生 前期
実績経験	資格		
	教育学博士課程 (満期退学)		

授業の位置づけ	教育学のトピックについて概説します。対人的な営みであるリハビリには、相手に「教える」という働きかけが欠かせません。教育学を学ぶことは、そうしたコミュニケーションのあり方を磨くことに関わっています。同時にそれは、皆さん自身の日々の成長や学びを捉え直すことや、現代の社会や文化への理解を深めることにもつながっています。これらについて、この授業では講義とともに「哲学対話」と呼ばれる実践を重ねながら、共に考えていくことを目指します。		
到達目標	教育学に関わる重要な概念や論点を理解している。 上記を踏まえて、自身の考えを深めそれを適切に表現することができる。 対話を通じた他者との協同的な探究に参加し、その成果を考察・表現することができる。		
授業形態	講義	対面授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	ガイダンス	授業の概要・進め方・評価方法、教育学を学ぶ意義、哲学対話とは何か
2回	教える-学ぶの関係	コミュニケーションとしての教えること、学びと教え
3回	教育工学	インストラクショナルデザイン
4回	哲学対話 [1]	日常をめぐる問い
5回	子ども	小さな大人としての「子ども」、「子ども」の発見、「子ども」の消失
6回	教育の目的	有能化・社会化・主体化
7回	哲学対話 [2]	教育をめぐる問い
8回	特別支援教育①	障害児教育の歴史とインクルーシブ教育
9回	特別支援教育②	発達障害のある子どもの教育
10回	ジェンダーとセクシュアリティ	ジェンダーと教育の課題、セクシュアリティと教育の課題
11回	哲学対話 [3]	教育をめぐる問い
12回	まとめ	レポート作成とその注意点

成績評価	①各回における小テスト・小レポート (60%) ②学期末レポート (40%)	受講上のルール・留意点	学期末レポートでは、それまでの授業で行われた議論を踏まえた上で、皆さん自身で自由に問いを設定しそれに応答してもらいます。分量は1,500～2,000字程度を予定しています。「哲学対話」の概要については授業内で説明します。また、各講義のテーマや哲学対話の進め方については、実際の授業の進行状況を見ながら修正を行っていく場合があります。
------	---	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
課題へのフィードバックは、授業内で全体に対し実施するとともに、必要に応じてGoogle Classroom上での個別的な対応を行います。

	書名	著書名	出版社名
教科書	なし		
参考書	講義中に適宜指示します		
オフィスアワー	授業前後の休憩時間、メール・Google Classroomでの相談		

作業療法学科 昼 間 部			
科 目	英語	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	黒木豊域	学 年	1年生 後期
実績経験	資格	米国ユタ州プロボ市ワサチ・メンタルヘルスセンターでのセラピストの経験をもとに、クライアントと英語での対話の訓練を行ないます。	

授業の位置づけ	グローバル化するわが国において、外国人観光客・在留外国人は年々増加傾向にある。これに伴い、PT・OTが外国人患者への支援行う機会の増大が見込まれている。この科目では、PT・OTが、英語にて患者に接し、医療用語を用いてリハビリ現場で会話ができるようになることを目指す。すなわち、最初の接遇からはじまり、問診、説明、肢位の指示などの特定の状況における会話を英語でできるようになるために、ロールプレイ演習を行う。中学や高等学校教育の英語と異なり、会話する英語の習得を目標とし、毎回の授業は声を出して話すことに焦点が当てられている。また、人体や施術に関わる英語の専門用語を習得することも目標としている。		
到達目標	1．人体に関してや一般的な医療用語の英単語を覚え活用することができる 2．支援現場において用いることのできるフレーズを活用できる 3．支援現場における英会話を構成し、活用できる。		
授業形態	講義・演習	併用授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	英語のコツと学び方	シラバスの説明、 英語が聞取れるコツ ロールプレイ 1：笑顔と挨拶
2回	問診	ロールプレイ 2：痛みの経過を聞いてみよう 単語テスト 1
3回	問診	ロールプレイ 3：痛みの種類や程度を聞いてみよう
4回	問診	ロールプレイ 4：痛みの経過を聞いてみよう 単語テスト 2
5回	指示	ロールプレイ 5：基本的な肢位を指示してみよう
6回	確認	ロールプレイ 6：バイタルサインを確認しよう 単語テスト 3
7回	測定	ロールプレイ 7：自動稼動域を測定してみよう
8回	測定	ロールプレイ 8：筋力を測定してみよう 単語テスト 4
9回	評価	ロールプレイ 9：歩行評価をしてみよう
10回	指示	ロールプレイ 10：移乗動作の練習をしてみよう 単語テスト 5
11回	指導	ホームエクササイズの指導 試験についての説明
12回	発表（試験）準備	Long Playの計画
13回	発表（試験）準備	Long Playの練習
14回	試験 1	単語試験と実技試験の準備
15回	試験 2	実技試験 Long Paly

成績評価	ロールプレイ 30 単語テスト 25 定期試験 単語 25 Long Play 20 総合 100%から学校の評価規準に準じて成績評価とする。	受講上のルール・留意点	・英単語を覚える ・表情豊かに大きな声で、ジェスチャー等の動きを含めて発表する
------	---	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
ロールプレイは、ペアごとにの発表を評価票を用いて評価する。フィードバックは発表終了後に行なう。

	書名	著書名	出版社名
教科書	授業資料を配布		
参考書	PT・OTが書いたリハビリテーション英会話	三木貴弘ほか	MEDICAL VIEW
オフィスアワー	授業終了後		

作業療法学科 昼 間 部			
科 目	保健体育	単位・時間数	2単位・ 30時間
担当講師	小平 健太郎	学 年	1年生 後期
実績経験	資格	運動と健康に関わる現実的課題に対して、これまでトレーニングコーチとして運動選手から一般の方への運動指導経験を講義に反映して展開する。保健医療（理学療法・作業療法、看護、臨書検査、鍼灸理療、柔道整復 等）部門で生理学授業を担当している教員が医療従事者に必須な生体機能の調節機構について日常生活からの視点を例示しながら講義を実施する。	
	NSCA-CSCS, NSCA-CPT, 体育学修士		

授業の位置づけ	運動の重要性は近年特に叫ばれているが、方法によっては逆効果にもなるリスクも潜んでいるため対象者に合わせた適切な方法を経験則だけでなく知見として習得していくことが専門職としても求められる。また、自身の動作での課題の発見や適した改善を図ることは自身の健康を保つためにも必要である。 講義における基礎知識の習得だけでなく演習やグループディスカッションを通じて、多方面から運動や動作について考える時間を設ける。		
到達目標	①現代社会において運動が必要とされている背景を説明できる。 ②運動の有効性だけでなくリスクについて説明できる。 ③障がい者スポーツについてその起源や必要性について説明できる。 ④様々な形のスポーツについて説明できる。 ⑤感覚に制限がある中で運動を体験し、その感覚を説明できる。 ⑥既存のスポーツに対して対象者に合わせた柔軟な変更を試行できる。		
授業形態	講義・演習	対面と遠隔の併用授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1 回	運動の必要性和有効性	現代で運動が求められる理由と運動の有効性
2 回	障がい者スポーツ	障がい者スポーツの歴史、障がい者にとっての運動の必要性
3 回	運動のリスク	運動が身体にもたらすリスクとウォーミングアップの重要性
4 回	簡易体力チェック（実技）	体力テスト、ロコモチェックの実践
5 回	スポーツ科学の応用	スポーツ科学分野での知見の応用（映像学習）
6 回	障がい者スポーツ	障がい者スポーツの選手の実際を動画で学ぶ
7 回	運動体験	ブラインドウォーキング体験
8 回	行動変容	運動・スポーツへの参加を促すための行動変容手法
9 回	様々なスポーツの形	レクリエーションスポーツ、ゆるスポーツなど様々な形式のスポーツを学ぶ
10回	体育館実技	自体重での運動実践
11回	体育館実技	障がい者スポーツ・レクリエーションスポーツの実践
12回	体育館実技	自体重での運動実践
13回	体育館実技	障がい者スポーツ・レクリエーションスポーツの実践
14回	体育館実技	自体重での運動実践
15回	体育館実技	障がい者スポーツ・レクリエーションスポーツの実践

成績評価	レポート試験：70%、講義内課題30%の合計100%で評価する。 授業時間数の 3 分の 1 以上欠席した者には単位を与えない。	受講上のルール・留意点	講義を踏まえて運動が身体にもたらす影響について総合的に考察したものを課題として出題する。 講義内では授業課題に沿った課題を出題する。
------	---	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
FBは全体に対して実施する

	書名	著書名	出版社名
教科書	百寿時代の運動・スポーツのトリセツ ー日本臨床スポーツ医学会からの提案ー	日本臨床スポーツ医学会学術委員会	有限会社 ナップ
参考書			
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

		作業療法学科	昼間部
科 目	社会学	単位・時間数	1単位・ 24時間
担当講師	石川 秀志	学 年	1年生 後期
実績経験	資格		
	文学博士・キャリアコンサルタント		

授業の位置づけ	人間とは何か、人間と社会の関係を通して理解する。社会の一員として人間はどう生きるべきかを深く考えてみる。社会や人間に関心を持ち、直面する現代社会の問題を理解する。		
到達目標	社会学とは何かという意識を持ち、社会学の基礎的知識を身につけること、そのことによって私たちの生きる社会について分析し、考察できる基礎力を養う。 将来医療人として、コミュニケーションの取れる、人の話を聞ける人になって欲しい。		
授業形態	講義		

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	社会学について	社会学について 授業概要・日程について説明
2回	社会学のあゆみ	社会学のあゆみ 1 社会学の歴史
3回	社会学のあゆみ	社会学のあゆみ 2 社会学の歴史
4回	行為と行動	行為と行動 マズローの欲求階層説、ウェーバーの行為の4類型
5回	集団と組織	集団と組織 組織とコミュニケーション 社会集団について
6回	地域社会	地域社会 地域とコミュニティ 自然村と行政村
7回	社会的地位・役割	社会的地位、役割 役割期待、社会化、印象操作、役割距離
8回	社会階層について	社会階層について 社会階層、社会階級、職業威信、格差社会
9回	ジェンダー	ジェンダー ジェンダーの理解、性別役割、職業労働と家事労働、
10回	家族と社会	家族と社会 家族の基本概念、親密な存在ゆえの難しさ（愛情と憎悪）
11回	社会学で考える	人権について考える 共生社会について 福祉について考える
12回	社会学で考える	日本の現状を考える 将来、医療人として活躍できる人材になるために 試験対策

成績評価	定期試験100％	受講上のルール・留意点	授業をよく聞くこと、ノート持参すること。
------	----------	-------------	----------------------

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは、全体に行う。

	書名	著書名	出版社名
教科書			
オフィスアワー	授業時間前後		

作業療法学科 昼 間 部			
科 目	人間関係論	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	深瀬 勝久	学 年	1年生 前期
実績経験	資格		
	作業療法士		

授業の位置づけ	対人援助職を志すみなさんにとって、人間関係やコミュニケーションについて学ぶことは必須です。この講義では、人間関係やコミュニケーションにおける基礎的な部分を扱います。 対人援助の基本、自分の特性を知る、コミュニケーションとは、実践に関して座学、演習、心理検査などを用いて学習し、臨床での実践力をやしなう。また授業終盤では医療面接につながる演習も実践し、臨床実習等に向けてのスキルを養う。		
到達目標	基礎的なコミュニケーションについて学習し、臨床現場におけるコミュニケーションの重要性を知る。医療面接などの評価技法につながるコミュニケーションを身につける。		
授業形態	講義	対面と遠隔の併用授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	オリエンテーション	講義内容・進め方の確認
2回	コミュニケーションについて①	対人援助職とは
3回	コミュニケーションについて②	言語・非言語コミュニケーション
4回	自己理解	性格・人格・特性
5回	自己理解	エゴグラム
6回	コミュニケーション演習①	会話
7回	コミュニケーション演習②	レクリエーションを通して
8回	コミュニケーション演習③	レクリエーションを通して
9回	臨床現場における対人関係①	治療者－患者関係について、治療の空間について
10回	臨床現場における対人関係②	作業療法場面でのコミュニケーション
11回	臨床現場における対人関係③	作業療法場面でのコミュニケーション
12回	面接①	面接演習
13回	面接②	面接演習
14回	事例検討	事例を使いディスカッションをする
15回	まとめ	全体のまとめ、学期末レポートについて

成績評価	レポートの提出	受講上のルール・留意点	感染状況によって対面での授業とリモートでの授業を併用します。
------	---------	-------------	--------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
FBは全体に実施する

	書名	著書名	出版社名
教科書	PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド	山口美和	医学書院
オフィスアワー	月～木14時～21時 教員室 もしくは k-fukase@nichireha.ac.jp		

作業療法学科 昼間部			
科目	解剖学Ⅰ	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	肥後 心平	学 年	1年生 前期
実績経験	資格	日本医科大学において解剖学の講義・および肉眼解剖学実習を担当	
	博士（学術）		

授業の位置づけ	人体各部の名称および構造の理解		
到達目標	解剖学、細胞学、組織学、発生学の概要を理解し、骨・関節、筋の位置と構造を理解、習得する		
授業形態	講義	対面場合によってはオンデマンド	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	解剖学総論	解剖学の内容、用語、機能と形態の関係
2回	細胞学概論・組織学総論	細胞の構造と機能、組織の分類と構造、機能
3回	骨学・関節学	概論・骨と関節の組織学
4回	骨学・関節学	頭蓋骨
5回	骨学・関節学	軸骨格
6回	骨学・関節学	上肢の骨
7回	骨学・関節学	下肢・骨盤の骨
8回	確認テスト・解説	1-7回授業内容の確認テストと解答解説
9回	筋肉学	上肢の筋1
10回	筋肉学	上肢の筋2
11回	筋肉学	下肢の筋1
12回	筋肉学	下肢の筋2
13回	筋肉学	頭部・頸部・胸部の筋
14回	筋肉学	腹部・背部の筋
15回	確認テスト・解説	9-14回授業内容の確認テストと解答解説

成績評価	定期試験(100%) ただし授業時間中に2回実施する確認テストも評価に加える可能性がある	受講上のルール・留意点	授業時間数の3分の1を超えて欠席した者には単位を与えない
------	---	-------------	------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
8回、15回の確認テスト時に解説を行う

	書名	著書名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 解剖学	野村 嵯	医学書院
参考書			
オフィスアワー			

		作業療法学科	昼 間 部
科 目	解剖学Ⅱ	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	澤井 信彦	学 年	1年生 後期
実績経験	資格		
	博士（医学）		

授業の位置づけ	人体各部の名称および構造の理解		
到達目標	脈管および内臓の位置と構成を理解し、用語を習得する		
授業形態	講義	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	脈管系概論・心臓の構造	
2回	心臓の構造と働き	刺激伝導系、心臓の栄養血管
3回	動脈系	頭頸部、四肢、体幹の動脈系
4回	静脈系	頭頸部、四肢、体幹の静脈系
5回	リンパ系	リンパ管、リンパ組織と免疫系
6回	消化器系	消化管
7回	消化器系	消化腺
8回	呼吸器系	上気道、縦隔
9回	呼吸器系	下気道、気管支、肺
10回	泌尿器系	骨盤内臓器、腎臓の構造
11回	泌尿器系	尿管、膀胱、尿道
12回	男性生殖器系	精巣、前立腺、外生殖器
13回	女性生殖器系	卵巣、子宮、外生殖器
14回	内分泌系	内分泌腺、視床下部-下垂体
15回	内分泌系	末梢の内分泌組織

成績評価	定期試験・レポート	受講上のルール・留意点	授業時間数の3分の1を超えて欠席した者には単位を与えない
------	-----------	-------------	------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
解説の配布など

	書名	著書名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 解剖学	野村 嵯	医学書院
参考書			
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

		作業療法学科	昼 間 部
科 目	解剖学Ⅲ	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	春原 正隆	学 年	1年生 後期
実績経験	資格	大学では科目責任者として、人体解剖学の講義・実習を担当しております。座学で学んだ知識を、人体解剖学実習見学を通して三次元的に理解し、将来の臨床に是非とも役立てて頂きたいと考えております。	
	歯科医師・博士（医学）		

授業の位置づけ	作業療法士に必要な解剖学的知識を修得するため、人体を構成する諸器官を系統別に認識して、神経系や感覚器系を中心に講義を通して3次的に理解する。		
到達目標	1) 脊髄神経の構成および分布，働きについて説明できる。 2) 神経系の主要な伝導路について説明できる。 3) 各種感覚器の種類、形態的特徴および働きについて説明できる。		
授業形態			

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	神経系総論①	神経系の区分，神経系の構成（p. 229～234）
2回	神経系総論②	髄膜と脳室系，神経系の発生（p. 235～240）
3回	中枢神経系①	脊髄，脳幹①（p. 241～251）
4回	中枢神経系②	脳幹②，小脳（p. 245～255）
5回	中枢神経系③	大脳（p. 256～267）
6回	末梢神経系①	脳神経①（p. 300～310）
7回	末梢神経系②	脳神経②，自律神経系（p. 300～314）
8回	末梢神経系③	脊髄神経①（p. 278～300）
9回	末梢神経系④	脊髄神経②（p. 278～300）
10回	中枢神経系④	神経路（p. 268～277）
11回	感覚器系①	外皮，視覚器（p. 319～326）
12回	感覚器系②	平衡聴覚器，嗅覚器，味覚器（p. 326～330）
13回	神経系まとめ	
14回	神経系まとめ	
15回	神経系まとめ	

成績評価	定期試験	受講上のルール・留意点	授業時間数の3分の1を超えて欠席した者には単位を認定しない
------	------	-------------	-------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック

	書名	著書名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 解剖学		医学書院
参考書			
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

作業療法学科 昼間部			
科目	生理学 I	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	黒澤 美枝子	学 年	1年生 前期
実績経験	資格	生理学の研究経験と、大学において作業療法学科の生理学講義と生理学実習を長年担当してきた教育経験とを活かし、わかりやすく、しかも作業療法士の基礎知識として将来役立つ講義を目指したいと思います。	
	大学教員		

授業の位置づけ	教科書の内容に沿って講義します。生理学 I で学ぶ「神経系（神経系一般、運動、自律神経系、感覚）」は、生理学の他分野の消化器や泌尿器などと違いイメージしづらく、初めて生理学を学ぶ者にとっては、理解が難しい内容も多く含まれると思います。しかし、国家試験で出題される頻度が高く、また、ほかの教科との関連も深い分野となります。そのため、生理学全体のなかで多くの時間をこの神経系にとり、一つ一つ丁寧に解説していきたいと思います。		
到達目標	人体の生理機能のうち、動物機能（神経系・筋・運動・感覚）について理解し、基礎知識を身につける。		
授業形態	講義	主に遠隔授業 (場合により対面と遠隔の併用授業)	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	総論	身体の成り立ち、生体恒常性、細胞、物質代謝
2回	神経系一般（１）	神経系の分類、ニューロンの機能（膜電位）
3回	神経系一般（２）	ニューロンの機能（活動電位の発生と伝導、シナプス伝達）
4回	神経系一般（３）	ニューロンの機能（シナプス伝達の可塑性）、中枢神経機能概論
5回	筋	骨格筋の構造と働き、筋の収縮の仕組み、筋のエネルギー供給の仕組み
6回	運動（１）	骨格筋の運動神経支配、運動単位
7回	運動（２）	骨格筋の受容器と感覚神経、運動反射（１）
8回	運動（３）	運動反射（２）
9回	運動（４）	運動の調節（脳幹、小脳、大脳基底核、大脳皮質）
10回	自律神経系（１）	自律神経系一般、自律神経による調節の特徴
11回	自律神経系（２）	自律神経系の中枢、反射
12回	感覚（１）	感覚一般、体性感覚（１）
13回	感覚（２）	体性感覚（２）、特殊感覚（１）
14回	感覚（３）	特殊感覚（２）
15回	総復習	これまでのまとめ、定期試験について

成績評価	①講義毎に実施する課題 （リアクションペーパーの提出など） 10% ②定期試験 90%	受講上のルール・留意点	①毎回講義の最後に課題を出し、講義終了後、提出していただきます。（授業の進み具合によって変更あり）。 ②すべての講義終了後に定期試験を実施します。 また、授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えることはできません。
------	---	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
FBは講義内で全体に実施する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	生理学第3版	内田さえ・原田玲子ほか	医歯薬出版
参考書			
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

		作業療法学科	昼 間 部
科 目	生理学Ⅱ	単位・時間数	1単位・ 30時間
担当講師	黒澤 美枝子	学 年	1年生 後期
実績経験	資格	生理学の研究経験と、大学において作業療法学科の生理学講義と生理学実習を長年担当してきた教育経験とを活かし、わかりやすく、しかも作業療法士の基礎知識として将来役立つ講義を目指したいと思います。	
	大学教員		

授業の位置づけ	教科書の内容に沿って講義します。生理学Ⅱでは植物機能全般（血液・循環・生体の防御・呼吸・消化と吸収・栄養代謝・体温・排泄・内分泌・生殖）を学びます。生理学Ⅱでは生理学Ⅰで勉強した「神経系」が各機能の調節として再び出てきます。範囲が広い分1回の授業で実施する容量も多いです。そのため、各分野で特に重要な点を中心に解説していきたいと思います。生理学Ⅰと生理学Ⅱで教科書1冊を学び終えます。		
到達目標	人体の生理機能のうち、植物機能（血液・循環・生体の防御・呼吸・消化と吸収・栄養代謝・体温・排泄・内分泌・生殖）について理解し、基礎知識を身につける。		
授業形態	講義	主に遠隔授業 (場合により対面と遠隔の併用授業)	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	血液	血液の組成と働き、血球の生成・分化、止血作用
2回	生体の防御機構	白血球の機能、自然免疫、獲得免疫
3回	循環（１）	心血管系、心臓の構造と機能
4回	循環（２）	血液循環、循環の調節
5回	呼吸（１）	ガス交換と運搬
6回	呼吸（２）	呼吸運動，肺気量
7回	消化と吸収（１）	消化管の運動、排便
8回	消化と吸収（２）	消化液の分泌、栄養素の吸収
9回	栄養・代謝	栄養素の働きと代謝
10回	体温	産熱と放熱，体温調節
11回	排泄	腎臓の尿生成機構、蓄尿と排尿
12回	内分泌（１）	ホルモンの分類、特徴
13回	内分泌（２）	各ホルモンの種類とその働き（１）
14回	内分泌（３）	各ホルモンの種類とその働き（２）
15回	総復習	これまでのまとめ、定期試験について

成績評価	①講義毎に実施する課題 （リアクションペーパーの提出など） 10% ②定期試験 90%	受講上のルール・留意点	①毎回講義の最後に課題を出し、講義終了後、提出していただきます。（授業の進み具合によって変更あり）。 ②すべての講義終了後に定期試験を実施します。 また、授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えることはできません。
------	---	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
FBは講義内で全体に実施します。

	書名	著書名	出版社名
教科書	生理学第3版	内田さえ・原田玲子ほか	医歯薬出版
参考書			
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

		作業療法学科	昼 間 部
科 目	生理学実習	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	坪井・越智・海津	学 年	1年生 後期
実績経験	資格	日本大学の専任講師として生理学の講義および実習指導歴35年。その経験をもとに、生体に起こる現象を実際に観察し、座学の知識の再確認となる実習にします。	
	歯科医師		

授業の位置づけ	座学で習った生体の運動機能、感覚機能の知識の再確認および理解を深めることができる実習を目指します。ヒトの骨格筋から筋肉活動状態を表す筋電図や皮膚の上から神経を電気刺激することにより惹起される誘発筋電図を記録することにより、筋の活動状態を筋電図変化として観察します。それによって、反射や随意運動に関する理解を深めます。ウシガエルの坐骨神経標本を用いて複合活動電位を記録します。それによって、活動電位の発生、伝導やシナプス伝達についての知識を再確認します。また、皮膚への刺激により誘発される触覚や痛覚の感覚閾値、感覚点の分布、2点弁別閾の測定を行います。それによって、感覚の受容機構、認知機構などの知識の再確認と理解を深めていきます。		
到達目標	人体の運動機能（反射、随意運動の機構）、神経の活動電位の発生と伝導機構、感覚機能（皮膚感覚機構）を説明できる。		
授業形態	実習と講義	対面	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	オリエンテーション、実習講義（運動と筋電図）	実習の進め方、注意事項、成績評価について、筋の構造と収縮の講義、運動と筋電図実習のやり方説明
2回	実習（誘発筋電図）-1	皮膚の上から脛骨神経を電気刺激して発生する筋電図の記録
3回	実習（誘発筋電図）-2	皮膚の上から脛骨神経を電気刺激して発生する筋電図の分析
4回	データ整理（誘発筋電図）	誘発筋電図実習のデータ整理、レポート作成
5回	実習講義（運動負荷と筋電図）	反射と随意運動の講義、運動負荷と筋電図実習のやり方説明
6回	実習（運動負荷と筋電図）-1	運動負荷時の筋電図の記録
7回	実習（運動負荷と筋電図）-2	運動負荷時の筋電図の分析
8回	実習講義（神経の興奮と伝導）	神経の興奮、伝導、シナプス伝達に関する講義、神経の興奮と伝導の実習のやり方説明
9回	実習講義（皮膚感覚）	体性感覚に関する講義、皮膚感覚実習のやり方説明
10回	実習（神経の興奮と伝導）-1	カエルの坐骨神経標本を用いた興奮と伝導の実習（観察と記録）
11回	実習（神経の興奮と伝導）-2	カエルの坐骨神経標本を用いた興奮と伝導の実習（分析）
12回	実習（皮膚感覚）	皮膚感覚閾値（触覚閾値、痛覚閾値、2点弁別閾など）の測定実習
13回	データ整理（皮膚感覚）	皮膚感覚閾値実習に関するデータ解析、レポート作成
14回	データ整理（運動負荷と筋電図）	運動負荷時の筋電図の実習のデータ整理、レポート作成
15回	データ整理（神経の興奮と伝導）	神経の興奮と伝導実習のデータ解析、レポート作成

成績評価	10枚程度の実習レポート（ひとり合計4通）により評価する。 25x4通＝100	受講上のルール・留意点	欠席1回まではレポート（20枚程度）を課す。2回以上の欠席をすると単位を与えない。班単位で実習をするので、積極的に参加すること。
------	--	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
レポート返却によりフィードバックを実施する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	教科書は特に指定しない。資料を配布する。		
参考書	生理学 第3版	東洋療法学校協会（内田さえ、原田玲子 他著）	医歯薬出版
オフィスアワー	授業前後の休憩時間またはメール		

		作業療法 学科	昼 間 部
科 目	機能解剖学 I	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	福澤 阿弾	学 年	1年生 前期
実績経験	資格	作業療法士として回復期リハビリテーション病院、老人保健施設、通所介護施設、訪問看護ステーション、放課後等デイサービスにて勤務経験あり。 その経験を活かし、身体の動きを理解するための構造や運動および骨・筋・神経・脈管の触察について実技を交えながら講義を行う。	
	作業療法士		

授業の位置づけ	作業療法士として治療を行うにあたり、運動器の構造と運動のつながりを理解することはとても重要である。そのつながりを理解したうえで、骨や筋・神経・脈管を骨標本だけではなく人体を触察することで理解を深めていき、作業療法評価学や治療学に活かしていく。		
到達目標	運動器の構造と運動のつながりを理解する。 骨・筋・神経・脈管の触診ができ、筋の起始・停止・走行を理解する。		
授業形態	講義・演習	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	身体部位の名称 関節の名称と分類	身体部位の名称及び関節の名称と分類を骨標本と照らし合わせながら理解する
2回	運動の面と軸 関節運動の名称	運動の面と軸を基に関節運動の名称を理解する
3回	下肢・体幹の骨・関節の名称	下肢・体幹の骨や関節の名称を骨標本と照らし合わせながら理解する
4回	下肢・体幹の関節運動について	下肢・体幹の関節運動を理解する
5回	下肢・体幹の骨指標の触察	骨盤・大腿骨・脛骨・腓骨・足根骨・趾骨の骨指標を触察する
6回	下肢の筋・神経・脈管を触察①	大殿筋・中殿筋・大腿筋膜張筋・縫工筋の触察をする
7回	下肢の筋・神経・脈管を触察②	梨状筋・大腿方形筋・腸骨筋・大腰筋・大腿動脈の触察をする
8回	下肢の筋・神経・脈管を触察③	大腿四頭筋・大腿二頭筋・半腱様筋・半膜様筋の触察をする
9回	下肢の筋・神経・脈管を触察④	長内転筋・大内転筋・薄筋・前脛骨筋の触察をする
10回	下肢の筋・神経・脈管を触察⑤	長趾伸筋・長母趾伸筋・長腓骨筋・短腓骨筋の触察をする
11回	下肢の筋・神経・脈管を触察⑥	腓腹筋・ヒラメ筋・後脛骨筋の触察をする
12回	体幹の筋・神経・脈管を触察	腰方形筋・腹直筋・内腹斜筋・外腹斜筋・膝窩動脈・足背動脈の触察をする
13回	形態計測について	形態計測の目的や手順、方法、注意点についての講義
14回	下肢の肢長計測	下肢の肢長計測を演習にて行う
15回	下肢の周径計測	下肢・体幹の周径計測を演習にて行う

成績評価	筆記試験：５０％ 実技試験：５０％	受講上のルール・留意点	・講義には指定した服装、身だしなみで出席する。 ・始業時に着替え等の準備ができていない場合は遅刻とする。 ・スマホ等の機器を不要に操作したり私語が多いなど、他の生徒の受講の妨げになる場合は退室を命ずることがある。 ・講義時間数の1/3以上欠席したものには単位を与えない。
------	----------------------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
講義では全体に、演習では全体または個別にフィードバックを行う

	書名	著書名	出版社名
教科書	Dr. マスコリーノ Know the Body 筋・骨格の理解と触診のすべて	ジョセフ・E マスコリーノ	エルゼビア・ジャパン
	標準理学療法学・作業療法学 解剖学	奈良勲・鎌倉矩子	医学書院
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

		作業療法 学科	昼 間 部
科 目	機能解剖学Ⅱ	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	福澤 阿弾	学 年	1年生 前期
実績経験	資格	作業療法士として回復期リハビリテーション病院、老人保健施設、通所介護施設、訪問看護ステーション、放課後等デイサービスにて勤務経験あり。 その経験を活かし、身体の動きを理解するための構造や運動および骨・筋・神経・脈管の触察について実技を交えながら講義を行う。	
	作業療法士		

授業の位置づけ	作業療法士として治療を行うにあたり、運動器の構造と運動のつながりを理解することはとても重要である。そのつながりを理解したうえで、骨や筋・神経・脈管を骨標本だけではなく人体を触察することで理解を深めていき、作業療法評価学や治療学に活かしていく。		
到達目標	運動器の構造と運動のつながりを理解する。 骨・筋・神経・脈管の触診ができ、筋の起始・停止・走行を理解する。		
授業形態	講義・演習	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	身体部位の名称 関節の名称と分類	身体部位の名称及び関節の名称と分類を骨標本と照らし合わせながら理解する
2回	頭頸部・上肢の骨・関節の名称	頭頸部・上肢の骨や関節の名称を骨標本と照らし合わせながら理解する
3回	頭頸部・上肢の関節運動について	頭頸部・上肢の関節運動を理解する
4回	頭頸部・上肢の骨指標の触察	頭蓋骨・胸骨・鎖骨・肩甲骨・上腕骨・橈骨・尺骨・手根骨・指骨の骨指標を触察する
5回	上肢の筋・神経・脈管を触察①	僧帽筋・大菱形筋・小菱形筋・肩甲挙筋・前鋸筋の触察をする
6回	上肢の筋・神経・脈管を触察②	大胸筋・広背筋・大円筋・棘上筋・棘下筋の触察をする
7回	上肢の筋・神経・脈管を触察③	小円筋・肩甲下筋・三角筋・烏口腕筋の触察をする
8回	上肢の筋・神経・脈管を触察④	上腕三頭筋・上腕二頭筋・上腕筋・腕橈骨筋の触察をする
9回	上肢の筋・神経・脈管を触察⑤	橈側手根屈筋・長掌筋・尺側手根屈筋・円回内筋・方形回内筋の触察をする
10回	上肢の筋・神経・脈管を触察⑥	浅指屈筋・深指屈筋・長母指屈筋・長橈側手根伸筋・短橈側手根伸筋・尺側手根伸筋の触察をする
11回	上肢の筋・神経・脈管を触察⑦	総指伸筋・回外筋・長母指外転筋・長母指伸筋・短母指伸筋の触察をする
12回	上肢の筋・神経・脈管を触察⑧	短母指外転筋・短母指屈筋・母指対立筋・小指対立筋・母指内転筋の触察をする
13回	頭頸部の筋・神経・脈管を触察	胸鎖乳突筋・頸動脈・上腕動脈・橈骨動脈の触察をする
14回	上肢の肢長計測	上肢の肢長計測を演習にて行う
15回	上肢・体幹の周径計測	上肢・体幹の周径計測を演習にて行う

成績評価	筆記試験：５０％ 実技試験：５０％	受講上のルール・留意点	・講義には指定した服装、身だしなみで出席する。 ・始業時に着替え等の準備ができていない場合は遅刻とする。 ・スマホ等の機器を不要に操作したり私語が多いなど、他の生徒の受講の妨げになる場合は退室を命ずることがある。 ・講義時間数の1/3以上欠席したものには単位を与えない。
------	----------------------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
講義では全体に、演習では全体または個別にフィードバックを行う

	書名	著書名	出版社名
教科書	Dr. マスコリーノ Know the Body 筋・骨格の理解と触診のすべて	ジョセフ・E マスコリーノ	エルゼビア・ジャパン
	標準理学療法学・作業療法学 解剖学	奈良勲・鎌倉矩子	医学書院
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

科 目	機能解剖学Ⅲ		単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	阿部 英人		学 年	1年生 前期
実績経験	資格	病院 3 年、介護関連施設 7 年、教育機関13年		
	作業療法士			

授業の位置づけ	身体障害分野において神経疾患患者を担当する機会は多く、その障害像を理解する上で各神経系の構造、機能などの知識は非常に重要である。また、前期期間に既に履修している内容であるため、知識として習得されているか確認、復習する授業である。 授業方法については講義とグループワークを行う。グループワークでは学習したことをグループ内で発表し、知識の確認を行う。		
到達目標	神経系の構造および機能を図示し説明することが出来る。		
授業形態	講義	対面授業または対面と遠隔の併用授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	神経一般	オリエンテーション 神経とは、ニューロンの構造
2回	神経一般	神経の興奮と伝導、興奮の伝達
3回	中枢神経系	大脳の構造と機能
4回	中枢神経系	大脳の構造と機能
5回	中枢神経系	大脳の構造と機能
6回	中枢神経系	間脳の構造と機能
7回	中枢神経系	脳幹の構造と機能
8回	中枢神経系	脳幹の構造と機能
9回	中枢神経系	小脳の構造と機能
10回	中枢神経系	小脳の構造と機能
11回	中枢神経系	脊髄の構造と機能
12回	運動機能の調節	錐体路と錐体街路
13回	運動機能の調節	神経の伝導路（上行性伝導路と下行性伝導路）
14回	末梢神経	腕神経叢の構成、上肢の筋と神経支配
15回	末梢神経	上肢の筋と神経支配

成績評価	課題と定期試験の総合判定	受講上のルール・留意点	小テストは合計 7 回実施
------	--------------	-------------	---------------

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは全体に実施する

	書名	著書名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学	奈良 勲 / 鎌倉 矩子	医学書院
参考書			
オフィスアワー	休憩時間等		

作業療法 学科 昼間部			
科 目	運動学 I	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	栗原実里	学 年	1年生 後期
実績経験	資格	資格：作業療法士 病院勤務、訪問リハビリテーション、訪問看護でのリハビリテーションを経験。 実務経験を交え講義を行う。	

授業の位置づけ	リハビリテーションで対象者を評価・治療するためには、身体の基本的な構造や機能、各関節の動き方を理解しておく必要がある。運動学 I では生体力学、解剖学・生理学の知識を用い、上肢の運動メカニズムや機能障害について、講義と演習を交えて学習していく。		
到達目標	上肢の関節運動を、解剖学、生理学、運動学の専門用語を用いて適切に表現できる。 上肢の正常な運動メカニズムや、機能障害について説明できる。		
授業形態	講義と演習 対面授業		

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	生体力学の基礎知識①	骨・関節について
2回	生体力学の基礎知識②	筋の構造と筋力について
3回	肩甲帯・肩・肘・前腕	構造と機能
4回	肩甲帯・肩・肘・前腕	筋の走行と作用
5回	肩甲帯	運動メカニズム
6回	肩	運動メカニズム
7回	肩	運動メカニズム
8回	肘関節	運動メカニズム
9回	前腕	運動メカニズム
10回	手関節・手指	構造と機能
11回	手関節・手指	筋の走行と作用
12回	手関節・手指	運動メカニズム
13回	手の機能と機能障害	手のアーチ、手の機能、手の機能障害と変形
14回	手の機能と機能障害	上肢の神経支配と感覚
15回	生体力学の基礎知識③	重力、モーメント、てこについて

成績評価	課題：30％ 筆記試験：70％	受講上のルール・留意点	課題は4回提出（各10％） ①肩甲帯・肩の運動 ②肘関節・前腕の運動 ③手関節・手指の運動と機能障害 課題は10問程度の設問について解答するものである。 授業時に配布するので、欠席時は取りにくること。 （各A3用紙2枚程度）
------	--------------------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
課題を返却し、全体に行う。

	書名	著書名	出版社名
教科書	基礎運動学 第6版補訂	中村隆一、齋藤宏、長崎浩	医歯薬出版
参考書	PT・OTビジュアルテキスト専門基礎 運動学	山崎敦	羊土社
オフィスアワー	火・土・日曜日以外、午後17時まで。 それ以外はメールで相談。		

		作業療法学科	昼 間 部
科 目	人間発達学	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	石川 晴	学 年	1年生 後期
実績経験	資格	発達障害分野の施設で20年以上にわたりリハビリテーションの経験を積み重ね、現在も現場で障がい児のサポートを行っている。それらの実務経験をもとに講義を行う。	
	作業療法士		

授業の位置づけ	胎児期から高齢期までの人間の発達について学ぶ。各時期において、身体的機能・運動的機能・認知的機能・情緒的社会的機能がどのような相互関係で発達するのかを学習する。		
到達目標	人間発達とは何か、リハビリテーションで活用する発達の概念を理解し、説明することができる。		
授業形態	講義	対面と遠隔の併用授業	

授業計画		
回数	項目	
1回	オリエンテーション	人間発達学で学ぶこと。発達概念の歴史変遷。
2回	発達理論	運動機能／感覚・知覚機能 の発達
3回	発達理論	認知機能／心理・社会的機能 の発達
4回	胎児期	人間の発達とは胎児期から始まっている 生きるための反射と反応
5回	原始反射・姿勢反射	姿勢の運動の制御
6回	新生児期	『出生から4週間目』の新生児の発達
7回	乳児期	『出生後4～8週』『2～5ヵ月』『5～8ヵ月』『8～12ヵ月』の時期。
8回	幼児期前半	身体・運動・認知・情緒社会的機能の発達
9回	幼児期前半	身体・運動・認知・情緒社会的機能の発達
10回	学童期	小学生の発達
11回	青年期	『前期:中学生・高校生』『後期:18～22歳』の時期。
12回	成人期	『前期:22～35歳』『中期:35～50歳』『後期:50～65歳』
13回	青年期	『前期:中学生・高校生』『後期:18～22歳』の時期。
14回	高齢期	『65歳～』人間は死ぬまで発達する
15回	発達検査	小児系尺度／高齢者の検査

成績評価	試験100%	受講上のルール・留意点	授業時間数の3分の1を超えて欠席した者には単位を与えない
------	--------	-------------	------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは全体に実施する

	書名	著書名	出版社名
教科書	コメディカルのための専門基礎分野テキスト 人間発達学 第4版	福田 恵美子 編集	中外医学社
参考書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 人間発達学 障害児者の摂食・嚥下・呼吸リハビリテーション		医学書院 医歯薬出版
オフィスアワー	・「月曜」または「金曜」の授業後など。		

作業療法 学科 昼 間 部			
科 目	臨床心理学	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	島津直実	学 年	1年生 前期
実績経験	資格	精神科クリニックにて心理士経験のある教員が, 臨床心理学に関する基本的な知見について概説する。	
	公認心理師		

授業の位置づけ	臨床心理学は, 心理的問題や精神障害を理解し専門的に援助することを目指す学問領域といえます。本講義では, まず, 異常心理学について概説し, 対象理解のための方法論として心理アセスメントを取り上げます。そして心理療法における諸理論および技法の基礎を学びます。		
到達目標	臨床心理学に関する基本的な知識を習得し, 説明することができる。対象理解および援助に必要な臨床心理学の視点から自らの考えを述べることができる。臨床心理学に関する基礎的な知識を日常生活の中で実践的に活かすことができる。		
授業形態	講義	遠隔授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	臨床心理学への招待	本講義の概要
2回	異常心理学 1	正常と異常の判断基準
3回	異常心理学 2	異常心理学とその基礎
4回	異常心理学 3	心理的問題・精神障害
5回	心理アセスメント 1	心理アセスメントの種類
6回	心理アセスメント 2	心理アセスメントの実際
7回	発達	ライフサイクルと心理臨床
8回	心理療法の理論と技法 1	精神分析
9回	心理療法の理論と技法 2	来談者中心療法
10回	心理療法の理論と技法 3	交流分析
11回	心理療法の理論と技法 4	認知行動療法 1 (行動療法・認知行動療法)
12回	心理療法の理論と技法 5	認知行動療法 2 (マインドフルネス)
13回	心理療法の理論と技法 6	認知行動療法 3 (技法)
14回	心理療法の理論と技法 7	家族療法・心理臨床の事例
15回	まとめ	本講義のまとめ

成績評価	まとめテスト70%および小テストや発表等30%。授業時間数の 3 分の 1 以上欠席した者には単位を与えません。	受講上のルール・留意点	事前学習として教科書の該当箇所を読んでください。また, 事後学習として配布資料および授業ノートを読み返し, 専門用語の意味などを確認しノートにまとめ, 理解を深めてください。テストは最終回に実施します。
------	--	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
FBは全体に実施します。

	書名	著書名	出版社名
教科書	臨床心理学入門 -- 多様なアプローチを越境する	岩壁 茂・福島 哲夫・伊藤 絵美	有斐閣アルマ
参考書			
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

科 目	小児科学		単位・時間数	1単位 ・15時間
担当講師	高木 篤史 、 他		学 年	1年生 ・ 後期
実績経験	資格	臨床経験 2 0 年以上		
	医師、日本小児科学会専門医			

授業の位置づけ	PT・OTは発達障害領域のリハビリテーションにおいて、積極的に児とかかわっていく。リハビリテーションを実施する以前に、小児科領域における疾患や障害の特性などを把握しておくことは必須の課題である。本講義を通して小児・思春期に特有の疾患・障害、またその治療方法について理解を深める。		
到達目標	代表的な小児疾患の特徴およびその治療方法について説明することが出来る。		
授業形態	講義を中心に行う	対面と遠隔の併用授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	成長・発達（高木）	小児科学の総論、成長発達過程について
2回	神経疾患（岡田）	けいれん性疾患、てんかん、など
3回	先天異常（右田）	先天異常、遺伝子病、遺伝カウンセリング、について
4回	骨・筋疾患（高木）	神経筋疾患、筋ジストロフィー、てんかん、脳性麻痺、ボツリヌス治療など
5回	発達障害（平山）	発達障害、自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、について
6回	重症心身障害児（平山）	脳性麻痺について、
7回	小児の代表的な疾患 1 （右田）	新生児仮死、呼吸器・消火器疾患、川崎病など
8回	小児の代表的な疾患 2 （植田）	小児の予防接種・感染症、発熱、血液疾患、について

成績評価	試験88％、課題12％	受講上のルール・留意点	3分の1を超える授業時間数を欠席したものは試験が受けられない。
------	-------------	-------------	---------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
担任を通して行う

	書名	著書名	出版社名
教科書	なし		
参考書	標準理学療法学・作業療法学 小児科学 ナースのミカタ 小児看護	富田 豊 右田 真	医学書院 医学書院
オフィスアワー	クラス担任を通して、担当講師に連絡しますので、クラス担任に相談ください。		

		作業療法学科	昼 間 部
科 目	精神医学	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	埜崎 都代子	学 年	1年生 後期
実績経験	資格	作業療法士として40年、このうち教員経験が30年ほどですが、常勤・非常勤を含め、ずっと臨床に並行して携わっております。臨床は、神経難病・精神科デイケア・認知症高齢者・発達障害児支援などの経験があり、現在も認知症高齢者・発達障害児支援に携わっています。25年ほど前に精神保健福祉士の資格を取得しています。	
	作業療法士・精神保健福祉士		

授業の位置づけ	精神科作業療法学を学ぶにあたって土台となる精神医学の基礎知識を養う。代表的な精神疾患について疾患概念・症状・治療法等について理解し、知識を習得する。		
到達目標	各種精神疾患の疾患概念・症状・治療法等について知識を習得する		
授業形態	講義・演習	対面もしくは遠隔授業との併用	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	精神障害の分類	精神医学とは。精神障害の成因と分類
2回	精神機能の障害と精神症状	精神症状の把握と各種症状の概念
3回	精神障害の分類診断と評価	診断・評価の方法
4回	脳器質性精神障害	認知症・その他
5回	精神作用物質による精神および行動の障害	アルコール・薬物依存
6回	てんかん	てんかんの定義・種類
7回	統合失調症	統合失調症の疾患概念
8回	統合失調症	統合失調症患者の行動特性
9回	気分障害	うつ病
10回	気分障害	躁うつ病
11回	神経症性障害	不安神経症・強迫神経症・その他
12回	生理的障害および身体的要因に関連した疾患	摂食障害その他
13回	人格障害	パーソナリティー障害、行動障害
14回	発達障害	精神遅滞・自閉症・自閉症スペクトラムその他
15回	まとめ	精神医療の歴史・リハビリテーションその他

成績評価	レポート20%、発表10%・テスト70%の予定	受講上のルール・留意点	レポート1回、発表1回、試験1回実施する予定。
------	-------------------------	-------------	-------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
FBは、授業内その他で適宜行う。レポートは返却する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	標準理学療法・作業療法「精神医学」	奈良勲、鎌倉矩子 監修	医学書院
教科書	統合失調症患者の行動特性：その支援と I C F	昼田源四郎	金剛出版
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

		作業療法学科	昼間部
科 目	リハビリテーション医学概論Ⅰ	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	草野 修輔	学 年	1年生 前期
実績経験	資格	20年以上にわたり、リハビリテーション専門医として、臨床においてリハビリテーション医療を行ってきた。また専門学校及び大学において、作業療法学科の学生にリハビリテーション医学の講義も行ってきた。その経験を活かし、リハビリテーション医学全般についてわかりやすく講義する。	
	リハビリテーション専門医		
授業の位置づけ	リハビリテーション医学の歴史、定義、関連職種、障害評価、各種対象疾患のリハビリテーションなどについて紹介し、これからの4年間で学習するリハビリテーション医学について、全般的理解を深めてもらう。		
到達目標	①リハビリテーションの歴史や定義、関連職種、関連法規・社会福祉制度についての説明できる。②リハビリテーションに必要な障害理解、評価法、治療法などについて説明できる。③リハビリテーションが関与する代表的な各種疾患について、病態・リハビリテーションなどについて説明できる。		
授業形態	講義		

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	リハビリテーション医学の歴史と定義、障害分類、リハ関連用語	リハビリテーション医学の歴史的背景や定義、障害分類、リハビリテーション関連用語等について紹介する
2回	リハビリテーションスタッフおよび関連職種、リハビリテーション関係法規および社会福祉制度	リハビリテーションスタッフ・関連職種、リハビリテーション関係法規・社会福祉制度について紹介する
3回	障害学（その1：運動障害・感覚障害）	リハビリテーションにおける障害評価として、運動障害・感覚障害について解説する
4回	障害学（その2：高次脳機能障害 他）	リハビリテーションにおける障害評価として、各種高次脳機能障害他について解説する
5回	各種障害の評価法・検査法、物理療法	リハビリテーションにおける各種障害評価法、関連する検査法、物理療法等について解説する
6回	補助具・義肢・自助具	リハビリテーションにおける各種補装具・義肢・自助具などについて紹介する
7回	脳血管障害のリハビリテーション	脳血管障害の病態と障害、実際のリハビリテーションについて解説する
8回	脊髄損傷のリハビリテーション	脊髄損傷の病態と障害、実際のリハビリテーションについて解説する
9回	整形外科疾患のリハビリテーション	骨関節疾患、切断のリハビリテーションについて解説する
10回	小児疾患のリハビリテーション	リハビリテーションの対象となる代表的な小児疾患とそのリハビリテーションについて解説する
11回	がんのリハビリテーション	がんのリハビリテーションについて解説する
12回	内部障害のリハビリテーション	呼吸器疾患、心臓疾患等の内部障害とリハビリテーションについて解説する
13回	認知症のリハビリテーション	認知症の定義、種類、評価法、リハビリテーションについて解説する
14回	廃用症候群他のリハビリテーション	廃用症候群、ロコモ、サルコペニア等の病態とリハビリテーションについて解説する
15回	総まとめ	第1回から第14回までの講義の総まとめ

成績評価	定期試験50%＋レポート課題50%	受講上のルール・留意点	毎回、講義資料を配布するので、しっかりと復習すること
------	-------------------	-------------	----------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
毎回、授業内容に則したミニテストを出題するので、しっかりと復習すること

	書名	著書名	出版社名
教科書	特に指定なし		
オフィスアワー	毎週火曜日および金曜日16：30～17：30		

		作業療法学科	昼 間 部
科 目	作業療法概論	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	大倉久美子	学 年	1年生 前期
実績経験	資格	作業療法士として、急性期～回復期病棟にて脳血管疾患やがんのリハビリテーション専任を担当し、訪問看護ステーションやクリニックでの訪問・通所リハビリテーションにて地域で経験を重ねた。それらの実務経験を活かして講義を行う。	
	作業療法士		

授業の位置づけ	作業療法士として学習を開始するにあたって、4年間の学びの概要を理解し、作業療法士への動機を高めるための基礎となる授業である。1)作業療法の定義、概念、作業療法の哲学・歴史 2)作業療法過程 3)リハビリテーションにおける作業療法の役割の学習を通じて、他の様々な教科を学習する意義を理解し、主体的・積極的な学習意欲を高める。		
到達目標	作業療法とは何か、リハビリテーションにおける作業療法の役割とは何かを理解し、説明することができる。		
授業形態	講義・演習	対面授業（必要に応じて遠隔授業を併用）	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	オリエンテーション	作業療法の概略、ビデオ視聴と討論
2回	作業療法の概念	リハビリテーションと作業療法、作業療法の哲学、概念
3回	作業療法の定義、目的、対象	理学療法士および作業療法士法、その他関連法規、作業療法の定義、専門領域と対象
4回	作業療法の手段	作業の定義、作業の治療的意味
5回	作業療法の治療的意味	作業の治療的意味、作業療法の要素
6回	作業療法の歴史	世界および日本の作業療法の歴史
7回	作業療法士が基盤とする知識、技術、態度	今後学ぶ必要のある知識と技術と態度
8回	作業療法の過程	作業療法評価から治療・介入までの過程
9回	チーム医療	多職種連携の重要性
10回	作業療法の守備範囲	精神障害／発達障害／老年期障害／身体障害の作業療法
11回	ICF	患者様の全体像を知る
12回	EBOT	根拠のある医療
13回	MTDLP	生活行為向上マネジメント
14回	理論と作業療法の未来	作業療法の理論と今後の展望
15回	まとめ	職業倫理およびまとめ

成績評価	課題30％ 試験 70％	受講上のルール・留意点	授業時間数の3分の1を超えて欠席した者には単位を与えない 課題：レポート、感想文など
------	--------------	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
FBは、授業内その他で適宜行う。

	書名	著書名	出版社名
教科書	標準作業療法学 専門分野 作業療法学概論	二木淑子・能登真一編集	医学書院
参考書			
オフィスアワー	随時（木曜日は不在）		

作業療法学科 昼 間 部			
科 目	基礎作業学	単位・時間数	1単位・24時間
担当講師	大倉 久美子	学 年	1年生 前期
実績経験	資格	作業療法士としての実務経験を活かし、実際の現場で作業分析をどのように活用しているか実例を交えながら講義を行う。	
	作業療法士		

授業の位置づけ	作業療法において「作業」は治療・援助の目的であり手段でもある。その「作業」を分析する視点を養うため、作業分析の目的と意味を理解し、具体的な分析方法の知識を獲得することが必要である。 授業方法：講義、演習		
到達目標	・作業とは何かを理解する。 ・作業の分類について理解する。 ・ひとが作業を行うことの意義を理解する。 ・作業の特性を理解する。		
授業形態	講義	対面授業（必要に応じて遠隔の併用授業）	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	作業療法について	基礎作業学とは何か／作業療法とは
2回	作業とは何か	作業とは何か／作業と活動、作業活動という用語
3回	作業とは何か	作業の分類
4回	ひとと作業	ライフサイクルと作業／一日の生活と作業
5回	ひとと作業	脳と作業／手と作業／身体と作業
6回	作業の特性	作業の特性(作業と結果の特性、ひとが作業をすること、ともに作業をすること)
7回	作業と生活機能	作業遂行に必要な機能(感覚運動機能、精神認知機能、活動機能)
8回	作業を分析する	作業分析とは／作業分析の目的／作業分析の種類
9回	作業を分析する	包括的作業分析
10回	作業を分析する	限定的作業分析
11回	作業を分析する	作業分析を事例で理解する
12回	作業を行う際の留意点	補足（手工芸で用いる道具など） ・まとめ

成績評価	・課題 (100%)	受講上のルール・留意点	【課題】各講義毎に自己の経験や作業に関する分析やワークを実施する。提出期限厳守とし、期限外の提出は減点。
------	------------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
課題に対しては必要に応じて個別対応する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	ひとと作業・作業活動 新版	山根寛	三輪書店
参考書			
オフィスアワー	随時		

科 目	基礎作業学演習		単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	栗原 実里・田中 英之		学 年	1年生 後期
実績経験	資格	病院勤務、訪問リハビリテーション、訪問看護でのリハビリテーションを経験。実務経験を交え講義を行う。		
	作業療法士			

授業の位置づけ	医療・福祉領域におけるリハビリテーションの一手段として作業療法があり、作業療法では様々な活動を用いて患者様のリハビリテーションに応用していく。本講義ではあくまでその一例として「室内におけるアクティビティ」を取り上げ、実体験を通して治療への活用方法を考えてもらう。活動について解説した後、実際の活動に従事して作品の完成を目指す。		
到達目標	（１）作業療法のアクティビティを体験し、作品の完成を目指すことができる。（２）具体的な作業活動を通じて、治療への応用がイメージできる。		
授業形態	講義・演習	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	オリエンテーション	授業概要説明（手作りテーション）
2回	演習１－１	手作りテーション①／革細工①
3回	演習１－２	手作りテーション②／革細工②
4回	演習１－３	手作りテーション③／革細工③
5回	演習１－４	手作りテーション④／革細工④
6回	演習１－５	手作りテーション⑤／革細工⑤
7回	演習１－６	手作りテーション⑥／革細工⑥
8回	演習１－７	手作りテーション⑦／革細工⑦
9回	演習２－１	手作りテーション①／革細工①
10回	演習２－２	手作りテーション②／革細工②
11回	演習２－３	手作りテーション③／革細工③
12回	演習２－４	手作りテーション④／革細工④
13回	演習２－５	手作りテーション⑤／革細工⑤
14回	演習２－６	手作りテーション⑥／革細工⑥
15回	演習２－７	手作りテーション⑦／革細工⑦

成績評価	課題100%	受講上のルール・留意点	3分の1を超える授業時間数を欠席したものは単位を与えない。 手作りテーション・革細工、両方の作品を完成させ提出すること。
------	--------	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは全体に実施する

	書名	著書名	出版社名
教科書	なし（資料を配布する）		
参考書	・つくる／あそぶを治療に生かす作業活動実習マニュアル	古川宏	医歯薬出版
オフィスアワー	火・土・日曜日以外、午後17時まで。 それ以外はメールで相談。		

作業療法学科 昼間部				
科 目	体験実習		単位・時間数	1単位・45時間
担当講師	深瀬・栗原		学 年	1年生 前期
実績経験	資格	精神科病院の臨床経験5年、その後「専門学校」を中心に教育歴18年。養成教育にたずさわりながら、身障系病院、高齢者施設、精神病院などでも経験を重ねた。それらの実務経験をもとに講義を行う。		
	作業療法士・健康運動実践指導者 ・修士（学術）			
授業の位置づけ	作業療法士を養成するための専門教育が本格化する前に、様々な体験を通して、今後学んでいく専門領域の具体的なイメージがわくよう準備する授業である。施設見学や障害体験、リハビリテーションの具体的な手法を体験していく。			
到達目標	（1）医療人としてふさわしい態度を身につけることができる。（2）作業療法士のかかわる領域について体験し、感想を述べることができる。（3）障害を持つと何が困るのか、疑似体験を通して自分の考えを述べる ことができる。			
授業形態	講義・演習		対面と遠隔の併用授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	オリエンテーション	授業概要説明
2回	リハビリ体験（1）	骨と筋／触診①
3回	リハビリ体験（2）	筋力増強訓練Ⅰ
4回	リハビリ体験（3）	筋力増強訓練Ⅱ
5回	リハビリ体験（4）	筋力増強訓練Ⅲ
6回	リラックス体験（1）	骨と筋／触診②
7回	リラックス体験（2）	ボディワークⅠ
8回	リラックス体験（3）	ボディワークⅡ
9回	態度教育（1）	医療機関における接遇
10回	態度教育（2）	医療機関における接遇
11回	障害体験	車いす体験
12回	コミュニケーション実習①	グループワークによる基礎科目の学習を通して、コミュニケーションの練習を行う。
13回	コミュニケーション実習②	グループワークによる基礎科目の学習を通して、コミュニケーションの練習を行う。
14回	コミュニケーション実習③	グループワークによる基礎科目の学習を通して、コミュニケーションの練習を行う。
15回	コミュニケーション実習④	グループワークによる基礎科目の学習を通して、コミュニケーションの練習を行う。
16回	コミュニケーション実習⑤	グループワークによる基礎科目の学習を通して、コミュニケーションの練習を行う。
17回	コミュニケーション実習⑥	グループワークによる基礎科目の学習を通して、コミュニケーションの練習を行う。
18回	コミュニケーション実習⑦	グループワークによる基礎科目の学習を通して、コミュニケーションの練習を行う。
19回	レポート作成体験	様々な実習を通して得た知見を、レポートにまとめる体験を行う。
20回	レポート作成体験	様々な実習を通して得た知見を、レポートにまとめる体験を行う。
21回	レポート作成体験	様々な実習を通して得た知見を、レポートにまとめる体験を行う。
22回	施設見学	施設見学のまとめと発表
23回	体験実習まとめ	体験実習と今後の展望

成績評価	授業内試験50%、課題50%	受講上のルール・留意点	3分の1を超える授業時間数を欠席したものは試験が受けられない。
------	----------------	-------------	---------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは全体に実施する

	書名	著書名	出版社名
教科書	なし（資料を配布する）		
参考書			
オフィスアワー	・「木曜日以外」または「メールで相談可」 ・上記以外でも、空いている時間は対応可能です。		

作業療法 学科 昼 間 部			
科 目	身体障害評価学Ⅰ	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	福澤 阿弾	学 年	1年生 後期
実績経験	資格	作業療法士として回復期リハビリテーション病院、老人保健施設、通所介護施設、訪問看護ステーション、放課後等デイサービスにて勤務経験あり。 その経験を活かし、身体障害分野で行われる関節可動域測定及び徒手筋力検査をについて実技を交えながら講義を行う。	
	作業療法士		

授業の位置づけ	作業療法士として治療を行うにあたり、対象者の身体機能や生活動作能力を正しく評価することはとても重要である。身体障害分野における作業療法評価および生活行為向上のために必要なアセスメントなどの目的や手段を十分に理解したうえで、関節可動域測定および筋力検査の手技を体得し、対象者の身体機能を正しく評価できるようになる。		
到達目標	身体障害分野における作業療法評価の目的及び手段を理解する。 関節可動域測定では測定の目的や方法及び注意点を理解し、適切な方法で正しい測定が行えるようになる。 筋力検査では検査の種類や目的、方法及び注意点を理解し、適切な方法で正しい検査が行えるようになる。		
授業形態	講義・演習	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	作業療法における評価について	作業療法評価の目的及び手段や技術について理解する
2回	関節可動域測定について	関節可動域測定の目的及や注意点、結果における解釈を理解する
3回	肩関節の関節可動域測定	肩関節屈曲・伸展・外転・内転・外旋・内旋・水平屈曲・水平伸展の関節可動域測定
4回	肘関節・前腕・手関節の関節可動域測定	肘関節屈曲・伸展、前腕回外・回内、手関節掌屈・背屈・橈屈・尺屈の関節可動域測定
5回	母指の関節可動域測定	橈側外転・尺側内転・掌側外転・掌側内転、MP関節屈曲・伸展、IP関節の屈曲・伸展、対立の関節可動域測定
6回	手指の関節可動域測定	MP関節屈曲・伸展、PIP関節屈曲・伸展、DIP関節屈曲・伸展、外転・内転の関節可動域測定
7回	股関節・膝関節の関節可動域測定	股関節屈曲・伸展・外転・内転・外旋・内旋、膝関節屈曲・伸展の関節可動域測定
8回	足関節・足部の関節可動域測定	足関節底屈・背屈、足部外がえし・内がえし・外転・内転の関節可動域測定
9回	筋力評価について	筋力評価の種類や目的、方法及び注意点、結果における解釈を理解する
10回	肩関節の徒手筋力検査	肩関節屈曲・伸展・外転・外旋・内旋・水平屈曲・水平伸展の徒手筋力検査
11回	肘関節・前腕・手関節の徒手筋力検査	肘関節屈曲・伸展、前腕回外・回内、手関節掌屈・背屈の徒手筋力検査
12回	母指の徒手筋力検査	橈側外転・掌側外転・内転、MP関節屈曲・伸展、IP関節の屈曲・伸展、対立の徒手筋力検査
13回	手指の徒手筋力検査	MP関節屈曲・伸展、PIP関節屈曲、DIP関節屈曲、外転・内転の徒手筋力検査
14回	股関節の徒手筋力検査	股関節屈曲・屈曲外転膝屈曲位での外旋・伸展・外転・屈曲位からの外転・内転・外旋・内旋の徒手筋力検査
15回	膝関節・足関節の徒手筋力検査	膝関節屈曲・伸展、足関節底屈・背屈ならびに内がえし・内がえし・底屈をとまなう外がえしの徒手筋力検査

成績評価	筆記試験：１００％	受講上のルール・留意点	・講義には指定した服装、身だしなみで出席する。 ・始業時に着替え等の準備ができていない場合は遅刻とする。 ・スマホ等の機器を不要に操作したり私語が多いなど、他の生徒の受講の妨げになる場合は退室を命ずることがある。 ・講義時間数の1/3以上欠席したものには単位を与えない。
------	-----------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
全体または実技内では個別にフィードバックを行う

	書名	著書名	出版社名
教科書	作業療法評価学 第4版（標準作業療法学 専門分野）	能登真一 他	医学書院
	新・徒手筋力検査法 原著第10版	Dale Avers, Marybeth Brown	協同医書出版
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

作業療法 学科						昼 間 部	
科 目		作業療法基礎演習 I		単位・時間数		1単位・30時間	
担当講師		福澤 阿弾		学 年		1年生 後期	
実績経験		資 格		作業療法士として回復期リハビリテーション病院、老人保健施設、通所介護施設、訪問看護ステーション、放課後等デイサービスにて勤務経験あり。 その経験を活かし、身体障害分野で行われる徒手筋力検査を中心に筋力検査について実技を交えながら講義を行う。			
		作業療法士					
授業の位置づけ		作業療法士として治療を行うにあたり、対象者の身体機能や生活動作能力を正しく評価することはとても重要である。 筋力検査の手技を体得し、対象者の身体機能を正しく評価できるようになる。					
到達目標		徒手筋力検査では各段階の判断基準を理解し、適切な方法で正しい検査が行えるようになる。					
授業形態		演 習		対面授業			
授業計画							
回数	項 目			講義内容			
1回	筋力評価について			筋力評価の種類や目的、方法及び注意点、結果における解釈を理解する			
2回	筋力評価について			器具を用いた筋力測定を実施。徒手筋力検査法の概要を理解する。			
3回	肩関節の徒手筋力検査			肩関節屈曲・伸展・外転・外旋の徒手筋力検査			
4回	肩関節の徒手筋力検査			肩関節内旋・水平屈曲・水平伸展の徒手筋力検査			
5回	肘関節・前腕・手関節の徒手筋力検査			肘関節屈曲・伸展、前腕回外の徒手筋力検査			
6回	肘関節・前腕・手関節の徒手筋力検査			前腕回内、手関節掌屈・背屈の徒手筋力検査			
7回	母指の徒手筋力検査			母指撓側外転・掌側外転・内転、MP関節屈曲・伸展の徒手筋力検査			
8回	母指の徒手筋力検査			母指IP関節の屈曲・伸展、対立の徒手筋力検査			
9回	手指の徒手筋力検査			手指MP関節屈曲・伸展、PIP関節屈曲の徒手筋力検査			
10回	手指の徒手筋力検査			手指DIP関節屈曲、外転・内転の徒手筋力検査			
11回	股関節の徒手筋力検査			股関節屈曲・屈曲外転膝屈曲位での外旋・伸展の徒手筋力検査			
12回	股関節の徒手筋力検査			股関節伸展・外転・屈曲位からの外転の徒手筋力検査			
13回	膝関節の徒手筋力検査			膝関節屈曲・伸展の徒手筋力検査			
14回	足関節の徒手筋力検査			足関節底屈・背屈ならびに内がえし・内がえし・底屈をとともう外がえしの徒手筋力検査			
15回	上肢・手指・下肢の徒手筋力検査			上肢・手指・下肢の徒手筋力検査の総復習			
成績評価		筆記試験：50％ 実技試験：50％		受講上のルール・留意点		・講義には指定した服装、身だしなみで出席する。 ・始業時に着替え等の準備ができていない場合は遅刻とする。 ・スマホ等の機器を不要に操作したり私語が多いなど、他の生徒の受講の妨げになる場合は退室を命ずることがある。 ・講義時間数の1/3以上欠席したものには単位を与えない。	
課題やレポートに関するフィードバック							
全体または実技内では個別にフィードバックを行う							
		書 名		著書名		出版社名	
教科書		作業療法評価学 第3版（標準作業療法学 専門分野）		能登真一 他		医学書院	
		新・徒手筋力検査法 原著第10版		Dale Avers, Marybeth Brown		協同医書出版	
オフィスアワー		授業前後の休憩時間					

科 目	運動学Ⅱ		単位・時間数	1単位・30 時間
担当講師	栗原実里		学 年	2年生 前期
実績経験	資格	資格：作業療法士 病院勤務、訪問リハビリテーション、訪問看護でのリハビリテーションを経験。 実務経験を交え講義を行う。		

授業の位置づけ	リハビリテーションで対象者を評価・治療するためには、身体の基本的な構造や機能、各関節の動き方を理解しておく必要がある。運動学Ⅱでは1年生で学んだ生体力学、解剖学・生理学の知識を用い、下肢・体幹の運動メカニズムや機能障害についてを講義と演習を交えて学習していく。		
到達目標	下肢・体幹の関節運動を、解剖学、生理学、運動学の専門用語を用いて適切に表現できる。 下肢・体幹の正常な運動メカニズムや、機能障害について説明できる。 歩行に関する基礎知識を理解し、専門用語を用いて適切に表現できる。		
授業形態	講義と演習	対面授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	下肢帯と股関節①	下肢帯の骨と関節について
2回	下肢帯と股関節②	股関節の構造と機能
3回	股関節③	股関節の運動メカニズム
4回	膝関節①	膝関節の構造と機能
5回	膝関節②	膝関節の運動メカニズム
6回	足の関節①	足の関節の構造と機能
7回	足の関節②	足の関節の運動メカニズム
8回	足の関節③	足の関節運動の機能障害
9回	下肢の神経	下肢の神経叢と神経支配
10回	脊椎	頸椎・胸椎・腰椎の解剖と運動メカニズム
11回	体幹・呼吸	体幹の運動と呼吸運動
12回	歩行①	正常歩行の基礎知識
13回	歩行②	正常歩行の基礎知識と異常歩行について
14回	顔面および頭部	顔面及び頭部の運動メカニズムを学ぶ
15回	運動学習	運動学習の基礎知識を学ぶ

成績評価	課題：30% 筆記試験：70%	受講上のルール・留意点	課題は3回提出（各10%） ①股関節・膝・足の関節の運動と機能障害 ②脊椎・体幹の運動 ③歩行・運動学習 課題は授業時に配布するので、欠席時は課題を取りにくること。（各A3用紙2枚程度）
------	--------------------	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
課題を返却し全体にフィードバックを行う

	書名	著書名	出版社名
教科書	基礎運動学 第6版補訂	中村隆一、齋藤宏、長崎浩	医歯薬出版
参考書	PT・OTビジュアルテキスト専門基礎 運動学	山崎敦	羊土社
オフィスアワー	火・土・日曜日以外、午後17時まで。 それ以外はメールで相談。		

科 目	運動学実習		単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	栗原 実里		学 年	2年生 前期
実績経験	資格	資格：作業療法士 病院勤務、訪問リハビリテーション、訪問看護でのリハビリテーションを経験。 実務経験を交え講義を行う。		

授業の位置づけ	リハビリテーションで対象者を評価・治療する際には、その人の姿勢や動作を観察する必要がある。運動学実習では、姿勢や動作を観察し、解剖学・生理学・運動学の知識を使い分析・考察をする力を、演習を中心とした授業を通し学んでいく。		
到達目標	1. 生体力学、機能解剖学、生理学、運動学の知識を用いて、ヒトの姿勢・運動・動作を観察・分析し、専門用語を用いて適切に記述できるようになる。 2. 実験・実習を通して現象を論理的に分析し、科学的に考察が出来るようになる。		
授業形態	講義・演習	対面授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	運動と動作分析	動作分析の方法を学ぶ
2回	姿勢の分析①	座位・立位姿勢を観察し、記録する
3回	姿勢の分析②	障がいのあるか方の姿勢分析（片麻痺）
4回	姿勢の分析③	障がいのあるか方の姿勢分析（パーキンソン病）
5回	寝返り動作の分析	寝返り動作を観察、分析し、記録する
6回	起き上がり動作の分析	起き上がり動作を観察、分析し、記録する
7回	起立・着座の分析①	立ち上がりと着座を観察・分析する
8回	起立・着座の分析②	立ち上がりと着座を考察、記録する
9回	起立・着座の分析③	障がいのある方の動作分析（片麻痺）
10回	歩行の分析①	正常歩行を観察、分析する
11回	歩行の分析②	正常歩行を観察、分析する
12回	歩行の分析③	異常歩行を観察、分析する（片麻痺）
13回	歩行の分析④	異常歩行を考察、記録する（パーキンソン病）
14回	A D Lの動作分析①	日常生活動作を運動学的に分析する
15回	A D Lの動作分析②	日常生活動作を運動学的に記録する

成績評価	課題 100%	受講上のルール・留意点	課題8回提出 ①姿勢分析 ②障がいのある方の姿勢分析 ③寝返り・起き上がり ④立ち上がりと着座 ⑤障がいのある方の動作分析 ⑥歩行分析 ⑦異常歩行の分析 ⑧日常生活動作の分析
------	---------	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
レポートを返却し全体に行う

	書名	著書名	出版社名
教科書	動作分析臨床活用講座～バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践～	石井慎一郎	メジカルビュー
参考書	理学療法 作業療法テキスト 運動学実習	石川朗	中山書店
オフィスアワー	火・土・日曜日以外、午後17時まで。 それ以外はメールで相談。		

科 目	病理学概論	単位・時間数	1単位・15時間
担当講師	プルカット・アルミラ	学 年	2年生 前期
実績経験	資格	大学病院などで行ってきた病理検査経験を生かし、事例と国家試験問題の解説などを交えながら講義を行う。	
	医師・医学博士		

授業の位置づけ	病理学は基礎医学の総まとめおよび臨床医学への橋渡し役となっている。解剖や生理学で学んだ人体の正常構造と機能にどんな異常が生じて患者が苦しんでいるのか、要するに「 <u>疾病の成り立ち</u> 」を理解する基礎である。すべての医療従事者に共通して患者の病態を正確に把握するために病気の原因、発生メカニズム、経過と転帰を深く理解することが求められるので、病理学の学習が必須とされる。講義では病因となる内因と外因を踏まえ、全身の各臓器で共通する、退行・進行性病変、循環障害、炎症・感染症、免疫疾患、腫瘍、先天異常などの概念や主要疾患、そして、各臓器の各疾患の特徴について説明する。授業はプレゼンテーション形式で行われる。		
到達目標	1) 進行・退行性病変，代謝障害、循環障害，炎症，腫瘍，奇形などの疾患群を総論的に説明できる。 2) 疾患に関わる病理学的用語を理解し、正しく使える。 3) 他の講座で学ぶ疾患と本講座の知識との関連性を見出し説明できる。		
授業形態	講義	遠隔授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	病理学の概要 病因論	病理学の概念について理解する、疾病の外因・内因を理解する
2回	退行・進行性病変	変生、萎縮、壊死、アポトーシスについて学ぶ 肥大、過形成、化生、異型性及び再生について学ぶ
3回	代謝異常	生命を維持するための代謝及び代謝異常により引き起こされる病態について学ぶ
4回	循環障害①	血液循環の基礎、局所循環障害について理解する
5回	循環障害② 炎症	全身循環の病因・病態について理解する。炎症の経過と生体の反応を理解する
6回	感染症 腫瘍①	感染症の成り立ち及び感染症を引き起こす主な病原体について理解する 腫瘍の特徴、命名と分類、形態、悪性腫瘍の進展形式を学ぶ
7回	腫瘍②	進行度、発生原因と発がんメカニズムを学ぶ
8回	先天異常、奇形	遺伝性疾患、染色体異常と奇形の基礎を学ぶ

成績評価	定期試験100%（授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない）	受講上のルール・留意点	・定期試験は筆記試験を行う ・不合格者対象に再試験を行う ・定期試験範囲を授業中に重要とされる内容や配布される演習問題等とする
------	--------------------------------------	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
FBは全体に実施する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学(第5版) (ISBN 978-4-260-04986-3)	奈良 勲 ら	(医学書院)
参考書			
オフィスアワー	質問があればメールでお願いします almiranasirden@gmail.com p-almira@stu.nichireha.ac.jp		

		作業療法学科	昼間部
科 目	内科学・老年学Ⅰ	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	佐久間 肇	学 年	2年生 前期
実績経験	資格	総合内科専門医、神経内科専門医、リハビリ科専門医として臨床経験を積んできた。臨床での実例経験も紹介しながら講義を行う。	
	医師		

授業の位置づけ	リハビリテーションの対象となる患者は内部障害者の他に、多数の内科系疾患を合併している患者さんが多く、内科系疾患の理解がないと適切なリハビリテーションが実施できないことや、現在のチーム医療という観点からも内科系疾患の理解が必要である。内科学全般にわたり、病態、症候、検査、治療について主にスライド利用した講義、国試過去問を利用して理解を深める。		
到達目標	主要な内科疾患の病態、症候、検査、治療について理解し、説明できる。		
授業形態	講義	「対面授業」もしくは「遠隔授業」	

授業計画		
回数		講義内容
1回	内科学総論 1	診療の流れ、身体診察法～検査
2回	内科学総論2	傷害に対する生体反応、発熱、動悸、咳・痰、呼吸困難、胸痛と腹痛など
3回	内科学総論3	吐血・下血、ショック、浮腫、胸水・腹水など
4回	内科学総論4	尿・便・血液、生理機能検査、画像検査
5回	呼吸器 1	肺の解剖と生理、症候と病態生理、臨床検査所見
6回	呼吸器 2	慢性閉塞性肺疾患、びまん性汎細気管支炎、気管支喘息
7回	呼吸器 3	拘束性肺疾患、肺縦郭腫瘍、肺腫瘍、肺循環障害、サルコイドーシスなど
8回	呼吸器 4	肺炎、ARDS、胸膜の疾患など
9回	循環器 1	心血管系の解剖と生理、主な症候、診断法、不整脈
10回	循環器 2	高血圧、低血圧、虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）
11回	循環器 3	弁膜症、心膜炎、心不全
12回	循環器 4	心筋疾患、先天性心疾患、大動脈疾患、末梢血管疾患
13回	消化器総論	解剖と生理、症候と病態生理、検査法
14回	消化器各論Ⅰ	口腔疾患、食道疾患、胃・十二指腸疾患
15回	消化器各論Ⅱ	小腸疾患、大腸疾患、肛門疾患

成績評価	国家試験に準じた形式の試験(100%)を基本とし、提出課題点を加味して最終評価とする。	受講上のルール・留意点	私語を控えること
------	---	-------------	----------

課題やレポートに関するフィードバック
課題提出後の授業で正答を配布する。

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書			
オフィスアワー	授業時間前後で質問に応じます。		

		作業療法学科	昼間部
科 目	内科学・老年学Ⅱ	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	佐久間 肇	学 年	2年生 後期
実績経験	資格	総合内科専門医、神経内科専門医、リハビリ科専門医として臨床経験を積んできた。臨床での実例経験も紹介しながら講義を行う。	
	医師		

授業の位置づけ	リハビリテーションの対象となる患者は内部障害者の他に、多数の内科系疾患を合併している患者さんが多く、内科系疾患の理解がないと適切なリハビリテーションが実施できないことや、現在のチーム医療という観点からも内科系疾患の理解が必要である。内科学全般にわたり、病態、症候、検査、治療について主にスライド利用した講義、国試過去問を利用して理解を深める。		
到達目標	主要な内科疾患の病態、症候、検査、治療について理解し、説明できる。		
授業形態	講義	「対面授業」もしくは「遠隔授業」	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	肝胆膵疾患 1	肝胆膵腹膜の解剖と生理、検査法他
2回	肝胆膵疾患 2	肝胆疾患、膵疾患、腹膜疾患
3回	血液・造血器疾患 1	血液の成分と生理、造血と血液細胞の分化、症候、検査法、赤血球系の疾患
4回	血液・造血器疾患 2	白血球系の疾患
5回	血液・造血器疾患 3	出血性疾患、血栓性疾患
6回	代謝性疾患 1	代謝・栄養の異常総論、糖尿病
7回	代謝性疾患 2	脂質異常症、メタボリックシンドローム、アミロイドーシス、高尿酸血症
8回	内分泌疾患 1	内分泌総論、下垂体疾患
9回	内分泌疾患 2	甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患
10回	腎・泌尿器疾患 1	腎の解剖と生理、症候と病態生理、検査法
11回	腎・泌尿器疾患 2	腎不全、糸球体疾患、尿細管疾患
12回	腎・泌尿器疾患 3	尿路系疾患、前立腺疾患、電解質代謝の異常
13回	膠原病 1	膠原病の診断と治療、SLE
14回	膠原病 2	RA、強直性脊椎炎、シェーグレン症候群、PAN
15回	膠原病 3	SSc、PM/DM、MCTD、ベーチェット病

成績評価	国家試験に準じた形式の試験(100%)を基本とし、提出課題点を加味して最終評価とする。	受講上のルール・留意点	私語を控えること
------	---	-------------	----------

課題やレポートに関するフィードバック
課題提出後の授業で正答を配布する。

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書			
オフィスアワー	授業時間前後で質問に応じます。		

作業療法学科 昼間部			
科目	整形外科学Ⅰ	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	植松 卓哉（代表）	学 年	2年生 前期
実績経験	資格	整形外科医師	
	医師		

授業の位置づけ	整形外科学は、上肢、下肢、体幹の運動器官を専門に扱う科で、骨、関節、筋肉、神経などが関係する分野である。骨折や捻挫などの外傷と、変形性関節症や関節リウマチなど、さまざまな疾患がある。これら運動器の外傷や疾患の治療には、リハビリテーションに関わる理学療法士、作業療法士、義肢装具士などの参加が極めて重要である。更には、運動器疾患の理解は障害者の理解にも繋がり、福祉にも関わる作業療法士にはその理解が必須である。前期では、整形外科学の概論から、主に全身に関する疾患についての講義を行う。後期では、上肢、下肢、体幹などの部位別の疾患や外傷、およびスポーツなどの特殊な項目の講義を行う。		
到達目標	整形外科学の講義、前期、後期を通じて、①運動器の構造と機能を理解する、②運動器に生じる主なる疾患や外傷の知識を得る、③運動器疾患の病態、障害を理解して、治療手段につなげる能力を養う、ことを目的とする。		
授業形態	講義	対面と遠隔の併用授業などの可能性	

授業計画			
回数	項目	担当講師	講義内容
1回	整形外科学と運動器の解剖	小原良規	整形外科とは、リハビリテーションとのかかわり、運動器解剖
2回	診断と治療総論	小原良規	整形外科診断学、治療法
3回	軟部組織損傷	小原良規	関節損傷軟部組織の外傷の総論、熱傷概論、筋区画症候群
4回	骨関節損傷総論	小原良規	骨折総論、関節損傷
5回	肩、肩甲帯	大久保敦	肩の外傷、肩関節脱臼、腱板損傷、上腕骨近位端骨折などの外傷
6回	肘	小寺訓江	肘関節周辺の骨折、肘関節周辺の外傷、変性疾患、下肢用症候群、絞扼性神経炎、前腕骨骨折、TFCC
7回	手	小寺訓江	手の解剖 神経支配
8回	手	小寺訓江	手指の変形性関節症（Heberden, CM関節症）、過使用症候群（腱炎など）、手関節～手指の外傷（橈骨遠位端骨折、手根骨骨折（舟状骨骨折、月状骨脱臼）、手指の骨折）
9回	脊椎疾患	川口宏志	腰椎の疾患、腰椎椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症、神経根症、二分脊椎
10回	股関節	植松卓哉	解剖 変形性関節症 骨折、先天性股関節脱臼、ペルテス、骨盤骨折
11回	膝	大島康史	解剖 変形性膝関節症、膝関節の外傷
12回	脊椎疾患	川口宏志	頸椎の疾患、神経根症、など
13回	足	吉田啓紀	解剖 足関節外傷、足関節疾患
14回	脊椎疾患	小野孝一郎	脊髄損傷、急性期、慢性期、合併症（褥瘡、尿路感染症、肺炎など）
15回	脊椎疾患	小野孝一郎	上肢機能、高位分類

成績評価	テスト 100%	受講上のルール・留意点	国家試験に準じた設問
------	----------	-------------	------------

課題やレポートに関するフィードバック
FBは全体に実施する

	書名	著書名	出版社名
教科書	整形外科学テキスト（改定第4版）	高橋 邦奏、芳賀 信彦 編	南江堂
参考書			
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

科目	整形外科Ⅱ	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	植松 卓哉（代表）	学 年	2年生 後期
実績経験	資格	整形外科医師	
	医師		

授業の位置づけ	整形外科は、上肢、下肢、体幹の運動器官を専門に扱う科で、骨、関節、筋肉、神経などが関係する分野である。骨折や捻挫などの外傷と、変形性関節症や関節リウマチなど、さまざまな疾患がある。これら運動器の外傷や疾患の治療には、リハビリテーションに関わる理学療法士、作業療法士、義肢装具士などの参加が極めて重要である。更には、運動器疾患の理解は障害者の理解にも繋がり、福祉にも関わる作業療法士にはその理解が必須である。前期では、整形外科の概論から、主に全身に関する疾患についての講義を行う。後期では、上肢、下肢、体幹などの部位別の疾患や外傷、およびスポーツなどの特殊な項目の講義を行う。		
到達目標	整形外科の講義、前期、後期を通じて、①運動器の構造と機能を理解する、②運動器に生じる主なる疾患や外傷の知識を得る、③運動器疾患の病態、障害を理解して、治療手段につなげる能力を養う、ことを目的とする。		
授業形態	講義	対面と遠隔の併用授業などの可能性	

授業計画

回数	項目	担当講師	講義内容
1回	ロコモティブシンドローム	吉田啓紀	ロコモティブシンドロームの概念、運動器不安定症、フレイル、高齢者の運動器
2回	リウマチ性疾患 1	眞島任史	関節リウマチ
3回	リウマチ性疾患 2	友利裕二	脊椎関節炎 自己免疫疾患と骨関節症
4回	関節疾患	大久保敦	変形性関節症 痛風 血友病性関節症
5回	感染症	川口宏志	化膿性関節炎、骨髄炎、骨関節の感染症
6回	代謝、内分泌疾患	吉田啓紀	骨粗鬆症の概念、診断、治療、トピックス
7回	脳性麻痺	友利裕二	脳性麻痺 原因 発達 病型
8回	神経筋疾患	小寺訓江	末梢神経障害（上肢）
9回	神経筋疾患	大島康史	末梢神経障害（下肢）、筋疾患
10回	骨系統疾患・骨端症	植松卓哉	骨系統疾患・骨端症
11回	腫瘍、	北川泰之	運動器の腫瘍（骨腫瘍、軟部腫瘍）、腫瘍性疾患
12回	血行障害・慢性疼痛疾患	友利裕二	血行障害・慢性疼痛症候群（CRPS、線維筋痛症、など）
13回	切断	北川泰之	切断肢（切断術、義肢、合併症、リハビリテーション）
14回	補装具と整形外科	春日勇輝	補装具の役割
15回	スポーツ整形外科	大久保敦	障害者スポーツ、スポーツ外傷、スポーツ障害、疲労骨折、RICE、など

成績評価	テスト 100%	受講上のルール・留意点	国家試験に準じた設問
------	----------	-------------	------------

課題やレポートに関するフィードバック
FBは全体に実施する

	書名	著書名	出版社名
教科書	高橋 邦奏、芳賀 信彦 編	高橋 邦奏、芳賀 信彦 編	南江堂
参考書			
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

作業療法学科 昼間部			
科目	神経内科学Ⅰ	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	加藤 陽久	学 年	2年生 前期
実績経験	資格	脳神経内科医として25年以上の臨床実務経験から、リハビリテーションへの神経内科学の関与の重要性を説く。	
	医師		

授業の位置づけ	将来、リハビリテーションに関わる医療人として活動するために必要な神経内科学の基礎知識を学ぶ。本邦では高齢化社会がすすみ、疾患を有しても、充実した人生を歩むことが望まれることから、リハビリテーションへの期待はますます高まるばかりである。リハビリテーションの対象となる疾患として、整形外科疾患とともに、脳卒中や神経変性疾患をはじめとした神経疾患は主要な疾患群であり、高齢化社会を迎えた本邦にあっては、今後、神経疾患を有する患者が増加することは想像に難くない。このことから神経内科学を理解することは、リハビリテーションに関わる医療人として必須の要素となる。本講義では、神経内科学について、神経症候学・神経学的検査・神経疾患各論へと講義を進め、解説していく。		
到達目標	神経内科学総論を理解し、リハビリテーションの実践に活かす基礎的な知識を身につける。		
授業形態	講義	対面授業もしくはオンデマンド	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	神経系の基礎	神経系の解剖・生理
2回	神経診察Ⅰ	意識
3回	神経診察Ⅱ	高次脳機能Ⅰ
4回	神経診察Ⅲ	高次脳機能Ⅱ
5回	神経診察Ⅳ	脳神経系Ⅰ
6回	神経診察Ⅴ	脳神経系Ⅱ
7回	神経診察Ⅵ	脳神経系Ⅲ
8回	神経診察Ⅶ	運動系Ⅰ
9回	神経診察Ⅷ	運動系Ⅱ
10回	神経診察Ⅸ	不随意運動
11回	神経診察Ⅹ	感覚系・反射
12回	神経系の検査Ⅰ	神経画像Ⅰ
13回	神経系の検査Ⅱ	神経画像Ⅱ
14回	神経系の検査Ⅲ	生理学的検査
15回	神経系の検査Ⅳ	脳脊髄液検査

成績評価	テスト100%	受講上のルール・留意点	講義には積極的な姿勢で臨みたい。
------	---------	-------------	------------------

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは適宜実施する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	神経内科学テキスト 第5版	江藤文夫・飯島節 編	南江堂
参考書	ベッドサイドの神経の診かた 第18 版 臨床のための神経機能解剖学 脳の機能解剖と画像診断 第2版	田崎義昭・斎藤佳雄 著 後藤 文男 眞柳 佳昭	南山堂 中外医学社 医学書院
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

作業療法学科 昼 間 部			
科 目	神経内科学Ⅱ	単位・時間数	2単位・ 30時間
担当講師	加藤 陽久	学 年	2年生 前期
実績経験	資格	脳神経内科医として25年以上の臨床実務経験から、リハビリテーションへの神経内科学の関与の重要性を説く。	
	医師		

授業の位置づけ	将来、リハビリテーションに関わる医療人として活動するために必要な神経内科学の基礎知識を学ぶ。本邦では高齢化社会がすすみ、疾患を有しても、充実した人生を歩むことが望まれることから、リハビリテーションへの期待はますます高まるばかりである。リハビリテーションの対象となる疾患として、整形外科疾患とともに、脳卒中や神経変性疾患をはじめとした神経疾患は主要な疾患群であり、高齢化社会を迎えた本邦にあっては、今後、神経疾患を有する患者が増加することは想像に難くない。このことから神経内科学を理解することは、リハビリテーションに関わる医療人として必須の要素となる。本講義では、神経内科学について、神経症候学・神経学的検査・神経疾患各論へと講義を進め、解説していく。		
到達目標	神経内科学各論を理解し、リハビリテーションの実践に活かす基礎的な知識を身につける。		
授業形態	講義	対面授業もしくはオンデマンド	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	脳血管障害Ⅰ	虚血性脳血管障害
2回	脳血管障害Ⅱ	出血性脳血管障害
3回	脳血管障害Ⅲ	その他の血管障害
4回	変性疾患Ⅰ	パーキンソン病とその類縁疾患
5回	変性疾患Ⅱ	脊髄小脳変性症
6回	変性疾患Ⅲ	運動ニューロン疾患、他
7回	脱髄性疾患	多発性硬化症、他
8回	末梢神経疾患	ギラン・バレー症候群、他
9回	筋疾患	筋ジストロフィー、他
10回	神経筋接合部疾患	重症筋無力症、他
11回	腫瘍・脊髄疾患	脳腫瘍、他
12回	感染性疾患	髄膜炎、他
13回	先天異常・内科系疾患	内科系疾患における神経障害、他
14回	外傷・自律神経疾患・機能性疾患	頭痛・めまい・てんかん、他
15回	認知症疾患	アルツハイマー病、他

成績評価	テスト	受講上のルール・留意点	講義には積極的な姿勢で臨みたい。
------	-----	-------------	------------------

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは適宜実施する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	神経内科学テキスト 第5版	江藤文夫・飯島節 編	南江堂
参考書	ベッドサイドの神経の診かた 第18 版 臨床のための神経機能解剖学 脳の機能解剖と画像診断 第2版	田崎義昭・斎藤佳雄 著 後藤 文男 眞柳 佳昭	南山堂 中外医学社 医学書院
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

科 目	リハビリテーション医学概論Ⅱ		単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	石川 秀志・OT学科教員		学 年	2年生 後期
実績経験	資格	OT学科教員：医療福祉領域での臨床経験を下に教授する		
	石川：文学博士・キャリアコンサルタント OT教員：作業療法士			

授業の位置づけ	この授業では、リハビリテーション概論に関する基本的知識を習得する。社会福祉やリハビリテーションとは何か。他の政策との比較や歴史的経緯をもとに理解する。		
到達目標	福祉のこころを理解し、現代社会の状況を考えていくことができる。		
授業形態	講義	併用授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	社会福祉とは	憲法の13条・25条を考えてみる
2回	社会福祉の歴史	日本の社会福祉の歴史
3回	社会福祉の歴史	ヨーロッパにおける社会福祉の歴史
4回	社会福祉法制と行財政	社会福祉の法と行財政の基礎知識について学ぶ
5回	最低生活保障と生活保護制度	貧困問題と生活保護制度について学び、貧困の背景について理解する
6回	児童家庭福祉の課題	児童の権利について学ぶ
7回	障害者総合支援法	障がい者の自立と福祉 「障害者総合支援法」の内容を学ぶ
8回	高齢者の生活と福祉	日本が直面する急速な高齢化について学ぶ
9回	地域福祉	地域において新たな支え合いについて学ぶ
10回	これからの社会福祉	東日本大震災や新型コロナウイルス感染症を乗り越えての福祉を考える
11回	リハビリテーションの概念	概念・語源・理念・定義の再学習
12回	リハビリテーションの過程	評価・治療の一連の流れ
13回	リハビリテーションの諸段階	医学的・職業的・社会的・教育的リハビリテーション
14回	専門職とチームアプローチ	多職種連携について
15回	医療保険・医療法	医療保険でのリハビリテーション、医療法

成績評価	定期試験：筆記試験100%	受講上のルール・留意点	授業では、確認の問題を行うことがある。講義をよく聞きできるだけメモを取るようにする。私語で回りに迷惑をかけないこと。
------	---------------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは適宜行う

	書名	著書名	出版社名
教科書	新社会福祉とは何か／リハビリテーション概論（改訂第4版）	大久保秀子著／田島文博著	中央法規／永井書
参考書			
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

		作業療法学科 昼間部	
科 目	地域実習セミナー	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	阿部 英人	学 年	2年生 後期
実績経験	資格	【作業療法実務経験】10年 医療機関および老人保健施設での臨床経験 【養成校教育経験】12年	
	作業療法士 介護支援専門員		

授業の位置づけ	地域実習前後における、地域リハビリテーションに関する知識の整理および技能の確認。 また、実習に向けた態度面の自身の傾向や実習後の振り返り等を通した、作業療法士としての基本的態度の修得を図ります。 実習地における施設の役割や機能、その中で働く作業療法士の業務を知ることで、事前学習としての準備をし、実習後にその内容について見学・体験したことを情報共有していきます。		
到達目標	①施設のしくみや役割と医療・福祉機関とのつながりを説明できる ②実習地における作業療法士および関連職種の業務と役割を説明できる ③対象となる地域における、地域課題や生活課題について解説できる ④自身の作業療法士としての態度を振り返り、基本的態度の獲得にむけた取組みと課題を明確にできる		
授業形態	グループワークを基本とする ディスカッションや実技練習および発表	対面授業（必要に応じて遠隔の併用授業）	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	オリエンテーション	地域実習セミナーのスケジュールおよび内容について
2回	実習前事前学習1	実習地に関する調べ学習（個人ワーク）：地域課題、対象者、対象疾患・障害、保険制度等
3回	実習前事前学習2	実習地に関する調べ学習（個人ワーク）：連携機関、連携職種、連携方法など
4回	実習前事前学習3	事前学習1・2の確認と共有：発表
5回	実習前事前学習4	事前学習1・3の確認と共有：発表
6回	実習前事前学習5	実習に必要な態度・技術・知識の確認（個人ワーク）
7回	実習前事前学習6	実習に必要な態度・技術・知識の練習（グループワーク）
8回	実習前事前学習7	実習に必要な態度・技術・知識の練習（グループワーク）
9回	実習後振り返り学習1	実習経験チェック（個人ワーク）：実習で経験した技能と知識の振り返り
10回	実習後振り返り学習2	実習経験チェック（個人ワーク）：実習後課題作成
11回	実習後振り返り学習3	地域実習発表資料作成（個人ワーク）：レジュメ等の発表用資料作成
12回	実習後振り返り学習4	地域実習発表資料作成（個人ワーク）：レジュメ等の発表用資料作成
13回	実習後振り返り学習5	地域実習経験発表1
14回	実習後振り返り学習6	地域実習経験発表2
15回	実習後振り返り学習7	地域実習経験発表3

成績評価	●授業態度：50％ （提出期限厳守・課題への取組み等） ●グループワーク課題：50％ （課題内容やまとめ方の工夫等） 上記を総合評価とする	受講上のルール・留意点	地域実習前後の学習として、各自が主体的に必要な学修に向けて取り組んでください。 また、個々の実習経験で学んだことを、発表を通して、全体で共有していきましょう。 セミナー内での実習に関連する個人情報の保護などは、臨床実習に準じ、実習同等に扱います。
------	---	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
担当教員を設定する場合は、原則担当教員からフィードバックを受けてください。

	書名	著書名	出版社名
教科書	指定なし		
	（地域作業療法実習時に各自使用した教科書等を活用すること）		
オフィスアワー	毎週金曜を除いて適宜 不在時はメール等で対応		

作業療法学科 昼 間 部			
科 目	作業療法管理学	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	五十嵐千代子	学 年	2年生 後期
実績経験	資格	作業療法士として病院勤務などの実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う	
	作業療法士		

授業の位置づけ	・作業療法士は国の社会保障制度（医療保険や介護保険など）のもとで従事していることを認識する。 ・この制度下でさまざまな職業の方々と共に職務を遂行していく「多職種連携」について知る。 ・これからの日本の人口構造や制度の変化に対応できる「マネジメント力」について知る。 ・「職場管理」「組織運営」について知る。 ・専門職としての「職業倫理」を知り、日頃より意識して行動できるようにする。 ・卒業後も専門職として自己研鑽が必要であることを知る。		
到達目標	・「医療保険」と「介護保険」について対象者、保険の概要について説明することができる。 ・「障害者総合支援法」や「就労支援」について対象者や内容の説明をすることができる。 ・専門職に求められる「職業倫理」について説明することができる。 ・職場の「管理」「運営」について具体例を挙げて説明することができる。 ・「質の保証」と「リスクマネジメントについて説明できる。 ・卒後教育について説明できる。		
授業形態	講義・演習	対面と遠隔の併用授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	働くということ	社会人基礎力の講義 在学中に身につけることについて個人ワークとグループディスカッション。発表。＊①
2回	社会保障制度	医療保険と介護保険 保険の対象とその概要について講義後に図でまとめて理解をする。＊②
3回	障害者・障害児サービス	障害者手帳、障害者総合支援法 についての講義
4回	就労支援	就労支援に関する施設と内容 就労支援の概要を把握し居住地域の就労支援施設を調べてシートにまとめる。＊③
5回	地域における予防・保健	行政におけるリハビリテーション 地域包括ケアシステムの講義 事例の紹介
6回	職業倫理	専門職に求められる職業倫理についての講義後に自己研鑽の必要性についてグループワーク、発表。＊④
7回	身分法と倫理綱領	法律／職能団体 講義後に作業療法士として勤務できる条件についてグループワーク、発表。＊⑤
8回	業務管理	部門の役割／療法士の業務 組織、記録、診療報酬についての講義
9回	労務管理	労働条件管理や労働環境の整備についての講義，報道記事を用いた労働に関する問題提起とグループディスカッション。発表。＊⑥
10回	組織マネジメント	組織マネジメント リーダーシップとマネジメントの講義と身近な事例のグループ検討。発表。＊⑦
11回	多職種連携と地域連携	他職種連携 講義と連携事例の紹介
12回	〃	地域連携 地域ケア会議の動画を観ての感想を記載する。＊⑧
13回	医療の質とリスクマネジメント	患者満足度と質／リスクマネジメント 日常のリスクマネジメントについての演習。＊⑨
14回	養成教育と卒後教育	養成教育と卒後教育 専門職になるためとなった後の教育についての講義
15回	〃	自己研鑽、職能団体の役割、学会、学術活動についての講義

成績評価	○＊①～⑨までの成果物 (各 5 点× 9) 45点 定期試験 55点 計100点 ○授業時間数の 3 分の 1 以上欠席した者には単位を与えない	受講上のルール・留意点	スマートフォン、PCなどは指示のあったときのみ使用してください。
------	--	-------------	----------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
授業内は口頭フィードバック、記載したものに関してはコメントを付けて返却。

	書名	著書名	出版社名
教科書	リハビリテーション管理学	斉藤秀之 能登真一	医学書院
参考書			
オフィスアワー	平日 9時～17時（木曜日以外） 教員室 メールでの連絡は常に受け付けますが、返信には時間を要する場合あり。		

作業療法学科 昼 間 部			
科 目	身体障害評価学Ⅱ	単位・時間数	2単位・48時間
担当講師	五十嵐千代子・伴野麻矢	学 年	2年生 前期
実績経験	資格	作業療法士として病院勤務などの実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う	
	作業療法士		

授業の位置づけ	「上肢骨折」「末梢神経損傷」「関節リウマチ」「脊髄損傷」に関して、作業遂行評価について原因・症状、生活行為やそれを行うのに必要な心身の活動,生活上の障害などについて学ぶ。またそれぞれの評価について1年生で習ったことの応用や、対象者にとって個別的な目的や価値における作業ニードの評価などを生活行為向上マネジメントの臨床思考過程にそって説明する。		
到達目標	- それぞれの疾患の原因や医学的治療、障害像について説明することができる。 - 疾患の特徴に沿った評価について説明できる。 - 個々に求める生活行為を向上させるための作業療法治療・援助などについて説明できる。		
授業形態	講義・演習	対面と遠隔の併用授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	脊髄損傷 (頸髄損傷を中心に)	脊髄を損傷すると生じる機能障害について講義
2回		脊髄を損傷すると生じる機能障害について講義
3回		脊髄損傷の評価
4回		脊髄損傷の評価
5回		残存筋とADLの関連
6回		機能レベル別のADL
7回		機能レベル別のADL
8回		機能レベル別のADL
9回		頸髄損傷者のIADL／旅行やレジャープラン検討.
10回		頸髄損傷者のIADL／旅行やレジャープランのまとめ，プレゼンテーションの準備.
11回		頸髄損傷者のIADL／旅行やレジャープランの発表
12回		頸髄損傷者のIADL／旅行やレジャープランの発表
13回	関節リウマチ	関節リウマチの発生機序、病態像、医学的治療について講義
14回		関節リウマチの障害像と評価、作業療法について講義
15回	上肢骨折	骨、関節の構造、骨代謝について、骨折とは（骨折の分類）、治癒過程と治癒条件 講義
16回		骨折の医学的治療、評価について講義、作業療法プログラムについて講義
17回		上腕骨骨折・肘関節脱臼・前腕骨骨折
18回		手根骨・中手骨の骨折
19回		評価について
20回		作業療法プログラムについて
21回	末梢神経損傷	末梢神経の分類、構造、機能、末梢神経損傷の原因、分類、医学的治療（修復方法）
22回		末梢神経損傷の評価
23回		末梢神経損傷の評価と作業療法プログラムについて講義
24回		末梢神経損傷の作業療法プログラムについて講義

成績評価		○授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない	受講上のルール・留意点	- スマートフォン、PCなどは指示のあったときのみ使用してください。 - 脊髄損傷の演習ではTシャツ・ジャージ・スニーカーなど動きやすい服装で参加してください。

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは全体に実施する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 作業療法学全書 身体障害	編集 能登真一 編集 菅原洋子	医学書院 協同医書出版
参考書	解剖学、生理学、整形外科学の教科書		
オフィスアワー	平日 9時～17時 教員室 伴野・五十嵐宛のメールでの連絡は常に受け付けますが、返信には時間を要する場合あり。		

作業療法学科 昼間部			
科 目	身体障害評価学演習	単位・時間数	1単位・45時間
担当講師	伴野 麻矢	学 年	2年生 後期
実績経験	資格	病院など臨床での経験を活かして脳血管障害の知識、評価実技の講義・演習を行います。	
	作業療法士		

授業の位置づけ	身体障害領域の中でも脳血管疾患の対象者を診る機会が多くあります。この授業では脳血管疾患の病態・基礎知識と評価の基礎から実践までを学びます。臨床では疾患の病態や障害特性を把握した上での評価がとても大切です。実際の対象者を前に評価をすることを前提に評価時の態度や身だしなみ、話し方なども作業療法士に必要な技能です。臨床でより実践的な技能を身に着けていくことを心掛け、この授業を受講してください。
到達目標	身体障害領域の脳血管疾患の基礎知識と評価の基礎から実践までを学び、模擬患者に必要な評価を実施できる。
授業形態	講義・演習 （対面授業）

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	脳血管疾患について	中枢神経系の構造と機能・脳動脈と脳血管疾患について
2回		脳血管疾患の発生機序と分類・病態と障害
3回	脳血管障害の評価の概要	脳血管疾患の障害と評価内容の概要
4回		脳血管疾患の評価の流れ
5回	脳血管疾患の障害と評価	脳血管疾患の障害：反射と筋緊張の異常の機序（講義）
6回		脳血管疾患の評価：反射・筋緊張の亢進と関節拘縮の関係性と評価（講義）
7回		脳血管疾患の評価：反射と筋緊張の評価技法（演習）
8回		脳血管疾患の評価：反射と筋緊張の低下、亢進時のROMの評価技法（演習）
9回		脳血管疾患の障害：運動麻痺・運動失調・不随意運動（講義）
10回		脳血管疾患の評価：ブルンストロームの運動検査と回復段階（講義と演習）
11回		脳血管疾患の評価：ブルンストロームテスト（演習）
12回		脳血管疾患の評価：ブルンストローム（演習）
13回		脳血管疾患の評価：ブルンストロームと上田の片麻痺機能テスト（演習）
14回		脳血管疾患の障害：感覚・知覚（講義）
15回		脳血管疾患の評価：感覚・知覚の検査（演習）
16回		脳血管疾患の評価：バランス（姿勢反射）の知識と障害（講義）
17回		脳血管疾患の評価；バランス検査（演習）
18回		脳血管疾患の障害：脳神経（視野、眼球運動、咀嚼嚥下、構音）の障害
19回		脳血管疾患の評価：脳神経の評価（視野検査、追視検査）（演習）
20回	脳血管疾患の動作の評価	脳血管疾患の動作：基本動作の観察評価（講義・演習）
21回		脳血管疾患の動作：基本動作の観察評価（講義・演習）
22回	脳血管疾患の画像評価	脳血管疾患の画像の診かた：脳の解剖と機能、画像の種類、画像と病巣・障害予測
23回	脳血管疾患の評価のまとめ	脳血管疾患の障害と評価のまとめ（講義・演習）

成績評価	◎実技テストを実施する（50点） 症例を提示し、症例を想定した評価が実施できるかをテストする	受講上のルール・留意点	評価実技は沢山の練習が必要です。授業内のみならず、各自で自主練習をして臨床実習までに評価ができるように努めてください。
	◎定期末筆記試験（50点） 知識面のテストを実施する		
	実技テストと筆記テストの合計点で評定する		

課題やレポートに関するフィードバック

	書名	著書名	出版社名
教科書	作業療法学全書 身体障害 病気がみえるvol. 7脳神経 標準作業療法 専門 作業療法評価学第3版		
参考書			
オフィスアワー			

科 目	精神障害評価学		単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	手塚 雅之		学 年	2年生 前期
実績経験	資格	精神科病院の臨床経験8年、「専門学校」を中心に教育歴20年。養成教育にたずさわりながら、身障系病院、高齢者施設、精神病院などでも経験を重ねた。それらの実務経験をもとに講義を行う。		
	作業療法士・健康運動実践指導者・修士(学術)			

授業の位置づけ	作業療法は精神科領域におけるリハビリテーションの中心に据えられており、作業療法を実施するにあたって、様々な精神障害者の特徴を知り、精神科作業療法の一連の流れを理解しておく必要がある。本講義では精神科作業療法を実施する際に、初期の段階で必須となる「評価技法」について、その意義・目的・方法を解説する。精神障害のある人を理解し援助するための基礎技法は、「人を理解する」という観点から他の分野にも通用する大切な技法であり、医療従事者としては必須の能力である。		
到達目標	精神科作業療法における「評価方法」の一環として、（１）患者理解・自己理解について説明できる。（２）精神科作業療法の評価の基礎技法・要点について説明できる。		
授業形態	講義・演習	対面と遠隔の併用授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	評価学の概要	精神科における「観察」と「評価」
2回	評価とは	一連の流れ／情報収集より大事なこと
3回	観察（１）	第一印象とノンバーバルサイン
4回	観察（２）	ノンバーバルサイン
5回	患者・自己理解	関与しながらの観察／自己の治療的活用／精神機能の評価
6回	観察（３）	生活の観察
7回	観察（４）	作業遂行能力の観察
8回	観察（５）	日常生活の観察
9回	評価手法（１）	興味チェックリスト／箱作り法
10回	評価手法（２）	HTPテスト
11回	評価プロセス	評価と治療／リハビリテーションの流れ
12回	MTDLP	生活行為向上マネジメント
13回	評価のまとめ	臨床思考過程／ICF／評価のまとめ
14回	治療目標の設定	長期目標・短期目標
15回	講義のまとめ	評価学のまとめ

成績評価	試験60%、課題40%	受講上のルール・留意点	3分の1を超える授業時間数を欠席したものは試験が受けられない。
------	-------------	-------------	---------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは全体に実施する

	書名	著書名	出版社名
教科書	・精神障害と作業療法	山根寛	三輪書店
参考書	・精神疾患の理解と精神科作業療法	堀田英樹	中央法規出版
オフィスアワー	・「木曜日以外」または「メールで相談可」 ・上記以外でも、空いている時間は対応可能です。		

科 目	発達障害評価学		単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	大西 麓子		学 年	2年生 前期
実績経験	資 格	臨床・教育：50年		
	作業療法士			

授業の位置づけ	発達に障害を持つ子どもや療育者を支援するさい作業療法士は様々な評価を実施する。関わる子どもは生まれた時から障害を持っていることが多い。その障害（疾患）も様々であり、療育者への関与に関しても支援することが重要である。作業療法士が援助を開始するためには、情報を収集し、分析し、解釈しつつ子どもの課題の原因と出現のメカニズムを知る作業が必要である。情報を収集するためには臨床場面でよく実施される臨床観察や使用される評価法を学ぶ必要がある。方法としては臨床観察の仕方と標準化されている評価法を経験し、臨床思考はMTDLPと照らし合わせる。自分の体をどのように動かすと、臥位から座ることができるのかな？（運動機能）握ったり、摘んだりするには目の動きや体の位置はどうなっているのかな？（巧緻運動、手と目の協調性）いつも動き回って、集中することが苦手な子どもはなぜ？（公園にある遊具はどのように動かし、脳のどこに作用するのか）評価する方法が多くなるのでノートのとり方、配布される資料の整理をしっかりとすること。		
到達目標	発達に障害を持つ子どもの様々な疾患の基礎知識と評価の基礎から実施まで学び、必要な評価について具体的に説明ができること。		
授業形態	対面授業		

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	発達障害領域について	発達とは 発達障害における評価の意義 症例 1
2回	発達障害の評価（粗大運動）	乳幼児の運動発達：自分の体を動かす。他人の動きを観察する
3回	発達障害の評価（粗大運動）	乳幼時の運動発達：自分の体を動かす。他人の動きを観察する。
4回	運動発達の評価	粗大運動機能（粗大運動能力尺度等の紹介
5回	運動発達の評価	反射・反応、筋緊張
6回	運動発達の評価	上肢機能検査 症例 2
7回	標準化された評価法（量的）	全般的発達検査
8回	標準化された評価法（量的）	全般的発達検査 症例 3
9回	特定の領域の検査	知覚・認知機能、心理・社会機能検査
10回	特定の領域の検査	知的検査等
11回	特定の領域の検査	感覚統合機能検査
12回	特定の領域の検査	感覚統合機能検査等
13回	特定の領域の検査	エハート視覚機能評価 エハート把持機能評価
14回	発達障害の評価のまとめ	症例 4・5 をみて評価・分析をする
15回	発達障害の評価のまとめ	発達障害の評価のまとめ

成績評価	・筆記試験（90％） ・レポート提出（10％）	受講上のルール・留意点	・演習では体が動きやすい服装で参加してください。 ・評価実技は沢山の練習といろんな学生さんと練習することが大切です。 ・各項目でプリントを配布します必ず持参すること
------	----------------------------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック	

	書名	著書名	出版社名
教科書	標準作業療法 専門分野 作業療法評価学	岩崎 テル子ら著	医学書院
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

作業療法学科 昼間部			
科 目	作業療法基礎演習Ⅱ	単位・時間数	2単位・60時間
担当講師	阿部英人、大西麓子、手塚雅之	学 年	2年生 前期
実績経験	資格		
	作業療法士		

授業の位置づけ	作業療法は「評価に始まり、評価に終わる」と言われるほど作業療法士が対象者を『評価』をすることはとても大切です。対象者の情報・状態を正確に捉えることが『評価』です。そのためには、正確な検査・測定や面接技法などを学び、正しい方法で評価を実施できる必要があります。この授業では作業療法の主な3つの領域である身体障害、精神障害、発達障害分野における評価技法を実技・演習を通じて習得します。		
到達目標	①身体障害分野の検査測定の目的、内容を理解し適切な方法で実施できる。 ②精神障害評価学で学んだ精神科領域における「作業療法評価の技法」を演習を通して経験し実施できる。 ③発達障害についての疾患知識を学び、評価を理解し、説明できる。発達障害の問題解決のために必要な評価及び支援内容を理解し説明できる。		
授業形態	演習	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	身体障害分野① 担当：栗原	バイタルサイン 講義と実技
2回		
3回	身体障害分野② 担当：栗原	上肢機能検査 講義と実技
4回		
5回	身体障害分野③ 担当：阿部	知覚検査 感覚の伝導路と感覚の種類
6回		感覚検査の意義と目的 中枢神経系疾患と末梢神経損傷における感覚検査の違い
7回		表在感覚の検査 演習
8回		深部感覚の検査 演習
9回		複合感覚の検査 演習
10回		感覚検査のまとめ
11回	精神障害分野 講義オリエンテーション 担当：手塚	対人コミュニケーションの演習を行う
12回	精神障害分野 他者・自己の理解	自己肯定感・自己管理能力について演習を通して学ぶ
13回		
14回	精神障害分野 観察・面接（観る）	観察から非言語的情報を読み取る体験を行う
15回	精神障害分野 観察・面接（聴く）	対人コミュニケーションにおいて聴く練習を行う
16回	精神障害分野 観察・面接（伝える）	伝え方、伝わり方の演習を行う
17回	精神障害分野 医療面接	信頼関係を築くための面接・質問を考える
18回		医療場面における面接を体験する
19回	精神障害分野 観察（作業面接）	作業面接の観察・記録をする
20回		
21回	発達障害分野 知的機能の評価 担当：大西	知的機能に必要な評価項目と実施、解釈について学ぶ
22回		
23回	発達障害分野 発達障害児の評価	遊びの評価、視知覚機能、上肢の操作機能評価を学ぶ
24回		粗大運動機能評価
25回	発達障害分野 脳性麻痺児の評価（姿勢・運動）	脳性まひの特徴を知り、反射・筋緊張・姿勢反射・姿勢と手の機能を学ぶ
26回	発達障害分野 脳性麻痺児の上肢機能評価	脳性まひの特徴を知り、姿勢と手の機能、日常生活動作機能評価を学ぶ
27回	発達障害分野 重症心身障害児の評価	姿勢・手の機能の特徴を学ぶ、対象者の評価を学ぶ
28回	発達障害分野 摂食機能評価	対象者の特徴を知り口腔機能の評価方法を学ぶ
29回	発達障害分野 食事動作機能評価	対象者の特徴を知り食事動作機能の評価方法を学ぶ
30回	発達障害分野 整形外科疾患に対する評価（二分脊椎など）	疾患に合わせた評価、まとめを学ぶ

成績評価	レポート、筆記試験、実技試験などの結果を総合して評価を行う。 評価方法は各分野によって異なる。各分野の評価点は60%以上の得点を得なければならない。 いずれかの分野が60%に満たない場合は、当該分野について再試験を実施する。	受講上のルール・留意点	身障分野①②：担当教員 阿部 身障分野③：担当教員 阿部 精神分野：担当教員 手塚 発達分野：担当教員 大西 実技の習得には練習が必要です。技法のみならず、評価を行う目的や評価方法など対象者に正確に提示・説明することも大切です。実技演習をする際は、実際の対象者を想定した練習を心掛けて取り組んでください。
------	--	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック

	書名	著書名	出版社名
教科書	（身体障害分野）標準作業療法学 作業療法評価学 能登真一 他 編集 医学書院 （精神障害分野）標準作業療法学 作業療法評価学 能登真一 他 編集 医学書院 （発達障害分野）作業療法学ゴールドマスターテキスト 発達障害作業療法学 長崎重信 監修 MEDICAL VIEW		
参考書			
オフィスアワー	各教員に確認のこと		

科 目	身体障害治療学 I	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	阿部 英人、五十嵐千代子	学 年	2年生 後期
実績経験	資格	作業療法士としての実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う	
	作業療法士		

授業の位置づけ	○ I C F とは2001年に世界保健機関（WHO）総会において採択された人間の生活機能と障害の分類法である。作業療法を展開するにあたり、対象者個人の人物・物的・文化的環境との関わりを幅広く捉え、プラス面、マイナス面を同時に評価し、治療に結び付ける視点を養う必要がある。 ○また、生活行為向上マネジメントにおけるアセスメントは、ICFとの共通性も高く、治療学としての臨床思考も学ぶ。 ○循環器、呼吸器、糖尿病、腫瘍などについての病態及び評価方法、治療法について講義を通して学ぶ。		
到達目標	①ICFの特徴について説明することが出来る。 ②事例をもとにICFの分類を行うことが出来る。 ③各疾患の病態を説明することが出来る。 ④各疾患の介入方法について説明することが出来る。		
授業形態	講義・演習	対面授業または対面と遠隔の併用授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	ICFについて	ICFの概念について
2回	ICFについて	ICFによる生活機能と障害の分類、環境因子の分類
3回	循環器疾患の作業療法	循環器の構造と機能
4回	循環器疾患の作業療法	循環器疾患の病態について
5回	循環器疾患の作業療法	循環器疾患の作業療法
6回	循環器疾患の作業療法	循環器疾患の作業療法
7回	呼吸器疾患の作業療法	呼吸器の構造と機能
8回	呼吸器疾患の作業療法	呼吸器疾患の病態について
9回	呼吸器疾患の作業療法	呼吸器疾患の作業療法
10回	呼吸器疾患の作業療法	呼吸器疾患の作業療法
11回	糖尿病疾患の作業療法	糖尿病疾患の病態について
12回	糖尿病疾患の作業療法	糖尿病疾患の作業療法
13回	腫瘍疾患の作業療法	腫瘍疾患の病態について
14回	腫瘍疾患の作業療法	腫瘍疾患の作業療法
15回	終末期の作業療法	終末期の作業療法

成績評価	定期試験100％	受講上のルール・留意点	・スマートフォン、PCなどは指示のあったときのみ使用してください。
------	----------	-------------	-----------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは全体に実施する

	書名	著書名	出版社名
教科書	作業療法学全書 第4巻 身体障害 標準作業療法学 作業療法評価学	菅原 洋子 編著 能登真一 他 編集	協同医書出版 医学書院
参考書			
オフィスアワー	平日 9時～17時 教員室 メールでの連絡は常に受け付けますが、返信には時間を要する場合あり。		

科 目	身体障害治療学Ⅱ		単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	柴田 美雅 （第14・15回：伴野 麻矢）		学 年	2年生 後期
実績経験	資格	【作業療法実務経験】13年 ・急性期・回復期・外来等 医療機関および老人保健施設での臨床経験 ・通所リハビリテーション事業所での、役職および管理経験 【養成校教育経験】 7年 ・医療福祉教育・管理修士		
	認定作業療法士 介護支援専門員			
授業の 位置づけ	【OTモデルコアカリ】 F-2-1 身体障害作業療法 E-1-4 生活行為向上マネジメント			
	作業療法治療学として、身体障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法について理解することをねらいとする。 作業療法評価学の内容を含めた治療学の位置づけになるため、評価学との知識の往来が理解のために効果的です。 ①疾患ごとの生活障害の特性について解説します ②疾患ごとの予後について説明します ③治療原理について説明します ④疾患ごとの作業療法について説明・模擬実践を行います			
到達目標	上記①②③④について、治療的アプローチの思考過程を説明できる ・関節可動域の拡大、筋力の維持・増強について、問題が生じる原因と改善方法について説明できる ・熱傷について、病態と医学的治療および作業療法評価とアプローチについて説明できる ・切断について、切断前後の評価と術後の断端管理、作業療法アプローチ、義手義足の使用までの過程を説明できる ・神経変性疾患、神経筋疾患について、病態像と対象機器・自助具を含めた作業療法アプローチについて説明できる			
授業形態	講義・実習		対面と遠隔の併用授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	関節可動域の治療原理①	関節可動域制限の原因、評価について
2回	関節可動域の治療原理②	関節可動域の維持・改善の方法
3回	筋力の治療原理①	筋力低下の原因、評価について
4回	筋力の治療原理②	筋力の維持・改善の方法
5回	演習学習	ROM、筋力に対するアプローチと作業 （MTDLP事例を用いたグループワークによる演習）
6回	熱傷①	病態と医学的治療
7回	熱傷②	評価と作業療法
8回	神経変性疾患 1	パーキンソン病の評価と作業療法
9回	神経変性疾患 2	脊髄小脳変性症の評価と作業療法
10回	神経筋疾患 1	ギランバレー症候群の評価と作業療法
11回	神経筋疾患 2	多発性硬化症の評価と作業療法
12回	神経筋疾患 3	筋萎縮性側索硬化症の評価と作業療法の概論
13回	神経筋疾患 4	筋萎縮性側索硬化症の評価と作業療法の実際（自助具・福祉用具等含む）
14回	切断①	切断の原因、手術について。術前・術後評価について
15回	切断②	切断者の事例を通しての作業療法アプローチについて

成績 評価	●定期試験： 80% 第 1回～13回（柴田） 第14回～15回（伴野） ●課題取り組み： 20% 課題提出期限、課題体裁の厳守	受講上のルール・留意点	・Tシャツ・ジャージ・スニーカーなど動きやすい 服装での参加指示や、授業時間内の課題取組みに PC持参を許可する場合があります。 ・事前学習をするなどし、授業に臨みましょう。 ・教科書を使用するので、準備をしてください。
----------	--	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
総評は全体へフィードバックの上、必要に応じて個別に対応します。Classroom等データでの課題提出を中心に行います。

	書名	著書名	出版社名
教科書	作業療法全書 改訂第3版 作業治療学 1 身体障害	菅原洋子 編集	協同医書出版社
	義肢装具のチェックポイント	日本整形外科学会/日本リハビリテーション医学会 監修	医学書院
オフィスアワー	金曜を除く平日 9時～16時 教員室 メールでの連絡は常に受け付けますが、返信には時間を要する 場合があります。		

作業療法学科 昼間部			
科 目	精神障害治療学 I	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	山下 高介	学 年	2年生 前期
実績経験	資格	病院勤務・訪問看護などを経験。それらの実務経験を踏まえたうえで講義を行う。	
	作業療法士		

授業の位置づけ	作業療法は精神医療におけるリハビリテーションの中心に据えられており、評価から治療へいたる一連の流れや臨床思考過程を理解しておくことは、臨床の現場に出る前に必須のことである。そのため、作業療法の専門的な知識を活用した精神障害領域における実践について、座学と演習を通して学ぶ。		
到達目標	（１）評価から治療計画までの流れを症例検討を通して理解することができる。（２）治療構造と援助方法について理解できる。（３）作業療法理論や疾患の回復過程に応じた作業療法と援助方法について理解できる。		
授業形態	講義・演習	対面と遠隔の併用授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	オリエンテーション	授業の進め方，成績評価の説明，作業療法プロセス
2回	作業療法理論と評価	作業療法理論の総論（作業療法理論に基づいた評価や観察の視点，治療構造やライフサイクル理論，回復期過程なども）
3回	目標設定とリーズニング①	精神科作業療法における目標設定や理論（smart，動機付け，フロー，マズローなど）
4回	目標設定とリーズニング②	リーズニングと面接演習
5回	リカバリーと支援①	リカバリーの支援と事例
6回	リカバリーと支援②	リカバリーの評価と治療計画
7回	作業機能障害と支援①	作業機能障害の支援と事例
8回	作業機能障害と支援②	作業機能障害の評価と治療計画
9回	人間作業モデルと支援①	人間作業モデルの支援と事例
10回	人間作業モデルと支援②	人間作業モデルの評価と治療計画
11回	認知行動療法と支援①	認知行動療法の支援と事例
12回	認知行動療法と支援②	認知行動療法の評価と治療計画
13回	SOCの支援	SOCの支援と事例，評価と治療計画
14回	MCTとSSTの体験	MCTとSSTの体験
15回	確認試験とまとめ	筆記試験，授業の振り返り

成績評価	・確認試験（20%） ・ポートフォリオの作成（10%） ・課題（70%）	受講上のルール・留意点	3分の1を超える授業時間数を欠席したものは試験が受けられない。
------	--	-------------	---------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは全体に実施する，個別のフィードバックも相談にて可とする

	書名	著書名	出版社名
教科書	精神科作業療法の理論と技術	早坂 友成	メジカルビュー社
参考書			
オフィスアワー	月～金（木除く） 14時～21時30分 教員室 メールでの対応可：k-yamashita@nichireha.ac.jp		

科 目	精神障害治療学Ⅱ	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	山下 高介	学 年	2年生 後期
実績経験	資格 作業療法士	病院勤務・訪問看護などを経験。それらの実務経験を踏まえたうえで講義を行う。	

授業の位置づけ	作業療法は精神医療におけるリハビリテーションの中心に据えられており、評価から治療へいたる一連の流れや臨床思考過程を理解しておくことは、臨床の現場に出る前に必須のことである。そのため、作業療法の専門的な知識を活用した精神障害領域における実践について、座学と演習を通して学ぶ。		
到達目標	（１）評価から治療方法までの流れを症例検討を通して理解することができる。（２）治療構造と援助方法について理解できる。（３）回復過程に応じた作業療法と援助方法について理解できる。		
授業形態	講義・演習	対面と遠隔の併用授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価の説明、精神障害治療学Ⅰのおさらい
2回	応用行動分析の支援	作業療法以外の領域の評価や理論
3回	認知リハビリテーションの支援①	作業療法以外の領域の評価や理論
4回	認知リハビリテーションの支援②	精神科作業療法に必要な面接の実践
5回	集団作業療法の支援①	精神科作業療法に必要な面接の記録方法/国家試験問題実施
6回	集団作業療法の支援②	集団作業療法の支援と事例
7回	確認試験とまとめ	筆記試験と振り返り
8回	観察評価の整理	観察の視点の整理
9回	AMPS	AMPSの演習
10回	ACIS	ACISの演習
11回	目標設定演習①	面接練習
12回	目標設定演習②	評価計画の立案
13回	集団作業療法演習①	場面観察
14回	集団作業療法演習②	観察結果のまとめと支援計画立案
15回	授業のまとめ	授業の振り返り

成績評価	・確認試験（20%） ・ポートフォリオの作成（10%） ・課題（70%）	受講上のルール・留意点	3分の1を超える授業時間数を欠席したものは試験が受けられない。
------	--	-------------	---------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは全体に実施する、個別のフィードバックも相談にて可とする

	書名	著書名	出版社
教科書	精神科作業療法の理論と技術	早坂 友成	メジカル
参考書			
オフィスアワー	月～金（木除く） 14時～21時30分 教員室 メールでの対応可：k-yamashita@nichireha.ac.jp		

科 目	発達障害治療学Ⅰ		単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	大西 麓子・小山 和代		学 年	2年生 後期
実績経験	資格	臨床・教育：50年		
	作業療法士			

授業の位置づけ	発達に何らかの障害を持つ子どもや者に対する作業療法について、障害特性を学び、発達段階ふまえ評価、支援目標や内容について学ぶ。特に治療学Ⅰでは出会う機会の多い脳性麻痺児・者、軽度発達障害児について援助方法を学ぶ。障害の特性を知る為に動画見て、記録する作業もある。		
到達目標	発達に障害を持つ児や者に対する作業療法士の役割について説明ができる。脳性麻痺児・者の多様性について説明ができ、援助方法等説明ができる。 発達障害児に対する作業療法・感覚統合について説明ができる。		
授業形態	対面授業		

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	発達障害に対する作業療法の理念と役割	発達とは 発達課題とは
2回	作業療法の実際	発達に障害を持った児・者に対する作業療法士の役割について
3回	脳性まひ児の作業療法①	脳性麻痺児・者への理解と援助の進め方
4回	脳性まひ児の作業療法②	脳性麻痺、痙直型（四肢麻痺）
5回	脳性まひ児の作業療法③	脳性麻痺、痙直型（両麻痺）
6回	脳性まひ児の作業療法④	脳性麻痺、痙直型（片麻痺）
7回	脳性まひ児の作業療法⑤	脳性麻痺、アテトーゼ型
8回	脳性まひ児の作業療法⑥	脳性麻痺児・者への援助方法
9回	脳性まひ児の作業療法⑦	脳性麻痺児・者への援助方法・抱っこの方法
10回	セルフケア	更衣動作：自分たちで体験する
11回	セルフケア	更衣動作：自分たちで体験する
12回	軽度発達障害について	軽度発達障害の援助法の1つの感覚統合療法について
13回	軽度発達障害について	注意欠陥他動性障害。自閉スペクトラム症等の作業療法
14回	軽度発達障害について	感覚統合療法で使用する遊具で遊んでみて、活動分析をする
15回	まとめ	遊具で遊んで見て、活動分析の発表、まとめ

成績評価	・筆記試験（80％） ・実技テスト（10％） ・課題（10％） の総合判定	受講上のルール・留意点	・定期試験は別日程にて実施 ・自分たちで体験する授業では動きやすい服装で ・実技の際はいつも決まった同士で実施しない事
------	--	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック

	書名	著書名	出版社名
教科書	・発達障害の作業療法 「実践編」 第3版 ・子どもの理解と援助のために〔感覚統合Q&A〕 改訂第2版	・編著：岩崎清隆・岸本光夫・鴨下賢一 ・編著：土田玲子	・三輪書店 ・協同医書
参考書	・脳性麻痺児の家庭療育 第4版	・編著：Eva Bower	・医歯薬出版
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

科 目	発達障害治療学Ⅱ	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	大西 麓子・小山和代	学 年	2年生 後期
実績経験	資格	臨床・教育：50年	
	作業療法士		

授業の位置づけ	発達に障害を持つ子供たちには、生命維持・身体を成長させる・楽しい場面・様々な体の使い方が必要な摂食・食事場面が問題になることが多い。両親もなかなか援助しにくい動作である。ここでは自分で食べたり、食べさせてもらい口腔機能だけでなく姿勢や筋緊張、援助の仕方を学ぶ。また私たちの援助を待っている子どもたち（進行性筋萎縮症、重症心身障害児・者、小児精神疾患の子どもたち）についても学ぶ。障害を持ちながらも地域の学校に通う子供たちも多くなり、特別支援学級に作業療法士に期待されるようになっていく。学校ではどんな支援が必要なのか、どんな支援ができるのかを考える機会を持つ。		
到達目標	発達に障害を持つ子供の摂食・食事動作の意義を述べることができ、療育者に意義を説明でき、実際に援助方法を伝えることができるようになること。3つの疾患に関して説明できること。特別支援学級での作業療法士の役割を説明できる。		
授業形態	対面授業		

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	セルフケア（摂食・食事動作）	実際に自分で固形物・半固形物・水分を食べ、飲んで口腔内の動きを分析する
2回	セルフケア（摂食・食事動作）	他人に食べさせてもらう（自分で食べた時の感覚は）
3回	セルフケア（摂食・食事動作）	人に食べさせる（食べさせる時の感じ）。
4回	セルフケア（摂食・食事動作）	口腔内の動きはどうなっているのか実際に経験して、どんなことが必要なのか分析する。
5回	神経・筋疾患の作業療法	神経・筋疾患の作業療法の実際
6回	神経・筋疾患の作業療法	神経・筋疾患の作業療法の実際
7回	重症心身障害児・者の作業療法	重症心身障害児・者の作業療法
8回	重症心身障害児・者の作業療法	重症心身障害児・者の作業療法
9回	小児・思春期における精神障害の作業療法	小児・思春期における精神障害の作業療法
10回	小児・思春期における精神障害の作業療法	小児・思春期における精神障害の作業療法
11回	疾患・障害別作業療法	知的発達障害における作業療法
12回	疾患・障害別作業療法	二分脊椎・分娩麻痺児の作業療法
13回	就学時の作業療法について	小学1年生から6年生までの授業の中から1科目を選び、作業活動分析
14回	就学時の作業療法について	小学1年生から6年生までの授業の中から1科目を選び、作業活動分析 発表
15回	まとめ	発表・まとめ

成績評価	・筆記試験（80％） ・実技参加（10％） ・課題の提出（10％） の総合判定	受講上のルール・留意点	・定期試験は別日程にて実施。 ・摂食・食事指導の実技では動きやすい服装で。 ・グループでの作業には積極的に。
------	--	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック

	書名	著書名	出版社名
教科書	・発達障害の作業療法 「実践編」 第3版	岩崎清隆・岸本光夫・鴨下賢一	三輪書店
参考書			
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

作業療法学科 昼間部				
科 目	日常生活活動学		単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	柴田 美雅		学 年	2年生 後期
実績経験	資格		【作業療法実務経験】13年 ・急性期・回復期・外来等 医療機関および老人保健施設での臨床経験 ・通所リハビリテーション事業所での、役職および管理経験 【養成校教育経験】 7年 ・医療福祉教育・管理修士	
	認定作業療法士 介護支援専門員			
授業の 位置づけ	【OTモデルコアカリ】 F-2-8 日常生活活動に関わる作業療法 F-3-3 住環境整備・支援機器と作業療法			
	「日常生活」は作業療法士が扱う専門性の高い重要な領域です。ADL・IADLの理解を深め、対象者にとって、その人らしい「日常生活」および「社会参加」を支援するためのシステムや、実際の福祉機器に触れ、環境面としても、その知見を広めていきましょう。 ・日常生活活動(ADL)とは何か、その概念の背景や範囲・視点について説明します ・実際の福祉機器を体験する機会を通して、その特性や障害適応について学習しましょう ・ADLの支援システムとして、専門職の役割やサービス提供機関、公的制度について説明します ・ADL評価とは何か、またどのように行うのかを、生活行為工程分析も踏まえ説明します ・各疾患における作業別の支援について解説します			
到達目標	① 日常生活活動・手段的日常生活動作の、概念について説明できる。 ② 日常生活活動・手段的日常生活動作の、評価と支援システムについて説明できる。 ③ 疾患に応じた作業別の支援について説明・模擬実践できる。			
授業形態	講義・演習		対面授業	
授業計画				
回数	項目	講義内容		
1回	日常生活活動の概念とその範囲	ADLとは、ADLとQOL、ICIDH・ICFについて		
2回	ADLの支援システム	ADL支援（専門職の役割とサービス提供機関）・介護の支援・福祉用具の支給		
3回	ADL評価①	指数化への志向（PULSES・BI・FIM）		
4回	ADL評価②	指数化への志向（その他）		
5回	IADL評価とQOL	老研式活動能力指標、FAI、CHARTについて		
6回	福祉用具体験学習	最新の福祉機器について：体験学習と課題（グループワーク）		
7回	福祉用具体験学習	最新の福祉機器について：体験学習と課題（グループワーク）		
8回	演習1－①	疾患に応じた作業別支援：脳血管障害（グループワーク）		
9回	演習1－②	疾患に応じた作業別支援：脳血管障害（グループワーク発表）		
10回	演習2－①	疾患に応じた作業別支援：リウマチ（グループワーク）		
11回	演習2－②	疾患に応じた作業別支援：リウマチ（グループワーク発表）		
12回	演習3－①	疾患に応じた作業別支援：パーキンソン病（グループワーク）		
13回	演習3－②	疾患に応じた作業別支援：パーキンソン病（グループワーク発表）		
14回	演習4－①	疾患に応じた作業別支援：脊髄損傷（グループワーク）		
15回	演習4－②	疾患に応じた作業別支援：脊髄損傷（グループワーク発表）		
成績評価	●課題提出：20% （提出期限厳守） ●グループワーク課題：20% （課題内容やまとめ方等） ●定期試験：60% 上記を総合評価とする	受講上のルール 留意点	第6回～第15回はグループワークを予定。 【福祉用具体験講習会】での体験学習と課題は、演習1～4の疾患に応じた。 福祉用具や機器を選定した上で、実際に使用し、その内容を演習学習に取り入れること。	
課題やレポートに関するフィードバック				
総評は全体へフィードバックの上、必要に応じて個別に対応します。Classroom等データでの課題提出を中心に行います。				
	書名	著書名	出版社名	
教科書	ADLとその周辺 評価・指導・介護の実際	伊藤利之 鎌倉矩子 監修	医学書院	
参考書	標準作業療法学 作業療法評価学	岩崎テル子 他	医学書院	
オフィスアワー	金曜を除く平日 9時～16時 教員室 メールでの連絡は常に受け付けますが、返信には時間を要する場合があります。			

作業療法学科 昼間部			
科 目	地域作業療法学Ⅰ	単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	柴田 美雅	学 年	2年生 後期
実績経験	資格	【作業療法実務経験】13年 ・急性期・回復期・外来等 医療機関および老人保健施設での臨床経験 ・通所リハビリテーション事業所での、役職および管理経験 【養成校教育経験】 6年 ・医療福祉教育・管理修士	
	認定作業療法士 介護支援専門員		
授業の位置づけ	本講義のねらいは、地域における基本的な作業療法について理解することです。地域リハビリテーションを取り巻く人々の生活や文化、環境、社会構造は年々変化しています。病院や施設から、住み慣れた地域へと移行するためには、実際の生活を見据えたリハビリテーションの 提供が必要です。この授業では障害者や、高齢者を支える人的・物理的・社会制度的環境に関する知識を学び、地域での 生活期における作業療法およびニーズに対応すべく専門職としての態度についても一緒に学んでいきましょう。特に、対象者の活動と参加に焦点を当てたアプローチを踏まえ、MTDLPを用いた地域でのリハビリテーション事例についても学習をしていきます。		
到達目標	① 地域の人々の生活、文化、環境、社会経済構造等、地域の特性を捉える地域評価の方法について説明できる。 ② 地域リハビリテーションの概念・生活モデル・地域包括ケアシステムと作業療法との関係の視点について説明できる。 ③ 地域作業療法を支える社会資源とその活用方法について説明できる。 ④ 地域作業療法における他職種連携・ネットワークについて説明できる。 ⑤ 実践の場に応じた作業療法（通所系・訪問系・施設系）について説明・模擬実践できる。		
授業形態	講義・実習	対面授業または対面と遠隔の併用授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	地域リハビリテーション概論①	地域リハビリテーションとは、ICF、社会資源について
2回	地域リハビリテーション概論②	社会保障制度（介護保険制度）
3回	地域リハビリテーション概論③	地域包括ケアシステムと作業療法
4回	概論まとめ	第1回～第3回の学習内容の振り返りとまとめ：発表
5回	地域における作業療法 基礎	生活行為向上マネジメント① 背景および概要：他職種との連携・協働について
6回	地域における作業療法 基礎	生活行為向上マネジメント② 聞き取り・インタビュー
7回	地域における作業療法 基礎	生活行為向上マネジメント③ アセスメント
8回	地域における作業療法 基礎	生活行為向上マネジメント④ プランニング：社会資源の活用
9回	地域における作業療法 基礎	生活行為向上マネジメント⑤ 生活行為申し送り
10回	地域における作業療法 応用	演習①：地域高齢者の想いを分析する オリエンテーションおよび分析計画
11回	地域における作業療法 応用	演習②：地域高齢者の想いを分析する 分析から編集
12回	地域における作業療法 応用	演習③：地域高齢者の想いを分析する 分析から編集
13回	地域における作業療法 応用	演習④：地域高齢者の想いを分析する 資料まとめ
14回	地域における作業療法 応用	演習⑤：地域高齢者の想いを分析する 資料まとめ
15回	地域における作業療法 応用	演習⑥：地域高齢者の想いを分析する 資料共有

成績評価	●授業態度：20% （提出期限厳守・課題への取り組み等） ●グループワーク課題：20% （課題内容やまとめ方の工夫等） ●定期試験：60% 上記を総合評価とする	受講上のルール・留意点	各講義の振り返りとまとめでの発表は、グループワーク等での意見をまとめたものとする。また、演習ではグループ学習を基本に、調べ学習等を通して、主体的に課題に取り組むこと。
------	---	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
課題などのフィードバックは、グループおよび必要に応じて全体に行う。個別に希望する場合は個人で申し出ること。

	書名	著書名	出版社名
教科書	作業療法マニュアル 生活行為向上マネジメント 改訂第4版	竹内さをり/塩田 繁人/柴田 八衣子 他	日本作業療法士協会
オフィスアワー	毎週金曜を除いて適宜 不在時はメール等で対応		

		作業療法 学科	昼間 部
科 目	地域実習	単位・時間数	1単位・45時間
担当講師	作業療法学科教員	学 年	2年生 後期
実績経験	資格		
	作業療法士		

授業の位置づけ	地域実習は、臨床実習指導者のもとで、地域で支援を必要とする人々や、その家族に作業療法を用いた援助を提供するための知識・技術を習得することを目的とする。 1. 地域における作業療法および作業療法士の役割と機能を学ぶ 2. 臨床実習指導者の指導、援助のもとに、地域での支援や援助の実際的方法を学ぶ 3. 地域包括ケアシステムや生活行為の重要性について学ぶ		
到達目標	今までの学内での講義・演習で修得した、知識をもとに、指導者の指導・援助のもと、地域での作業療法士の役割や、対象児・者への支援・援助を理解することを目標とする。 ①作業療法学生としての礼儀・礼節・接遇が体现でき、基本的なルールを遵守することができる。 ②実習に意欲的に取り組むことが出来る ③地域での作業療法および作業療法士の役割について説明することが出来る ④地域での他職種連携について、事例を用いながら説明することが出来る ⑤生活行為、および生活行為向上マネジメントの必要性を説明できる		
授業形態	講義・演習・実習	対面授業	

授業計画

実習前・臨床実習・実習後の学習上の注意点			
実習前 ①地域実習に関連する授業の指定教科書等・講義資料のポイントは実習前に整理し、確認すること。 ②地域包括ケアシステム、生活行為向上マネジメントの知識を整理し、確認すること。 臨床実習 ①臨床現場では作業療法分野だけでなく、多職種連携を常に思い浮かべて、広範囲の知識と技術を体系的に学んでいく。 ②臨床現場では積極的に様々なことを体験、見学するように努めること。 ③習得した知識は毎日書類（ポートフォリオ）として記録すること。 実習後 ①実習中に学んだ点を整理し、発表の準備を行うこと。 ②必要に応じて実習担当者と面談し、実習の総括を実施すること。 ③実習の成果を書類にまとめ、提出すること。			

成績評価	実習地評価、課題・提出物 もとに総合的に判断する。	受講上のルール・留意 点	原則として遅刻、早退、欠席は認めない。
------	------------------------------	-----------------	---------------------

課題やレポートに関するフィードバック
実習地での課題やレポートのフィードバックは実習地で実施する。また、実習全体に対する相談およびフィードバックは、「実習中の電話やメール」「臨床実習地訪問の面談時」「実習終了後」に担当教員からも行う。

	書名	著書名	出版社名
教科書	臨床実習の手引き	学校資料	
参考書			
オフィスアワー	担当教員への連絡は電話またはメールで随時可能		

作業療法学科 昼間部				
科 目	作業療法研究法		単位・時間数	1単位・15時間
担当講師	手塚 雅之		学 年	3年生 後期
実績経験	資格	精神科病院の臨床経験 8 年、「専門学校」を中心に教育歴 2 0 年。養成教育にたずさわりながら、身障系病院、高齢者施設、精神病院などでも経験を重ねた。それらの実務経験をもとに講義を行う。		
	作業療法士・健康運動実践指導者・修士 (学術)			
授業の 位置づけ	作業療法についての総合的な知識を土台に、エビデンスに基づいた実践をしていくために、また自ら主体的に問題意識をもち、解決し、新しい知見を開拓できるよう、科学的な研究手法について基礎知識を学習する。			
到達目標	研究姿勢・倫理・過程・各種研究手法について基礎知識を習得する			
授業形態	講義・演習および対面と遠隔授業の併用			

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	研究とは	研究とは何か 作業療法における研究の目的
2回	研究の様式と過程	研究様式の分類 研究の流れ
3回	文献レビューの仕方	文献レビューの目的・検索方法・読み方およびテーマ提出
4回	文献研究	総説・メタアナリシス・理論
5回	研究倫理・管理・報告	研究の倫理と管理 論文の書き方と発表
6回	種々の研究法 1	調査的研究・実験的研究・統計の方法
7回	種々の研究法 2	シングルケース実験法・事例研究
8回	文献研究の発表	個別研究の発表と質疑応答

成績評価	文献検討のレポートと発表100%	受講上のルール・留意点	各自の興味あるテーマについて、実際に文献研究を行い発表していただく予定。
------	------------------	-------------	--------------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
FBは、授業内その他で適宜行う。レポートは返却する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	なし		
参考書	作業療法士のための研究法入門	鎌倉矩子・宮前珠子・清水一	三輪書店
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

科 目	作業療法特講		単位・時間数	1単位・24時間
担当講師	作業療法学科教員・外部講師		学 年	3年生 後期
実績経験	資格	作業療法士として病院勤務などの実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う 専任教員・外部講師が自分の担当する対象者の症例報告を通して実践的な講義を行う		
	作業療法士			

授業の 位置づけ	【OTモデルコアカリ】 F-2 作業療法治療学	
	臨床実践能力に関連する基本的態度、医療人としての倫理観、作業療法士としての職務遂行能力を身につけることを目的に、作業療法専門科目の作業療法治療学として授業として位置付ける。	
到達目標	・臨床実践に必要な基本的態度について、自己を振り返り、具体的な課題を明確にする。 ・臨床実践で求められる倫理観について、領域特性を踏まえて自分で表現できる。 ・作業療法士として自分が期待する（望む）、職務遂行能力について具体的に表現できる。	
授業形態	講義・演習	対面授業

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	臨床実践教育概論	臨床実習で学ぶべきこと（基本的態度・臨床思考過程・臨床技能）
2回	臨床実践教育概論	臨床実習指導について（経験学習と指導方法：見学、模倣、実施）
3回	臨床実践教育各論①	臨床実習におけるハラスメント（１）
4回	臨床実践教育各論②	臨床実習におけるハラスメント（２）
5回	臨床実践教育各論③	臨床における感染予防（１）
6回	臨床実践教育各論④	臨床における感染予防（２）
7回	臨床実践教育特講 1	精神障害領域における臨床での作業療法①
8回	臨床実践教育特講 2	精神障害領域における臨床での作業療法②
9回	臨床実践教育特講 3	身体障害領域における急性期の作業療法①
10回	臨床実践教育特講 4	身体障害領域における急性期の作業療法②
11回	臨床実践教育特講 5	老年期障害領域における臨床での作業療法①
12回	臨床実践教育特講 6	老年期障害領域における臨床での作業療法②

成績評価	<u>＊課題提出：４０％</u> ・ファイリングされてる（１０％） ・必要記録が揃っている（１０％） ・提出期限厳守（２０％） <u>＊レポート：６０％</u> ・提出形式が整っている、 内容の具体性、自己表現等 上記の総合的な評定とする	受講上のルール 留意点	臨床実践教育として、臨床実習に準じて基本的態度、倫理観、期待される職務遂行能力を主体的に身につけること。
------	--	----------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
課題に向けた質問は適宜受ける。フィードバックを希望する学生は申し出ること。

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書			
オフィスアワー			

作業療法学科 昼間部			
科 目	作業療法総合演習 I	単位・時間数	2単位・60時間
担当講師	作業療法学科 教員	学 年	3年生 後期
実績経験	資格	各分野担当の教員 作業療法士として医療・療養・介護・療育施設にて治療を行ってきた実務経験を活かし、実例を交えながら講義・演習を行う。	
	作業療法士		

授業の位置づけ	【OTモデルコアカリ】 A-2: 課題解決能力と学ぶ姿勢 F-1,-2: 作業療法実践に必要な知識、評価学、治療学		
	臨床実習 I に向けた実習前準備学習として、作業療法専門科目の作業療法評価学として位置づける。 1)身体障害領域 2)老年期障害領域 3)発達障害領域 4)精神障害領域 各領域における、代表的な疾患に対する、臨床技能および臨床思考過程(特に、情報収集から作業療法評価、検査測定、全体像のまとめ、および目標設定立案まで)を修得することがねらいである。		
到達目標	・各領域における代表的な作業療法の対象に必要な基本的知識(病態、障害像、リスク等)が説明できる。 ・臨床実習 I の目標に準じ、作業療法プロセスについて、情報を統合し、自分の考えをわかりやすく表現できる。 ・必要な課題を自ら発見し、重要性・必要性と照らし合わせて、具体的な方法で問題解決が出来るようになる。 ・作業療法評価に関連する臨床技能について、各領域における代表的な検査測定が実施できる。		
授業形態	講義・演習	対面	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	オリエンテーション	作業療法総合演習 I の全体説明
2回	身体障害領域①	情報収集
3回	身体障害領域②	面接、観察
4回	身体障害領域③	検査
5回	身体障害領域④	測定
6回	身体障害領域⑤	全体像のまとめ
7回	身体障害領域⑥	目標設定
8回	身体障害領域⑦	考察
9回	老年期障害領域①	情報収集
10回	老年期障害領域②	面接、観察
11回	老年期障害領域③	検査
12回	老年期障害領域④	測定
13回	老年期障害領域⑤	全体像のまとめ
14回	老年期障害領域⑥	目標設定
15回	老年期障害領域⑦	考察
16回	発達障害領域①	情報収集
17回	発達障害領域②	面接、観察
18回	発達障害領域③	検査
19回	発達障害領域④	測定
20回	発達障害領域⑤	全体像のまとめ
21回	発達障害領域⑥	目標設定
22回	発達障害領域⑦	考察
23回	精神障害領域①	情報収集
24回	精神障害領域②	面接、観察
25回	精神障害領域③	検査
26回	精神障害領域④	測定
27回	精神障害領域⑤	全体像のまとめ
28回	精神障害領域⑥	目標設定
29回	精神障害領域⑦	考察
30回	まとめ	全体の振り返り、まとめ

成績評価	各領域課題提出 40% (1領域 10点) 各領域課題 60% (1領域 15点)	受講上のルール・留意点	提出課題は必要内容を記載して、提出期限内に提出すること。 必要な学習資料は、各自用意をすること。また、各担当領域について、服装や教科書等は教員の指示に従うこと。
------	--	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは、担当教員から対象ごと（全体・グループ・個別等）実施する。

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書			
オフィシアワー	担当教員に確認すること		

科 目	作業療法臨床セミナーⅠ	単位・時間数	2単位・60時間
担当講師	作業療法学科 教員	学 年	3年生 後期
実績経験	資格	分野担当ごとの各教員 作業療法士として医療・療養・介護・療育施設にて治療を行ってきた実務経験を活かし、実例を交えながら講義・演習を行う。	
	作業療法士		

授業の 位置づけ	【OTモデルコアカリ】 F-1,-2 作業療法評価学、治療学	
	臨床実習Ⅰ（各期）前後の臨床実践準備教育として位置付け、作業療法専門科目の作業療法評価学に関連した授業となる。 1) 身体障害 2) 老年期障害 3) 発達障害 4) 精神障害 各専門領域別での代表的な疾患・障害特性に関する基本的な臨床思考過程について学習する。 また、MTDLPの各種シートを活用し、基本的な一連の臨床思考過程を修得する。	
到達目標	各領域ごとの代表的な対象における作業療法の流れが解説できる。臨床思考過程について、要点をまとめ、自分の言葉で表現でき、必要な内容を記録にすることができる。	
授業形態	演習	対面授業

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	実習前準備学習①	オリエンテーション・実習地領域学習
2回	実習前準備学習②	臨床実習における記録とその要点：情報収集(カルテ・他部門、他職種、その他)
3回	実習前準備学習③	臨床実習における記録とその要点：作業療法評価(検査測定の意味・目的、結果と判定等)
4回	実習前準備学習④	臨床実習における記録とその要点：作業療法評価(検査測定の意味・目的、結果と判定等)
5回	実習前準備学習⑤	臨床実習における記録とその要点：作業療法評価(検査測定の意味・目的、結果と判定等)
6回	実習前準備学習⑥	臨床実習における記録とその要点：作業療法評価(検査測定の意味・目的、結果と判定等)
7回	実習前準備学習⑦	作業療法評価のまとめ(結果の解釈、全体像、生活像、予後予測等)
8回	実習前準備学習⑧	作業療法評価のまとめ(結果の解釈、全体像、生活像、予後予測等)
9回	実習前準備学習⑨	作業療法目標設定(プログラムと期間、時間、回数等の設定)
10回	実習前準備学習⑩	作業療法目標設定(プログラムと期間、時間、回数等の設定)
11回	実習経験発表1-1	臨床実習で学んだことの整理とまとめ：追学習、知識の補填、調べ学習等
12回	実習経験発表1-2	臨床実習で学んだことの整理とまとめ：追学習、知識の補填、調べ学習等
13回	実習経験発表1-3	実習経験発表資料準備(＊)
14回	実習経験発表1-4	実習経験発表資料準備(＊)
15回	実習経験発表1-5	実習経験発表・討論(＊)
16回	実習経験発表1-6	実習経験発表・討論(＊)
17回	実習経験発表1-7	実習経験発表・討論(＊)
18回	実習経験発表1-8	実習経験発表・討論(＊)
19回	実習前準備学習⑪	次期、臨床実習地の領域学習・予習
20回	実習前準備学習⑫	次期、臨床実習地の領域学習・予習
21回	実習経験発表2-1	実習経験発表資料準備(＊)
22回	実習経験発表2-2	実習経験発表・討論(＊)
23回	実習経験発表2-3	実習経験発表・討論(＊)
24回	実習経験発表2-4	実習経験発表・討論(＊)
25回	実習経験発表2-5	実習経験発表・討論(＊)
26回	臨床思考過程学習①	臨床実習で学んだことの総まとめ：MTDLPアセスメント演習シート、課題分析シートの作成
27回	臨床思考過程学習②	臨床実習で学んだことの総まとめ：MTDLPアセスメント演習シート、課題分析シートの作成
28回	臨床思考過程学習③	臨床実習で学んだことの総まとめ：MTDLPプラン演習シート
29回	臨床思考過程学習④	臨床実習で学んだことの総まとめ：MTDLPプラン演習シート
30回	臨床思考過程学習⑤	臨床実習で学んだことの総まとめ

成績評価	*課題提出：40％ (各実習後×2期) *課題発表：60％ (各実習後×2期)	受講上のルール 留意点	臨床実習を想定しているため、学習に向けた主体性 や自主的な言動を心がけて取り組んでください
------	--	----------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
実習担当教員による割り振りがあった場合、担当教員の指示に従うこと

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書			
オフィスアワー			

科 目	身体障害治療学Ⅲ	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	仲木右京	学 年	3年生 前期
実績経験	資格	作業療法士として積極的に治療を行ってきた実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う	
	作業療法士		

授業の位置づけ	1. 義肢（上肢義手）の基礎知識、適応となる対象者への作業療法介入を学ぶ。 2. ハンドセラピーの概要、代表各疾患のハンドセラピーの実際、スプリント作製実習		
到達目標	1. 義肢と装具の機能と適応について理解する。 2. 切断者に対する義肢装着訓練について理解する。 3. ハンドセラピーの目的、内容について知る。代表疾患のハンドセラピーについて知る。 4. スプリントの作製を経験する		
授業形態	講義		

授業計画

回数	項目	講義内容	
1回	上肢義手	義手の機能と適応	
2回	上肢義手	上肢切断者への作業療法	
3回	ハンドセラピー	手の外科領域の作業療法について	
4回	ハンドセラピー	上肢の骨折に対する作業療法	
5回	ハンドセラピー	上肢の骨折に対する作業療法	
6回	ハンドセラピー	橈骨遠位端骨折に対する作業療法	
7回	ハンドセラピー	末梢神経損傷に対する作業療法	
8回	ハンドセラピー	末梢神経損傷に対する作業療法	
9回	ハンドセラピー	末梢神経損傷に対する作業療法	
10回	ハンドセラピー	腱損傷に対する作業療法	
11回	ハンドセラピー	手指拘縮に対する作業療法	
12回	ハンドセラピー	スプリント作製実習（Thumb Spica）	
13回	ハンドセラピー	〃	
14回	ハンドセラピー	スプリント作製実習（Thumb Hole Wrist Cock-up ）	
15回	ハンドセラピー	〃	
16回	ハンドセラピー	試験	
17回	ハンドセラピー	試験フィードバック、スプリント評価	
成績評価	スプリント出来栄え、定期試験	受講上のルール・留意点	
	授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない		

課題やレポートに関するフィードバック
実技実習に関しては、必要であれば随時フィードバックされるが、個々にではなく、実習グループ全体に対して行われる場合もある。その他の講義に関する課題でのフィードバックは、担当教員に一任する。

	書名	著書名	出版社名
教科書	義肢装具のチェックポイント	日本整形外科学会／日本リハビリテーション医学会監修	医学書院
参考書			
オフィスアワー	仲木先生：授業前後の休憩時間		

科 目	身体障害治療学演習		単位・時間数	1単位・45時間
担当講師	伴野 麻矢		学 年	3年・前期
実績経験	資格	脳血管障害を主に臨床行ってきました。臨床経験をもとに授業では技術面や患者様への接し方など実践的な学習をしていきます。		
	作業療法士			

授業の位置づけ	作業療法士を目指す学生として、作業療法士の視点で生活と障害の関係性を考えることはもとより、医療人として相応しい態度を培うことはとても大切です。この授業では計3回、脳血管障害の当事者の方々にご協力頂き、生活についての聞き取りや検査・測定など評価をさせていただきます。当事者の方々と実際に関わることで作業療法の実践的な流れを体験するだけでなく、医療人としての自覚をもった行動を身に付けていく切っ掛けにしてください。 また、グループごとに報告会を行い、互いに得た知識や体験を共有します。臨床実習に向けた自己の課題の気づきになって欲しいと思います。		
到達目標	①医療人としての相応しい態度を培い、心掛けた行動がとれる ②1,2年生で習得した知識や技術の習熟を図り、実践できる ③作業療法の実践的な流れ（評価までの準備、評価の実施、結果の見直しと解釈を体験する ④障害と生活の関係性を整理し作業療法士の視点で捉えることができる		
授業形態	演習		対面授業

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	オリエンテーション	演習の一連の流れの説明/演習の目的・目標について/グループ分け/注意事項の説明/担当ケースの提示
2回	調べ学習と計画	調べ学習（疾患について、予測される障害について、その障害の評価と方法について調べる） ※記録1 一般情報や医学的情報で必要となる項目を列挙 ※記録2
3回	第一回ケース評価	医療面接の実施・観察から得られることを評価する
4回		〃
5回		その他、必要な情報を纏める
6回	評価計画を立てる	第一回の観察や面接で得られたことから、身体機能面で必要となる項目を列挙、それらの評価が必要な理由を纏める ※記録2 一般情報や医学的情報、身体機能面で必要となる評価をグループ内で共有/評価の優先順位を考える
7回	情報収集のための演習/身体機能の評価の練習	ケースから必要な情報を聞き取るための練習をする 身体機能面の評価練習（評価を一連の流れで練習する）
8回		評価練習
9回		〃
10回		〃
11回	第一回目 評価の振り返りと第二回目の課題	〃
12回	第二回ケース評価	各グループで計画した評価を実施する
13回		〃
14回		〃
15回	第二回ケース評価の振り返り	第二回ケース評価内容を共有する。第二回ケース評価の振り返り（評価結果の妥当性検討、評価結果の解釈、態度面の振り返り）/評価計画の立て直し
16回	第三回目に向けた評価計画の立て直し	第三回目に向けた評価練習
17回	第三回目の評価練習	各グループで計画した評価を実施する
18回		〃
19回		〃
20回	第三回目ケース評価の振り返り	第三回ケース評価内容を共有する。評価の振り返り（評価結果の妥当性検討、評価結果の解釈、態度面の振り返り）
21回	ケース評価結果から障害像と生活の結び付け	ケースの障害像、生活を捉え、グループ内で共有する
22回	発表準備	グループ内で発表準備をする
23回	ケース評価報告会	各グループごとにケース評価報告を発表する

成績評価	出席・課題提出・内容点数50％ 授業態度・発表点数50％	受講上のルール・留意点	教員の指導の下、グループで協力して課題を進めてください。脳血管障害の当事者の方々が授業協力してくださる授業です。転倒や事故がないよう気を引き締めて受講してください。また、事故を防ぐためにも、報告・連絡・相談をするよう心掛けてください。
------	---------------------------------	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
課題や提出物は授業内で連絡します。

	書名	著書名	出版社名
教科書	※身体障害評価学や治療学の教科書を持参すること ※一回目の授業は特に「病気がみえる 脳・神経」を持参すること		
参考書			
オフィスアワー	水曜日以外の平日9:00～17:00		

科 目	精神障害治療学演習		単位・時間数	1単位・45時間
担当講師	手塚 雅之		学 年	3年生 前期
実績経験	資格	精神科病院の臨床経験8年、「専門学校」を中心に教育歴20年。養成教育にたずさわりながら、身障系病院、高齢者施設、精神病院などでも経験を重ねた。それらの実務経験をもとに講義を行う。		
	作業療法士・健康運動実践指導者・修士（学術）			
授業の位置づけ	精神科では薬を用いた治療以外に、患者様の疾患の特性に合わせて作業療法・認知療法・行動療法・SST・カウンセリング・リラクゼーション法・ACTなど様々な治療・援助手法が用いられている。本講義ではそれら各種治療法の内容を「講義」により再確認するとともに、「演習」を通して具体的にどのような効果があるのか、自分自身を通して理解できるよう講義を進める。また精神科領域におけるアクティビティ（作業活動）の用い方についても解説する。			
到達目標	（1）精神科における薬物療法以外の各種治療法について、演習を通して実際に体験し、具体的にどのようなものか自分の意見を述べることができる。（2）各種治療法について、その意義・目的・方法などについて説明できる。（3）精神科におけるアクティビティ（作業活動）の活用方法について説明できる。			
授業形態	講義・演習		対面と遠隔の併用授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	統合失調症（1）	統合失調症の特徴とリハビリテーション（1）
2回	統合失調症（2）	統合失調症の特徴とリハビリテーション（2）
3回	うつ病	うつ病の特徴とリハビリテーション
4回	リラクゼーション（1）	漸進的筋弛緩法
5回	リラクゼーション（2）	呼吸法（1）
6回	リラクゼーション（3）	呼吸法（2）
7回	リラクゼーション（4）	自律訓練法
8回	認知行動療法（1）	行動療法
9回	認知行動療法（2）	認知療法
10回	認知行動療法（3）	マインドフルネス（1）
11回	認知行動療法（4）	マインドフルネス（2）
12回	認知行動療法（5）	SST（1）
13回	認知行動療法（6）	SST（2）
14回	心理療法（1）	アサーショントレーニング
15回	心理療法（2）	カウンセリング
16回	集団療法	集団療法について
17回	精神医療と作業療法士	精神医療の中における作業療法士の役割
18回	作業療法の構造	治療構造・作業療法の効果と目標
19回	作業療法（1）	統合失調症の作業療法（1）
20回	作業療法（2）	統合失調症の作業療法（2）
21回	作業療法（3）	うつ病の作業療法
22回	作業療法（4）	アクティビティの活用法
23回	精神医療	心の悩みを抱える人へのアプローチ

成績評価	授業内試験50%、課題50%	受講上のルール・留意点	3分の1を超える授業時間数を欠席したものは試験が受けられない。
------	----------------	-------------	---------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは全体に実施する

	書名	著書名	出版社名
教科書	・精神障害と作業療法	山根寛	三輪書店
参考書	・精神疾患の理解と精神科作業療法	堀田英樹	中央法規出版
オフィスアワー	・「木曜日以外」または「メールで相談可」 ・上記以外でも、空いている時間は対応可能です。		

科 目	発達障害治療学演習		単位・時間数	1単位・ 30時間
担当講師	大西麓子 小山和代・佐々木由佳・馬場綾世		学 年	3年生 前期
実績経験	資格	臨床・教育：50年		
	作業療法士			

授業の位置づけ	発達障害領域の作業療法は、長期的視野を持って、またその人らしく生活を創造していかれるように、生活支援（援助）していくことが重要である。主に運動機能障害と知的な遅れを持った人たち（重度の脳性麻痺者）に対して評価（臨床観察・面接・実際に体を動かしてもらう）・援助方法を立案し、アプローチを実施する。		
到達目標	発達障害領域の脳性まひ疾患の基礎知識と評価の基礎から実践まで学び、対象者に必要な援助方法を実施できる（特に成人の場合）。		
授業形態	対面授業		

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	発達障害治療学演習・企画書作成に向けてのオリエンテーション	発達障害の評価－治療過程の確認企画書作成に必要な内容、手順と様式、機器の貸し出し方法と予算請求方法と期限、障害児者4名の方の情報提供
2回	提供情報の共有化・レポート作成に向けての指導	校内実習のまとめと情報の共有化、レポート作成のポイント
3回	企画書作成	担当したメンバーさんの動画をみながら
4回	企画書作成、実習のシュミレーション	企画書に沿って校内実習の当日のシュミレーションを実施する
5回	校内実習のシュミレーション（30分×2G）と修正	企画書に沿って校内実習の当日のシュミレーションを実施する
6回	企画書提出	企画書完成させ、各担当の教員に提出
7回	企画書のフィードバック	企画書のフィードバック、ハンドリング
8回	企画書のフィードバック	企画書のフィードバック、ハンドリング
9回	ケース検討・ケースレポート作成に向けて	レポート作成に向けての指導
10回	ケース検討・ケースレポート作成に向けて	レポート作成に向けての指導
11回	ケース検討・ケースレポート作成に向けて	情報の共有化、レポート作成のポイント
12回	ケース検討・ケースレポート作成に向けて	情報の共有化、レポート作成のポイント
13回	ケース検討・ケースレポート作成に向けて	情報の共有化、レポート作成のポイント
14回	ケース発表のための準備	発表のためのレジメ作成、練習
15回	演習結果の共有化のための発表	ケース発表（4ケース）

成績評価	・筆記試験（ケースに関する課題）（30点） ・レポート（演習のまとめ）（50点） ・役割を遂行する（20点） ・発表	受講上のルール・留意点	・1年次での授業（人間発達学）や小児学、発達障害評価学・治療学を再度学習し授業に臨んでください。 ・演習では動きやすい服装で参加してください ・演習はグループで実施しますので、各人の役割を十分理解し、相談しながら意見を出し、自分のものにしてください。
------	---	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック

	書名	著書名	出版社名
教科書	発達障害の作業療法 第3班 実践編	岩崎清隆・岸本光夫・鴨下賢一	三輪書店
参考書			
オフィスアワー	授業前後の休憩時間		

作業療法 学科 昼 間 部			
科 目	老年期障害治療学	単位・時間数	2単位・60時間
担当講師	阿部 英人	学 年	3年生 前期
実績経験	資格	病院 3 年、介護保険関連施設 7 年、教育機関12年	
	作業療法士		

授業の位置づけ	現在、我が国の高齢化率は28%を超え、今後も上昇が予測され2036年には3人に1人が高齢者になる。作業療法士として高齢者を対象とした医療・福祉・保健などさまざまな領域で果たす役割は大きい。高齢者が人生の最終章を生きるということに注目し、作業療法の基本的姿勢及び生活支援を学ぶ。また、その臨床思考はMTDLPの流れも踏まえて紹介する。		
到達目標	①高齢社会となった背景と現状、社会施策の変遷について説明ができる。②高齢者の特徴について理解し、高齢期へのアプローチ過程を説明することが出来る。④認知症の病態、また、介入方法について説明することが出来る。⑤各疾患における高齢期特有の病態および介入方法について説明することが出来る⑤高齢者に多い疾患についての評価（評価計画、評価実施、評価結果の解釈、ICFによる分類）をグループ学習、演習を通して習熟する		
授業形態	講義・演習	対面授業	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	高齢社会について	高齢者の定義、高齢社会になった背景、高齢化率の変化
2回	高齢社会について	高齢者の定義、高齢社会になった背景、高齢化率の変化
3回	高齢社会について	高齢者の定義、高齢社会になった背景、高齢化率の変化
4回	高齢社会について	高齢社会となった日本の現状について、社会施策について
5回	高齢期に多い疾患について	高齢期の課題、高齢期に多い疾患について
6回	高齢期に多い疾患について	高齢期の課題、高齢期に多い疾患について
7回	フレイル、サルコペニア	フレイル、サルコペニアの定義と高齢者の体力測定
8回	フレイル、サルコペニア	フレイル、サルコペニアの定義と高齢者の体力測定
9回	高齢期の作業療法	高齢期作業療法の実践「作業療法の過程」、心理・行動・環境面からのアプローチ
10回	高齢期の作業療法	高齢期作業療法の実践「作業療法の過程」、心理・行動・環境面からのアプローチ
11回	高齢期の作業療法	「評価法」「目標設定と治療計画」
12回	高齢期の作業療法	「評価法」「目標設定と治療計画」
13回	認知症への作業療法	認知症の基礎知識（中核症状とB P S D）
14回	認知症への作業療法	認知症の基礎知識（中核症状とB P S D）
15回	認知症への作業療法	認知症の基礎知識（タイプ別認知症の特徴）
16回	認知症への作業療法	認知症の基礎知識（タイプ別認知症の特徴）
17回	認知症への作業療法	作業療法評価（検査と観察）
18回	認知症への作業療法	作業療法評価（検査と観察）
19回	認知症への作業療法	作業療法評価（ICF）
20回	認知症への作業療法	作業療法評価（ICF）
21回	認知症への作業療法	作業療法と認知症ケアの実践
22回	認知症への作業療法	作業療法と認知症ケアの実践
23回	認知症への作業療法	作業療法と認知症ケアの実践（グループワーク）
24回	認知症への作業療法	作業療法と認知症ケアの実践（グループワーク）
25回	高齢者作業療法	レクリエーションの意義と適応について テーマの決定
26回	高齢者作業療法	レクリエーションの意義と適応について テーマの決定
27回	高齢者作業療法	アクティビティの意義と適応について テーマの決定
28回	高齢者作業療法	アクティビティの意義と適応について テーマの決定
29回	高齢者作業療法	アクティビティの意義と適応について テーマの決定
30回	高齢者作業療法	アクティビティの意義と適応について テーマの決定

成績評価	課題20% 定期試験80%	受講上のルール・留意点	課題評価はグループ演習での取り組み姿勢、発表内容进行评估する。
------	------------------	-------------	---------------------------------

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは全体に実施する

	書名	著書名	出版社名
教科書	高齢期作業療法学 第4版 作業療法学全書 第4巻 身体障害 標準作業療法学 作業療法評価学	監修 松房 利憲	医学書院
		菅原 洋子 編著	協同医書出版
		能登真一 他 編集	医学書院
参考書	認知症の作業療法 ソーシャルインクルージョンをめざして	小川敬之	医歯薬出版
オフィスアワー	水曜日以外、メールの場合は随時		

作業療法学科 昼 間 部			
科 目	日常生活活動学演習	単位・時間数	1単位・45時間
担当講師	五十嵐千代子	学 年	3年生 前期
実績経験	資格	作業療法士として病院勤務などの実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う	
	作業療法士		

授業の位置づけ	作業療法の対象となる方々それぞれが求める生活像に対して、疾患の特徴や予後を踏まえ、体の機能を改善させるだけではなく、残っている機能を活用したり方法を変えることにより「できることを」増やしていくことが職業としての専門域である。「脳血管疾患（片麻痺）」「頸髄損傷（四肢麻痺）」「嚥下障害（食べることの障害）」を通して、不自由になった生活動作を改善させる方法や維持する方法などを学ぶ。		
到達目標	・それぞれの心身機能の問題と日常生活障害について説明することができる。 ・日常生活活動の評価の方法や、疾患によっては評価の時間帯などを説明することができる。 ・残存機能の活かし方を説明できる。 ・日常生活の改善・維持の方法を説明できる。 ・リスク管理について説明することができる。		
授業形態	講義・演習	基本は対面授業。状況によって遠隔授業。	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	ADLの評価方法の基礎	オリエンテーション／ADL評価方法の基礎
2回	片麻痺	移乗の方法と動作観察方法
3回		移乗の動作分析
4回		移乗の動作分析／作業療法
5回		更衣の方法と動作観察方法
6回		更衣の動作分析
7回		更衣の動作分析／作業療法
8回		更衣の動作分析／作業療法
9回		片麻痺の起居動作
10回		片麻痺の食事，整容，入浴
11回	頸髄損傷	頸髄損傷のADL 起居，移動
12回		頸髄損傷のADL 食事，更衣，整容，排泄，入浴
13回		車椅子ユーザーと外出計画（バリアフリー情報の収集とルートなど決める）
14回		車椅子ユーザーと外出計画（バリアフリー情報の収集とルートなど決める）
15回		車椅子ユーザーと外出／計画に基づいて実施。バリアフリーの調査，援助の工夫。
16回		車椅子ユーザーと外出／計画に基づいて実施。バリアフリーの調査，援助の工夫。
17回		外出に基づくまとめ。
18回		発表とフィードバック。アンケート。
19回	FIM	FIMの使用方法
20回		FIMを用いた演習
21回	嚥下障害	嚥下障害の病態像
22回		嚥下障害の評価と作業療法
23回		喀痰吸引

成績評価	○定期試験 100点満点 ○授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない	受講上のルール・留意点	・演習ではジャージなどの動きやすい格好で参加するよう指示がありますので従ってください。 ・スマートフォン、PCなどは指示のあったときのみ使用してください。
------	---	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックは全体に実施する

	書名	著書名	出版社名
教科書	・ADLとその周辺 評価・指導・介助の実際 ・作業療法学全書 作業治療学1 身体障害	伊藤利之 鎌倉矩子 監修 菅原洋子 編集	医学書院 協同医書
オフィスアワー	平日 9時～17時（木曜日以外） 教員室 メールでの連絡は常に受け付けますが、返信には時間を要する場合あり。		

作業療法学科 昼間部			
科 目	高次脳機能障害治療学	単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	伴野 麻矢	学 年	3年生 前期
実績経験	資格	高次脳機能障害者の通所グループや個別訓練を担当していました。そこでの臨床経験を活かして講義を行います。	
	作業療法士		

授業の位置づけ	『高次脳機能』とは人が毎日の生活を営む上で欠かせないコミュニケーションや様々な行為の土台になる機能です。人間がその人らしい生活を送るためにとても必要な機能です。脳血管疾患や頭部外傷などで脳に損傷を負ってしまった場合、今までのその人らしさを失い、家族や周りの人たちはどう関われば良いのか困惑し、生活のしづらさを抱えてしまいます。 この授業では高次脳機能障害の障害特性を学び、その評価方法や社会生活においてどのような支障があり、それに対してどのような関わりが必要かを実例を交えながら講義を行います。高次脳機能障害にはたくさんの種類があり、障害特性を捉えにくい、イメージしづらい障害もありますが、講義内でなるべく多くのビデオや私が臨床で診てきた高次脳機能障害の方々の話を交えて皆さんがイメージしやすいよう解説します。自分の生活に置き換えて高次脳機能を捉えていくことも大切です。障害特性をイメージしながら受講して欲しいと思います。		
到達目標	①高次脳機能に関わる脳の局在を説明できる。 ②それぞれの脳の局在が障害されたときどのような障害がでるか、障害名と障害特性を説明できる ②高次脳機能障害の評価概要を理解し、病態に応じた評価を選定、実施ができる。 ③病態・障害別の病態が生活上で及ぼす影響、問題を理解し、介入方法を説明できる。		
授業形態	講義・演習		

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	高次脳機能障害の基礎知識	脳の機能とは何か/高次脳障害とは何か/高次脳機能のプロセス
2回		脳の局在と機能/高次脳機能障害の病態と原因
3回	優位半球損傷による高次脳機能障害	言語野の機能/失語症とは/失語症の分類と病態に応じた評価
4回		失語症の病態に応じた介入
5回		失行症とは/失行症の分類と病態に応じた評価
6回		失行症の病態に応じた介入
7回	認知（対象認知）の障害による高次脳機能障害	失認の分類 ①視覚性の認知とは/視覚失認の分類と病態 視覚失認の病態に応じた評価と介入/バリント症候群について
8回		②身体に関する失認/身体失認の分類と病態/身体失認の病態に応じた評価と介入/③病態失認の病態と評価/介入
9回	視空間認知の障害による高次脳機能障害	視空間失認の分類/半側空間無視の病態
10回		半側空間無視の評価（代表的な検査バッテリー）の紹介と介入/地誌的障害の病態と評価・介入
11回	注意機能の障害による高次脳機能障害	注意機能とは/注意の段階による分類/注意障害の病態に応じた評価（代表的なバッテリー）と介入
12回	記憶の障害による高次脳機能障害	記憶のメカニズム/記憶の構造/記憶の分類
13回		記憶障害の病態と評価・介入
14回	前頭葉機能の障害による高次脳機能障害	前頭葉機能について/遂行機能障害の病態/評価と介入
15回		社会的行動障害の病態/評価と介入 代表的な検査バッテリーの紹介

成績評価	定期試験	受講上のルール・留意点	※各項目でプリントを配布する。必ず持参すること
------	------	-------------	-------------------------

課題やレポートに関するフィードバック

	書名	著書名	出版社名
教科書	標準作業療法学 高次脳機能作業療法学	能登真一	医学書院
参考書	高次脳機能障害ポケットマニュアル第3版	原寛美	医歯薬出版
オフィスアワー	水曜日を除く平日（不在の場合はメールで相談してください）		

科 目	職業関連活動学		単位・時間数	1単位・30時間
担当講師	柴田 美雅		学 年	3年生 前期
実績経験	資 格	【作業療法実務経験】13年 ・急性期・回復期・外来等 医療機関および老人保健施設での臨床経験 ・通所リハビリテーション事業所での、役職および管理経験 【養成校教育経験】 7年 ・医療福祉教育・管理修士		
	認定作業療法士 介護支援専門員			

授業の 位置づけ	【OTモデルコアカリ】 F-3-2		就労支援領域における作業療法
	この授業では、人にとって『職業』とはどのような意味があるのかを考え、職業リハビリテーション概念、理論を知り、作業療法士が障害者の就労にどのような役割をもち、どのような関わりができるかを学ぶことを目的とします。 障害者が就労するための支援を考えたとき、作業療法士自身が「働くことの意味」を考え、職業選択の 基準、病気や障害を抱えての就職活動をするときの思いをきちんと受け止め、就労支援に関わる理論背景を持って対応することが必要となります。作業療法士の業務の中で職業関連活動は、病気や疾患、 障害を抱えた人の生活の質、人生の質に大きく関わる大切な仕事です。そのためにも、障害者の就労に関する理論、制度などの知識を習得し、症例を通して講義および演習による学習を進めていきましょう。		
到達目標	①職業の定義とキャリア発達について説明できる ②職業支援に関する理論について説明できる ③障害者の就労制度について説明できる ④就労支援における作業療法評価、作業療法士の役割、関連機関との連携を理解し説明できる ⑤障害ごとの作業療法について説明できる（精神障害・身体障害・高次脳機能障害・知的障害・発達障害）		
授業形態	講義・演習		対面授業

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	人と職業	職業の定義・分類、職業の意味と構成要素、働くことの二面性
2回	職業リハビリテーション活動の概念	ニーズ、役割、サービスや支援の戦略、役割の代替
3回	就労支援に関する理論	欲求階層モデル、職業的発達など
4回	障害者と職業①	キャリア発達の視点、障害者雇用の現状
5回	障害者と職業②	障害者の就労制度
6回	職業関連活動における作業療法①	就労支援における作業療法の役割、関連職種との連携
7回	職業関連活動における作業療法②	作業療法評価過程
8回	職業関連活動における作業療法③	作業療法治療過程
9回	障害別就労支援の実際	事例学習に向けた疾患別障害特性について：グループワーク学習
10回	障害別就労支援の実例 1	精神障害の就労事例
11回	障害別就労支援の実例 2	身体障害の就労事例
12回	障害別就労支援の実例 3	高次脳機能障害の就労事例
13回	障害別就労支援の実例 4	知的障害の就労事例
14回	まとめ①	国家試験過去問と学習内容の確認：グループワーク調べ学習
15回	まとめ②	国家試験過去問と学習内容の確認：グループワーク発表

成績評価	●授業態度：20％ （提出期限厳守・課題の取組み等） ●グループワーク課題：20％ （課題内容やまとめ方の工夫等） ●定期試験：60％ 上記を総合評価とする	受講上のルール 留意点	疾患別の病態や障害特性を理解した上で、就労を捉えていくことがとても大切です。 事前の学習として、疾患特性などについて予習をし授業に臨んで下さい。
------	---	----------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
課題などのフィードバックは、グループおよび必要に応じて全体に行う。個別に希望する場合は個人で申し出ること。

	書名	著書名		出版社名
教科書	作業療法学全書第12巻 職業関連活動 作業療法技術学4	平賀昭信・岩瀬義昭 日本作業療法士協会	編集 監修	協同医書出版
参考書	キャリア支援に基づく職業リハビリテーションカウンセリング ー理論と実際ー	松為 信雄		ジアース教育新社
オフィスアワー	毎週金曜を除いて適宜 不在時はメール等で対応			

		作業療法学科 昼間部	
科 目	作業療法総合演習Ⅱ	単位・時間数	2単位・60時間
担当講師	作業療法学科 教員	学 年	3年生 後期
実績経験	資格	各分野担当の教員 作業療法士として医療・療養・介護・療育施設にて治療を行ってきた実務経験を活かし、実例を交えながら講義・演習を行う。	
	作業療法士		

授業の位置づけ	【OTモデルコアカリ】 A-2: 課題解決能力と学ぶ姿勢 F-1,-2: 作業療法実践に必要な知識、評価学、治療学		
	臨床実習Ⅰの後学習および臨床実習Ⅱの前学習として、作業療法専門科目の作業療法評価学から治療学に跨ぐ位置づけとする。 1)身体障害領域 2)老年期障害領域 3)発達障害領域 4)精神障害領域 各領域における、代表的な疾患に対する、臨床技能および臨床思考過程(情報収集から作業療法評価、検査測定、全体像のまとめ、および目標設定立案を踏まえて、作業療法プログラム立案まで)を修得することがねらいである。 また、作業療法臨床セミナーⅠで修得した内容を踏まえて、MTDLPを用いた臨床思考過程の追学習とする。		
到達目標	- 臨床実習Ⅰの到達目標を基底とし、作業療法プロセスについて、情報を統合し、自分の考えをわかりやすく表現できる。 - 必要な課題を自ら発見し、重要性・必要性と照らし合わせて、具体的な方法で問題解決が出来るようになる。 - 作業療法評価および治療に関連する臨床技能について、各領域における代表的な臨床技能が実施できる。		
授業形態	講義・演習	対面	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	臨床思考過程学習①	臨床実習Ⅱ前学習:MTDLPアセスメント演習シート、課題分析シートの作成
2回	臨床思考過程学習②	臨床実習Ⅱ前学習:MTDLPアセスメント演習シート、課題分析シートの作成
3回	臨床思考過程学習③	臨床実習Ⅱ前学習:MTDLPプラン演習シート
4回	臨床思考過程学習④	臨床実習Ⅱ前学習:発表
5回	臨床思考過程学習⑤	臨床実習Ⅱ前学習:発表
6回	臨床思考過程学習⑥	臨床実習Ⅱ前学習:発表
7回	身体障害領域①	情報収集、面接・観察
8回	身体障害領域②	検査・測定
9回	身体障害領域③	全体像のまとめ
10回	身体障害領域④	目標設定
11回	身体障害領域⑤	治療立案・再評価
12回	身体障害領域⑥	考察・まとめ
13回	老年期障害領域①	情報収集、面接・観察
14回	老年期障害領域②	検査・測定
15回	老年期障害領域③	全体像のまとめ
16回	老年期障害領域④	目標設定
17回	老年期障害領域⑤	治療立案・再評価
18回	老年期障害領域⑥	考察・まとめ
19回	発達障害領域①	情報収集、面接・観察
20回	発達障害領域②	検査・測定
21回	発達障害領域③	治療立案・再評価
22回	発達障害領域④	考察・まとめ
23回	発達障害領域⑤	情報収集、面接・観察
24回	発達障害領域⑥	検査・測定
25回	精神障害領域①	治療立案・再評価
26回	精神障害領域②	考察・まとめ
27回	精神障害領域③	情報収集、面接・観察
28回	精神障害領域④	検査・測定
29回	精神障害領域⑤	治療立案・再評価
30回	精神障害領域⑥	考察・まとめ

成績評価	各領域課題提出 40％ (1領域 10点) 各領域課題 60％ (1領域 15点)	受講上のルール・留意点	提出課題は必要内容を記載して、提出期限内に提出すること。 必要な学習資料は、各自用意をすること。また、各担当領域について、服装や教科書等は教員の指示に従うこと。
課題やレポートに関するフィードバック			

作業療法 学科		昼間 部	
科 目	臨床実習 I	単位・時間数	6単位・270時間
担当講師	作業療法学科教員	学 年	3年生 後期
実績経験	資格	評価実習につき、厚生労働省指定の臨床実習指導者講習会等を受講した臨床実習指導者による、臨地指導。	
	作業療法士		

授業の位置づけ	臨床実習 I は、臨床実習指導者のもとで、作業療法の評価の修得と実践を行う 1. 各臨床実習施設における作業療法および作業療法士の役割と機能を学ぶ 2. 臨床実習指導者の指導、援助のもとに、実習生が対象児・者を全体的に把握する 3. 2. の評価に基づき実習生は、臨床実習指導者の指導・援助のもとに評価のまとめを行い、作業療法目標を設定する 4. 3 においてはMTDLPの臨床思考過程をもとにまとめることができる 5. 作業療法士としての基本的態度を習得し、専門職としての能力の向上・充実をはかる		
到達目標	今までの学内での講義・演習、および臨床実習（早期見学実習：1年次、見学実習：2年次）で修得した、知識、コミュニケーション能力、作業療法の検査、臨床的推論・思考をもとに、指導者の指導・援助のもと、対象児・者への作業療法検査・評価が実施できることを目標とする。 ①作業療法士としての礼儀・礼節・接遇が体现でき、基本的なルールを遵守することができる。 ②実習に意欲的に取り組むことが出来る ③作業療法の業務を理解し、対象者に対してリスク管理を行うことが出来る ④作業療法評価の計画・準備を行うことができる ⑤対象者の観察・検査結果から、全体像をまとめることが出来る ⑥必要な事項を選択肢、記録を行うことが出来る ⑦状況に応じて、指導者やスタッフに連絡・報告・相談ができる。		
授業形態	実習	対面授業	

授業計画

実習前・臨床実習・実習後の学習上の注意点		
実習前 ①実習担当者と面談し、実習の実施方法を確認し、効果的な実習を実施できるように準備する。 ②各授業の指定教科書等・講義資料のポイント、臨床実習前講義で実施した内容は実習前に整理し、確認すること。 ③コミュニケーション技能、実技練習を入念に実施し、実習に備えること。 臨床実習 ①臨床現場では作業療法分野だけでなく、多職種連携を常に思い浮かべて、広範囲の知識と技術を体系的に学んでいく。 ②臨床現場では積極的に様々なことを体験、見学するように努めること。 ③習得した知識は毎日書類（ポートフォリオ）として記録すること。 実習後 ①実習中に学んだ点を整理し、発表の準備を行うこと。 ②必要に応じて実習担当者と面談し、実習の総括を実施すること。 ③実習の成果を書類にまとめ、提出すること。		
回数	項目	講義内容
第1週	施設の概要を知る 施設における作業療法の役割を知る 対象者との初回面接 対象者の観察・検査・評価	施設及び作業療法室についてのオリエンテーションを受け、対象児・者の観察、作業療法の用い方、道具などに触れる。対象児・者の協力を得て、検査・評価の実践を行う。
第2週	対象者の観察・検査・評価	臨床実習指導者の指導の下で、対象児・者の協力を得て、作業療法検査・評価の実践を行う。必要な記録を残す。
第3週	対象者の評価及びまとめ リハビリテーションおよび作業療法目標の設定 臨床実習指導者からのフィードバック	臨床実習指導者のもとで、対象児・者の協力を得て観察・検査・評価の実践をし、情報の整理、統合、解釈を行い、リハビリテーションおよび作業療法目標の設定を試みる。必要な記録を残す。

成績評価	実習地評価、課題・提出物 もとに総合的に判断する。	受講上のルール・留意 点	原則として遅刻、早退、欠席は認めない。
------	------------------------------	-----------------	---------------------

課題やレポートに関するフィードバック
実習地での課題やレポートのフィードバックは実習地で実施する。また、実習全体に対する相談およびフィードバックは、「実習中の電話やメール」「臨床実習地訪問の面談時」「実習終了後」に担当教員からも行う。

書名		著書名	出版社名
教科書	臨床実習の手引き	学校資料	
参考書			
オフィスアワー	担当教員への連絡は電話またはメールで随時可能		

科 目	作業療法特論	単位・時間数	12単位・360時間
担当講師	作業療法学科教員	学 年	4年生 後期
実績経験	資格	作業療法士として病院勤務などの実務経験を活かし、実例を交えながら講義を行う 各領域の専門知識を活かし、学生との双方向での教育を行う。	
	作業療法士		

授業の 位置づけ	基礎分野・専門基礎分野・専門分野の1年～4年前期までの学習を振り返り、作業療法実践のために必要な知識を再学習する。 臨床における実地的な知識をグループワークなどを通して習得する		
到達目標	解剖学・生理学・運動学・心理学などの基礎分野の知識を習得する 各臨床医学を含む専門基礎分野の知識を習得する 作業療法の専門分野の知識を各領域ごとに習得する		
授業形態	講義・演習	対面授業	

授業計画

回数	項目	講義内容
1期	専門基礎分野	各臨床医学などの専門基礎分野について（講義・グループワーク）
2期	専門分野	評価学・治療学などの作業療法専門分野について（講義・グループワーク）
3期	基礎分野	解剖学・生理学・運動学・心理学などの基礎分野について（講義・グループワーク）

成績評価	各期での試験100%	受講上のルール・留意点	グループで行う演習に関して、必ず役割を持ち、傍観者にならないこと。 評価には授業全体の2／3の出席が必要
------	------------	-------------	---

課題やレポートに関するフィードバック
随時F Bを行う。

	書名	著書名	出版社名
教科書			
参考書	講義開始時に説明		
オフィスアワー	随時		

		作業療法学科	昼間部
科 目	作業療法臨床セミナーⅡ	単位・時間数	2単位・60時間
担当講師	作業療法学科 教員	学 年	4年生 通年
実績経験	資格	分野担当ごとの各教員 作業療法士として医療・療養・介護・療育施設にて治療を行ってきた実務経験を活かし、実例を交えながら講義・演習を行う。	
	作業療法士		

授業の位置づけ	実習直前に準備教育を行い、臨床能力の向上を目指す。 実習で経験してきたことを振り返り、次期の実習に活かす。 実習終了後には実習で経験してきたことを振り返り、知識と経験の定着を促す。 具体的には、臨床実習Ⅱの終了後、事例報告を中心とした相互学習を通じて、学習経験を共有する。		
到達目標	臨床実習で得たOTの臨床思考を基に事例報告、討論が行える。臨床場面での応用を含めた展開方法などについても知る。		
授業形態	演習	対面	

授業計画		
回数	項目	講義内容
1回	オリエンテーション	作業療法臨床セミナーⅡの全体説明／レジュメのまとめ方① 情報収集
2回	事例のまとめ	レジュメのまとめ方② 作用療法評価(面接、観察、検査・測定) 全体像のまとめ
3回	事例のまとめ	レジュメのまとめ方③ 目標設定 考察
4回	事例のまとめ	レジュメのまとめ方④ 治療プログラム 結果 再評価 考察
5回	事例発表	各分野症例発表(臨床思考過程に基づいて)
6回	事例発表	各分野症例発表(臨床思考過程に基づいて)
7回	事例発表	各分野症例発表(臨床思考過程に基づいて)
8回	事例発表	各分野症例発表(臨床思考過程に基づいて)
9回	事例発表	各分野症例発表(臨床思考過程に基づいて)
10回	事例発表	各分野症例発表(臨床思考過程に基づいて)
11回	事例発表	各分野症例発表(臨床思考過程に基づいて)
12回	事例発表	各分野症例発表(臨床思考過程に基づいて)
13回	事例発表	各分野症例発表(臨床思考過程に基づいて)
14回	事例発表	各分野症例発表(臨床思考過程に基づいて)
15回	事例発表	レジュメのまとめ方① 情報収集
16回	事例発表	レジュメのまとめ方② 作用療法評価(面接、観察、検査・測定) 全体像のまとめ
17回	事例発表	レジュメのまとめ方③ 目標設定 考察
18回	事例発表	レジュメのまとめ方④ 治療プログラム 結果 再評価 考察
19回	事例発表	各分野症例発表(臨床思考過程に基づいて)
20回	事例発表	各分野症例発表(臨床思考過程に基づいて)
21回	事例発表	各分野症例発表(臨床思考過程に基づいて)
22回	事例発表	各分野症例発表(臨床思考過程に基づいて)
23回	事例発表	各分野症例発表(臨床思考過程に基づいて)
24回	事例発表	各分野症例発表(臨床思考過程に基づいて)
25回	事例発表	各分野症例発表(臨床思考過程に基づいて)
26回	事例発表	各分野症例発表(臨床思考過程に基づいて)
27回	事例発表	各分野症例発表(臨床思考過程に基づいて)
28回	事例発表	各分野症例発表(臨床思考過程に基づいて)
29回	事例発表	各分野症例発表(臨床思考過程に基づいて)
30回	まとめ	全体の振り返り、まとめ

成績評価	提出課題 50% 事例報告評価 50%	受講上のルール・留意点	提出課題は必要内容を記載して、提出期限内に提出すること。 授業時間数の3分の1以上欠席した者には、単位を与えない。
------	------------------------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
フィードバックはクラス全体に実施する。学生的事例報告を踏まえて、適宜フィードバックを行う。

科 目	地域作業療法学Ⅱ		単位・時間数	2単位・30時間
担当講師	栗原 実里		学 年	4年生 後期
実績経験	資格	資格：作業療法士 病院勤務、訪問リハビリテーション、訪問看護でのリハビリテーションを経験。 実務経験を交え講義を行う。		

授業の位置づけ	地域で活躍されてる各分野の作業療法士より、地域で働く作業療法士の実際を聞き、地域リハビリテーションについてを学ぶ。地域リハビリテーションとは障害を持つ子供、成人、高齢者やその家族が住み慣れたところで、安全に生き生きと生活できるようにサポートすることであり、地域で求められる作業療法士の役割や業務内容について症例を交えた講義で学ぶ。		
到達目標	1. 地域作業療法および地域のリハビリテーションについて理解する 2. 地域における作業療法の役割について理解する 3. 地域における多職種連携について理解する		
授業形態	講義	対面と遠隔授業の併用	

授業計画

回数	項目	講義内容
1回	地域作業療法概論	地域リハビリテーション、地域作業療法について
2回	訪問リハビリテーション①	訪問リハビリテーションが地域リハビリテーションで担う役割について
3回	訪問リハビリテーション②	訪問リハビリテーションの業務や作業療法士の役割について
4回	通所介護施設①	通所介護施設が地域リハビリテーションで担う役割について
5回	通所介護施設②	通所介護施設の業務や作業療法士の役割について
6回	就労支援施設①	就労支援施設が地域リハビリテーションで担う役割について
7回	就労支援施設②	就労支援施設の業務や作業療法士の役割について
8回	障害者支援施設①	障害者支援施設が地域リハビリテーションで担う役割について
9回	障害者支援施設②	障害者支援施設の業務や作業療法士の役割について
10回	発達障害支援①	発達障害者支援施設が地域リハビリテーションで担う役割について
11回	発達障害支援②	発達障害者支援施設の業務や作業療法士の役割について
12回	精神障害者支援①	精神障害者支援施設が地域リハビリテーションで担う役割について
13回	精神障害者支援②	精神障害者支援施設の業務や作業療法士の役割について
14回	高次脳機能障害者支援①	高次脳機能障害者支援施設が地域リハビリテーションで担う役割について
15回	高次脳機能障害者支援②	高次脳機能障害者支援施設の業務や作業療法士の役割について

成績評価	態度25% 課題50%	受講上のルール・留意点	毎回の講義毎にgoogleformで課題を提示する。 課題内容は、講義の感想と、臨床で働く上で自身の課題と目標についてを200字以内にまとめるものとする。
------	----------------	-------------	--

課題やレポートに関するフィードバック
個別に行う

	書名	著書名	出版社名
教科書	なし		
参考書	なし		
オフィスアワー	火・土・日曜日以外、午後17時まで。 それ以外はメールで相談。		

		作業療法 学科	昼間 部
科 目	臨床実習Ⅱ	単位・時間数	16単位・720時間
担当講師	作業療法学科教員	学 年	4年生 通年

授業の位置づけ	臨床実習Ⅱは、臨床実習指導者のもとで、職業人としての総合的、かつ、作業療法の基本的技能の取得と実践を行う 1. 臨床実習指導者の指導・援助を受けながら、対象児・者の評価、作業療法の計画・実施、その記録報告、再評価という一貫した作業療法のプロセスを体験・習得する。 2. 作業療法プロセスについてはMTDLPを用いてまとめる。 3. 作業療法士としての、管理・運営業務を学ぶ 4. 他職種との協働（チーム医療）を体験・習得する。 5. 対象児・者に対する、総合リハビリテーションサービスの中での、作業療法の意義を考え、作業療法士の役割と機能を学ぶ		
到達目標	今までの学内での講義・演習、および臨床実習（早期見学実習：1年次、見学実習：2年次、臨床実習Ⅰ：3年次）で修得した、知識、コミュニケーション能力、作業療法の検査、臨床的推論・思考をもとに、指導者の指導・援助のもと、対象児・者への評価、作業療法の計画・実施、その記録報告、再評価という一貫した作業療法のプロセスを体験・習得することを目標とする。 ①作業療法士としての礼儀・礼節・接遇が体现でき、基本的なルールを遵守することができる。 ②実習に意欲的に取り組むことが出来る ③作業療法の業務を理解し、対象者に対してリスク管理を行うことが出来る ④作業療法評価の計画・準備を行うことができる ⑤対象児・者の観察・検査結果から、全体像をまとめることが出来る ⑥対象児・者の評価結果をもとに、作業療法計画の立案を行うことが出来る ⑦作業療法計画を臨床実習指導者の指導・援助のもとに体験・実施することが出来る ⑧必要な事項を選択肢、記録を行うことが出来る ⑨状況に応じて、指導者やスタッフに連絡・報告・相談ができる。		
授業形態	講義・演習・実習	対面授業	

授業計画

実習前・臨床実習・実習後の学習上の注意点		
実習前 ①実習担当者と面談し、実習の実施方法を確認し、効果的な実習を実施できるように準備する。 ②各授業の指定教科書等・講義資料のポイント、臨床実習前講義で実施した内容は実習前に整理し、確認すること。 ③コミュニケーション技能、実技練習を入念に実施し、実習に備えること。 臨床実習 ①臨床現場では作業療法分野だけでなく、多職種連携を常に思い浮かべて、広範囲の知識と技術を体系的に学んでいく。 ②臨床現場では積極的に様々なことを体験、見学するように努めること。 ③習得した知識は毎日書類（ポートフォリオ）として記録すること。 実習後 ①実習中に学んだ点を整理し、発表の準備を行うこと。 ②必要に応じて実習担当者と面談し、実習の総括を実施すること。 ③実習の成果を書類にまとめ（MTDLP各種シートを活用）、提出すること。		
回数	項目	講義内容
第1～2週	施設の概要を知る 施設における作業療法の役割を知る 対象者との初回面接 対象者の観察・検査・評価	施設及び作業療法室についてのオリエンテーションを受け、対象児・者の観察、作業療法の用い方、道具などに触れる。対象児・者の協力を得て、検査・評価の実践を行う。必要な記録を残す。
第3～4週	治療計画立案・実施	臨床実習指導者の指導・援助の下で、評価結果から作業療法計画を立案する。必要な記録をその他の課題の遂行を行う。
第5～6週	作業療法実施・再評価	臨床実習指導者の指導の下で、対象児・者の協力を得て、治療の実践、観察、作業面接、治療計画の修正等を行う。一定期間後に再評価を行い、治療経過をまとめて考察する。記録およびその他の課題の遂行を行う。
第7～8週	再評価 治療経過のまとめおよび考察 今後の課題のまとめ・引継ぎ 実習終了の報告・フィードバック 事務手続き	臨床実習指導者の下で、治療経過をまとめて考察する。ケーススタディの発表。記録その他の課題の遂行を行う。必要な記録を残す。

成績評価	実習地評価、課題・提出物もとに総合的に判断する。	受講上のルール・留意点	原則として遅刻、早退、欠席は認めない。
------	--------------------------	-------------	---------------------

課題やレポートに関するフィードバック
実習地での課題やレポートのフィードバックは実習地で実施する。また、実習全体に対する相談およびフィードバックは、「実習中の電話やメール」「臨床実習地訪問の面談時」「実習終了後」に担当教員からも行う。

	書名	著書名	出版社名
教科書	臨床実習の手引き	学校資料	
参考書			
オフィスアワー	担当教員への連絡は電話またはメールで随時可能		